

# ＜健康食品等に関する日本語記事情報 統合版＞

2021 年後半（7 月号 No.1～12 月号 No.2）

本資料は、公益財団法人日本健康・栄養食品協会 学術情報部が、概ね隔週で会員向けに配信している「健康食品等に関する日本語記事情報」の 2021 年 7 月から 12 月配信分を統合したものです。

公益財団法人日本健康・栄養食品協会 <https://www.jhnfa.org/>

内容についてのお問合せ：学術情報部 E-mail：[gakuj@jhnfa.org](mailto:gakuj@jhnfa.org)

## 健康食品等に関する 日本語記事情報（2021 年 7 月号 No.1）

（7 月 6 日 14 時締め）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

### ■ 安全性関連情報

## 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年7月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2358>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2356>

素材情報データベース（新規） まだ掲載されていません

2021年6月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2342>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2343>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2346>

## 食品安全情報（化学物質）No. 13/ 2021（2021. 06. 23）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202113c.pdf>

（別添） <http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202113ca.pdf>

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## 熱処理食品の多い食事はラットの慢性腎臓病リスクを高める

リンク DE ダイエット – 2021/6/25（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.6.25, EurekAlert より

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75440&lay=lay&Find.html>

食品製造中に熱処理されるとき形成される特定の化合物が慢性腎臓病などの病気のリスクを高めるようだ、という豪州モナシュ大学などによる動物実験の結果報告。-----

## **■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）**

### 消費者庁が新型コロナウイルスに対する予防効果を標ぼうする健康食品の表示に改善要請および消費者等へ注意喚起（210625）

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 - 2021/6/25

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4688.html>

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 食品衛生法施行規則の一部を改正する省令案に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2021/7/1

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495210123&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495210123&Mode=0)

**追記**：密封包装食品製造業の許可を不要としても問題ない食品の追加関連。粉末・顆粒、錠剤・カプセル等、サプリメントに多い形態が追加されています。

規則第 66 条の 10 に、玄米、精米、麦類、そばの実、コーヒー生豆、焙煎コーヒー豆、茶、焙煎麦、乾しいたけ、落花生（生鮮のもの及びゆでたものを除く。）、節類、削節類、焼きのり、乾燥パン粉、ゼラチン、焼ふ、**顆粒状の食品、粉末状の食品、粉末状の食品を圧縮成形した食品及び粉末状の食品をカプセルに入れた食品並びにこれらの食品を混合した食品**を追加する。

### 「添加物に関する食品健康影響評価指針（案）」に関する審議結果（案）についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2021/6/30

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=095210840&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=095210840&Mode=0)

## ■ 海外公的機関情報

以下の 4 件は食品安全委員会の食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の検索結果（7月1日朝実施）の中で目に付いたものです。

**見出しのクリックで内容をご覧ください。**

**1. 米国食品医薬品庁(FDA)、食品加工機器の金属炭化物(セラミックコーティング等)についての閾値規制免除を公表**

**13. 欧州食品安全機関(EFSA)、アトピー性皮膚炎発症リスク低減におけるホエイたん白質分離物及び濃縮物由来の特定のたん白質加水分解物から製造される乳児用調製乳の有効性に関する科学的意見書を公表**

## [21. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、グリーンキウイフルーツと正常な排便の維持に関する健康強調表示に関する意見書を公表](#)

## [47. ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、乳児用調製乳中のエルカ酸に由来する健康影響に関する意見書を公表](#)

以下の記事は、情報源のご意向で記事見出しと URL のみのご紹介となります。なお、同時配信の「英文記事情報」でも、簡単にご紹介しております。

### [欧州委、畜産業のケージ使用禁止を法制化すると表明](#)

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2021/7/2

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2021/07/d199e31440ea3387.html>

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

### [細胞再活性化にかかわる食品素材の注目トレンド](#)

ウェルネス総研オンラインレポート - 2021/6/28 <https://wellnesslab-report.jp/1256/>

人生 100 年時代、細胞レベルでエイジングを遅らせ、老化という病を予防しようとする食品素材の市場は、一気に加速化しています。日本では緩やかな右肩上がりですが、世界では目まぐるしい勢いで展開しているのです。これまでのエイジングに、どのような要素と視点を加えたら、世界のトップ企業が追い求める食品素材となるのでしょうか？

「細胞再活性化」をめぐる食品素材マーケットの海外と国内事情とのちがいを、動向やトレンド、展望について、グローバルニュートリショングループ代表の武田猛氏に伺いました。---

-----

### [国内外で臨床研究が進展、夢の若返り成分に膨らむ期待（特集／NMN）](#)

健康メディア.com - 2021/6/29 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15409](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15409)

中国や米国の富裕層を中心に人気を集め、日本でも徐々に注目を増している NMN。ビタミン B3 の一種で、生体内のサーチュイン遺伝子を活性化させ、老化を抑制することが示唆されている。国内外で、活発な研究が続けられ、昨年から今年にかけて、フレイル抑制やインスリンの働きを高める臨床データが登場。日本では、昨年 3 月に非医薬品リストに追加され、-----

## ■ 企業動向、注目ビジネス情報

### 人工知能(AI)で、食品と医薬品の相互作用を発見

@Press - 2021/6/29 <https://www.atpress.ne.jp/news/259910>

アイデアを生み出す AI を開発する Axelidea(アクセリディア)株式会社(所在地：東京都千代田区、代表取締役：西田 泰士)は、Axelidea ヘルスケアエンジン(食品・サプリメント×医薬品)をローンチいたします。

Axelidea ヘルスケアエンジン(食品・サプリメント×医薬品)は、膨大な学術論文データから、食品と医薬品の相互作用を見つけ出すことで、医療現場で生じ得る食事により薬物療法の有効性・安全性が損なわれる事態を回避するための情報源の提供に寄与します。-----

### プラントベースなど、海外トレンドを売場から発信（連載／自然食品店・オーガニック専門店の戦略）

健康メディア.com - 2021/7/2 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15413](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15413)

今年開店 59 周年を迎えるスーパーマーケット・ナショナル麻布（東京都港区）は、世界各国のオーガニック食品などを販売している。海外トレンドを取り入れた独自の売場づくりについて、副店長の岡部由衣氏に話を聞いた。-----

*以下の記事は、情報源のご意向で記事見出しと URL のみのご紹介となります。*

### 村田と帝人、そして UHA 味覚糖が「オーラルウェルネス共同プロジェクト」

「グミの咀嚼×抗菌マスク」でコロナ禍の“お口トラブル”を解決

Beyond Health - 2021/7/2 小口 正貴＝スプール

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00004/063000289/>

## ■ 消費者意識等の調査・分析

## 江崎グリコ、全国一斉「ロカボ」実態調査、2人に1人が「ロカボ」を認知も正しい理解率はわずか 14.8%

マイライフニュース - 2021/7/1 <https://www.mylifenews.net/data/2021/07/21148.html>

江崎グリコは、全国の20～60代4700名を対象に、初めて「全国一斉『ロカボ』実態調査」を実施した。その結果、2人に1人が「ロカボ」を認知も、正しい理解率はわずか14.8%だった。認知率No.1は「山形県」と判明、経験率No.1は「宮城県」と「島根県」だった。-----

## ■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

### ビートルート摂取後の口腔細菌の変化は健康な加齢を促進？

リンク DE ダイエット – 2021/6/23（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.6.23, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75393&-lay=lay&-Find.html>

ビートルートジュースを飲むと、より健康な血管と脳機能に関連する口腔細菌の混合が促進されるようだ、という英国エクセター大学からの研究報告。-----

### セレンは、肥満を予防しマウスの寿命を延長する？

リンク DE ダイエット – 2021/6/24（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.6.24, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75413&-lay=lay&-Find.html>

微量栄養素のセレンを食事に添加することで、マウスの肥満を防止し、代謝的有益性をもたらすことができるようだ、という米国オレントライヒ科学振興財団などからの研究報告。-----

### 食品着色料用の新しいナチュラルブルー

リンク DE ダイエット – 2021/6/28（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.6.28, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75457&-lay=lay&-Find.html>

自然で鮮やかな青色の食品着色料が得られるようになった、という米国カリフォルニア大学デイビス校などによる研究報告。-----

## 死亡率を予測する腸内細菌叢プロファイルを発見

リンク DE ダイエット – 2021/7/1 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.7.1, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75490&lay=lay&Find.html>

死亡率を予測できる腸内細菌を発見した、というフィンランド・トゥルク大学からの研究報告。そのための機械学習アルゴリズムを開発したという。-----

## 過剰な砂糖が仔マウスの学習障害の引き金に？

リンク DE ダイエット – 2021/7/1 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.7.1, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75489&lay=lay&Find.html>

砂糖（ショ糖）を過剰に摂取する子供は、成人として肥満、活動亢進、認知障害になるリスクが高くなるかもしれない。豪クイーンズランド工科大学による動物実験の結果から。---  
---

## 全てのたんぱく質が同じように作られているわけではない

リンク DE ダイエット – 2021/7/5 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.7.5, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75518&lay=lay&Find.html>

動物性たんぱく質は、植物性たんぱく質に比べて、全身の正味のたんぱく質バランス（同化作用）のより大きな増加をもたらすようだ、という米国アーカンソー大学からの研究報告。-----

## 第 6 回「クレアチン摂取による脳損傷、持久パフォーマンスへの効果」

スポーツ栄養 WEB - 2021/6/23 <https://sndj-web.jp/news/001373.php>

-----。



第6回目は前回に引き続き、クレアチン研究の第一人者であるラルフ・イェーガー博士らに、近年研究が進みつつある、クレアチン摂取による脳損傷や持久パフォーマンスへの効果をテーマに執筆いただきました。-----

## **日本の小学生のサプリメント摂取の実態調査報告 利用率は6.8%、スポーツ参加と強く関連**

スポーツ栄養 WEB - 2021/7/2 <https://sndj-web.jp/news/001392.php>

日本人小学生のサプリメント摂取状況の実態が明らかになった。サプリメント利用率は6.8%で、スポーツ実施頻度とサプリメント利用率の有意な関連も認められた。国立成育医療研究センターの石塚一枝氏ら、環境省「エコチル調査」（子どもの健康と環境に関する全国調査）の研究グループが行ったWeb調査の結果であり、このほど「Environmental Health and Preventive Medicine」に論文が掲載された。----

## **黄色のキウイフルーツがアスリートの抗酸化能を高める可能性 女子栄養大**

スポーツ栄養 WEB - 2021/7/5 <https://sndj-web.jp/news/001393.php>

キウイフルーツがアスリートの高強度トレーニングに伴う酸化ストレスを抑制するのに役立つ可能性が報告された。女子栄養大学栄養学部栄養生理学の上西一弘氏らの研究によるもので、「Sports」に論文が掲載された。なお、この研究では、黄色（サンゴールド）のキウイフルーツが用いられており、この‘色の違い’が重要なポイントのようだ。-----

## **毎日のタンパク質摂取量をわずかに増やすだけで除脂肪体重を増やせる 明治と宮地氏らの研究**

スポーツ栄養 WEB - 2021/7/6 <https://sndj-web.jp/news/001363.php>

総タンパク質摂取量が1.3g/kg/日以下の場合、毎日の摂取量が0.1g/kg/日増えるごとに除脂肪体重が数カ月で0.39kg増えるという有意な用量反応関係があることが、システマティックレビューとメタ解析の結果から明らかになった。-----

## **SLE モデルマウスの病態、魚油の主成分 EPA 経口摂取で改善一名大**

QLifePro 医療ニュース - 2021/6/29

<http://www.qlifepro.com/news/20210629/sle.html>

SLE の病態解明と治療法の開発は喫緊の課題



名古屋大学は6月16日、魚油の主成分であるエイコサペンタエン酸（EPA）の経口摂取が自己免疫疾患モデルマウスの病態を改善することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大環境医学研究所分子代謝医学分野／大学院医学系研究科免疫代謝学の菅波孝祥教授、伊藤綾香助教、小林アズサ大学院生を中心とする研究グループが、同大医学系研究科腎臓内科学等と共同で行ったもの。研究成果は、「Frontiers in Immunology」に掲載されている。-----

## こんにやく由来セラミドのヒト脳内アミロイドβ蓄積抑制効果を検証 アルツハイマー病などによる認知機能低下の抑制に期待！

—第75回日本栄養・食糧学会大会にて発表—

株式会社ダイセル - 2021/7/5 <https://www.daicel.com/news/assets/pdf/20210705.pdf>

株式会社ダイセル(本社：大阪市北区)は、北海道大学(北海道札幌市)および北海道情報大学(北海道江別市)との共同研究により、当社が開発した健康食品素材であるこんにやく由来グルコシルセラミドの摂取がヒト脳内アミロイドβ蓄積を予防し、アルツハイマー病などによる認知機能の低下を抑制・維持できる可能性があることを確認いたしました。なお、今回の研究成果は、2021年7月3日(土)～4日(日)に開催された「第75回日本栄養・食糧学会大会」(一般演題B-23)にて発表いたしました。-----

## ■ その他の注目研究・技術情報

### 食品中のポリフェノール成分含有量を簡便に測定する手法 芝浦工業大学が開発

大学ジャーナルオンライン - 2021/7/1 <https://univ-journal.jp/99956/>

### 寿命を制御する組織間相互作用 —神経と腸のコミュニケーションが寿命を延長させる—

理化学研究所 - 2021/7/5 [https://www.riken.jp/press/2021/20210705\\_1/index.html](https://www.riken.jp/press/2021/20210705_1/index.html)

理化学研究所(理研)生命機能科学研究センター老化分子生物学研究チームの宇野雅晴研究員、西田栄介チームリーダーらの共同研究チームは、線虫の寿命制御に関わる組織間相互作用が神経と腸の間で形成されるフィードバックループであることを発見しました。本研究成果は、神経系による老化速度の制御や、カロリー摂取と寿命制御の関係の解明に貢献すると期待できます。-----

## 作業記憶と意思決定が別々の神経経路で処理されていると判明、世界初 —京大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2021/6/25

<http://www.qlifepro.com/news/20210625/prefrontal-cortex.html>

霊長類の前頭前野とつながる回路と機能を同時に調べるためには、技術革新が必要だった

京都大学は6月24日、脳の司令塔である前頭前野が関わる「作業記憶」と「意思決定」の2つの脳機能は、前頭前野から脳深部に伸びる別々の神経経路で処理されていることを初めて明らかにしたと発表した。この研究は、同大霊長類研究所の高田昌彦教授、井上謙一助教、量子科学技術研究開発機構の南本敬史グループリーダー、小山佳研究員らの共同研究グループによるもの。研究成果は、「Science Advances」オンライン版に掲載されている。---

----

## 座位時間が長いほど死亡率上昇 運動量を増やしても抑制されない 京 都府立医科大

財経新聞 - 2021/6/28 <https://www.zaikei.co.jp/news/subcategory/83/>

京都府立医科大学の小山晃英助教らの研究グループは、生活習慣病予防対の基礎資料の提供を目的とした研究として、座っている時間と死亡率の関係を調べたところ、座っている時間が長いほど死亡率が増加するとの研究成果を発表した。-----

## 生活習慣などから5年以内の認知症発症リスク計算のWebアプリ カ ナダの病院など

財経新聞 - 2021/6/28 <https://www.zaikei.co.jp/article/20210628/627474.html>

## 肥満で薄毛が進むメカニズムを解明 東京医科歯科大ら

財経新聞 - 2021/6/28 <https://www.zaikei.co.jp/article/20210628/627535.html>

肥満と男性の脱毛症に関連があることは、これまでも言われていたが、その理由は明らかになっていなかった。東京医科歯科大学らの研究グループは24日、加齢や肥満が脱毛症を進行させるメカニズムを解明したと発表した。今後、脱毛症の予防や治療につながっていくことが期待される。-----

以上

## 健康食品等に関する 日本語記事情報 (2021年7月号 No.2)

(7月21日9時締め)

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財)日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

*なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。*

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年7月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2358>

素材情報データベース (更新) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2356>

素材情報データベース (新規) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2365>

2021年6月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2342>

素材情報データベース (更新) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2343>

素材情報データベース (新規) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2346>

● 「ゴボウ」 (210719)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4724.html>

- 「リポポリサッカライド (LPS) 、リポ多糖」 (210719)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4723.html>

## 食品安全情報（化学物質） No. 14/ 2021（2021. 07. 07）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202114c.pdf>

### 全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## 超加工食品と関連、炎症性腸疾患リスク

リンク DE ダイエット – 2021/7/19（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.7.19, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75675&-lay=lay&-Find.html>

市販の菓子類や炭酸飲料、調理済み食品などといった超加工食品の摂取量が多い人ほど、炎症性腸疾患（IBD）のリスクが高くなるという。カナダ・マクマスター大学などの研究。

-----

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

### 通信販売業者【株式会社 LIBELLA】に対する行政処分について

消費者庁 - 2021/7/16 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/024951/>

#### 関連情報:

### 消費者庁が特定商取引法に基づく行政処分を公表（210720）

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4725.html>

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 厚生省「自然に健康になれる持続可能な食環境づくりの推進に向けた検討会」報告書

スポーツ栄養 WEB - 2021/7/10 <https://sndj-web.jp/news/001398.php>

厚生労働省は6月23日、「自然に健康になれる持続可能な食環境づくりの推進に向けた検討会」（座長：武見ゆかり氏〈女子栄養大学大学院研究科長〉）の報告書を取りまとめ、30日に公表した。-----

## 農林水産研究イノベーション戦略 2021 「腸内細菌叢の健康機能解明」 「令和型医食同源」など

健康産業新聞 - 2021/7/16 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15453](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15453)

農林水産省は「農林水産研究イノベーション戦略 2021」を策定、重点分野に位置づけた「スマート農林水産業」「環境」「バイオ」の3分野で今後の研究開発の方向性を示した。日本の現状として、コロナ後に在宅時間が増える中、「より健康や食・栄養への意識の高まりが見られた」と指摘した。-----

### ■ 海外公的機関情報

*以下の6件は、2021年7月7日～20日に食品安全委員会の食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) にアクセスした際に、気になったものを選定しました。  
[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)*

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのトノサマバッタ\(Locusta migratoria\)に由来する凍結及び乾燥製剤形態の安全性を評価した科学的意見書を公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての化学合成カルシジオールー水和物の安全性を評価した科学的意見書を公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての3-フコシルラクトース\(3-Fucosyllactose\(3-FL\)\)の安全性を評価した科学的意見書を公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、第三国由来伝統食品としての Wolffia arrhiza and Wolffia globosa の生の植物体の通知に関するテクニカルレポートを公表](#)

[米国食品医薬品庁\(FDA\)、食品中のパーフルオロアルキル化合物及びポリフルオロアルキル化合物\(PFAS\)に関する最近の活動についての最新情報を公表](#)

[ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、食品中のパーフルオロアルキル化合物\(PFAS?\)へのばく露に関する意見書を公表](#)

*情報源のご意向により、見出しと URL のみのご紹介となります。*

[保健省がハーブなど植物由来の茶に関する新たな規制を発表（タイ）](#)

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2021/7/15

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2021/07/cf0cfe570a030be8.html>

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

[矢野経済研究所、国内のメディカル給食・在宅配食サービス市場の調査、2020年度は前年度比 100.6%の 2 兆 2894 億円に](#)

マイライフニュース - 2021/7/9

<https://www.mylifeneews.net/data/2021/07/2020100622894.html>

矢野経済研究所は、国内のメディカル給食・在宅配食サービス市場を調査し、セグメント別の動向、参入企業動向、将来展望を明らかにした。-----

[富士経済、国内の防災食品市場の調査、2020年は新型コロナで家庭備蓄の需要が増加し 2019年比 4.2%増の 224 億円](#)

マイライフニュース - 2021/7/11

<https://www.mylifeneews.net/data/2021/07/2020201942224.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、近年大規模な自然災害が相次いで発生していることから需要が増加している国内の防災食品市場を調査した。その結果を「2021年 防災食品のマーケット分析と将来性予測」にまとめた。-----

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）



## 「乳酸菌」、実績・予想で不動の1位 海外人気の「NMN」、大躍進でブレイク間近（人気受注素材ランキング（2021 上期／2021 下期予想）

健康産業新聞 - 2021/7/13 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15445](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15445)

本紙編集部では健康食品受託加工・製造企業を対象に、「今年上期の人気受注素材」と「今年下期の受注素材予想」について調査（複数回答）し、103社から回答を得た。その結果、「乳酸菌」が上期の受注実績、下期の受注予想ともに1位を獲得した。乳酸菌ブームに加えて、豊富なエビデンスからなる多彩な健康機能が知れ渡り、健食市場全体を牽引している。上期の受注実績素材では「NMN」が昨年調査から大躍進。-----

## 免疫、口腔ケア、肌の保湿など 多様な機能性で市場拡大（特集／殺菌乳酸菌）

健康産業新聞 - 2021/7/16 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15449](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15449)

加工特性の良さからサプリメントのみならず一般食品や外食産業にも採用が広がる殺菌乳酸菌（死菌）。機能性研究も進み、免疫への作用をはじめ、口腔ケア、肌の保湿、抗肥満、睡眠の質改善など研究成果は多岐にわたる。なかでも新型コロナウイルスの感染拡大によって免疫への関心がますます高まっており、殺菌乳酸菌への注目が集まっている。-----

## ■ 企業動向、注目ビジネス情報

### 凸版印刷、軟包装パッケージをWEBで受注する 「EASY ORDER PACK™」販売開始

デジタルプリントによる小ロット多品種生産で環境負荷も低減 形状と材質構成を豊富に取り揃えレトルト対応の製品もラインアップ

凸版印刷株式会社 - 2021/7/12

[https://www.toppan.co.jp/news/2021/07/newsrelease210712\\_1.html](https://www.toppan.co.jp/news/2021/07/newsrelease210712_1.html)

凸版印刷株式会社（本社：東京都文京区、代表取締役社長：磨 秀晴、以下 凸版印刷）は、軟包装分野で小ロット多品種生産に最適なパッケージを提供するトータルソリューション「トッパン FP（Flexible Packaging）デジタルソリューション」の提供を2016年4月より行っています。

このたび、最小ロット1,000枚からオリジナルパッケージのWEB注文が行える、WEB通販パッケージ印刷サービス「EASY ORDER PACK™（イージーオーダーパック）」を2021年7月12日（月）より日本国内に向けて販売開始します。-----



情報源のご意向により、見出しと URL のみのご紹介となります。

## ユーグレナ、マレーシアで採取した微細藻類コエラストルムとモノラフィジウムに、ブラックライト照射で抗酸化成分アスタキサンチンの蓄積促進を確認 アスタキサンチンの量産化などヘルスケア分野での応用に期待

日経バイオテック - 2021/7/12 <https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/release/21/07/12/11101/>

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### TPC マーケティングリサーチ、「シニア層が抱える食事の問題点と今後のニーズを探る」について調査、メニューに関する悩みを抱えていることが明らかに

マイライフニュース - 2021/7/11

<https://www.mylifenews.net/data/2021/07/tpc-440.html>

TPC マーケティングリサーチは、食事面・調理面・買い物面において何らかの悩みを抱える 60 代以上の男女 618 人を対象に、シニア層が抱える食事の問題点と今後のニーズについて調査を実施、その結果を発表した。-----

### マルコメ、「外出自粛期間中の食生活」に関するアンケート、4人に1人が食にまつわる社会問題に「罪悪感がある」と回答

マイライフニュース - 2021/7/15 <https://www.mylifenews.net/data/2021/07/41-1.html>

マルコメは、料理写真共有アプリの「SnapDish（スナップディッシュ）」を運営するヴァズと同社のギルトフリー商品のモニターキャンペーンを実施、参加者を対象にした「外出自粛期間中の食生活」に関するアンケートをまとめた。-----

### 矢野経済研究所、和洋菓子・デザート類の購入動向に関する消費者アンケート調査、購入頻度はコロナ禍前と変わらないという回答が7~8割を占める

マイライフニュース - 2021/7/15 <https://www.mylifenews.net/data/2021/07/78.html>

矢野経済研究所は、コロナ禍における、和菓子、洋菓子、デザート類の購入動向の変化を調査する消費者アンケートを実施した。スイーツ等のギフト需要は打撃を受けているが、自家消費は堅調に推移しており、長期化するコロナ禍において、売上回復には自家消費の取り込みが喫緊の課題といえる。-----

## ＜20代～40代女性の健康美と食生活調査＞カラダは緊急事態継続!? 7.9歳分のカラダ老化対策、老け見え防止に、女性の“たんぱく質デビュー”が拡大中!!

キレイなカラダづくりの食事方法1位「たんぱく質を積極的にとる」！たんぱく質摂取習慣があると、キレイなカラダづくり成功率が高い！

一般社団法人 日本パーソナル管理栄養士協会 - 2021/7/16

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000082960.html>

食を通じて健康に貢献する管理栄養士・栄養士のネットワークを構築する一般社団法人日本パーソナル管理栄養士協会（代表理事：三城円）は、20歳～49歳女性700人を対象に「女性の健康美と食生活」をテーマにした調査を実施いたしました。本調査では、コロナ禍が1年半続くことによる女性のカラダ悩み、そして、悩みを解決するためにたんぱく質デビューした人が多数に渡ることや、その摂取テクニックが明らかになりました。新しい生活様式において求められる栄養摂取についての示唆がある結果となっております。-----

## ■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

### 高齢者の肉に対する嗅覚は低下するが、バニラは違う

リンク DE ダイエット – 2021/7/7（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.7.7, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75534&lay=lay&Find.html>

高齢者の嗅覚はかつて言われていたこととは裏腹に、包括的に低下するのではなく、選択的特異性がみられるようだ、というデンマーク・コペンハーゲン大学からの研究報告。-----

**追記：前号の英文記事情報（7月6日締め）で、以下の論文情報としてご紹介しました。**

「Food Quality and Preference」掲載論文：「Changes in perception and liking for everyday food odors among older adults」

<https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S0950329321001373?via%3Dihub>

## **魚油が豊富な植物油の少ない食事で片頭痛を減らせる**

リンク DE ダイエット - 2021/7/9 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.7.9, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75565&-lay=lay&-Find.html>

脂肪の多い魚の豊富な食事は、野菜ベースの脂肪が豊富な食事に比べて、頻繁な片頭痛に苦しむ患者の頭痛の回数や痛みの強さを減らすようだ、という研究報告。米国国立老化研究所などによる研究報告。-----

## **超加工食品をたくさん食べる子供は太りやすい！？**

リンク DE ダイエット - 2021/7/12 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.7.12, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75588&-lay=lay&-Find.html>

英国の子供たちの食事には超加工食品 (UPF) が高い割合を占めており、割合が高い子供ほど、より多くの量を摂取して肥満のリスクを高めているようだ、という英国インペリアルカレッジロンドンからの研究報告。-----

## **発酵食品は腸内細菌叢の多様性を高め炎症を軽減する？**

リンク DE ダイエット - 2021/7/14 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.7.14, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75624&-lay=lay&-Find.html>

発酵食品が豊富な食事は、腸内細菌の多様性を高め、炎症の分子的兆候を減少させるようだ、という米国スタンフォード大学からの研究報告。-----

## **オメガ-3 系脂肪酸は心血管系のアウトカムを改善する**

リンク DE ダイエット - 2021/7/20 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.7.20, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75677&-lay=lay&-Find.html>

EPA のサプリメントは、EPA+DHA のサプリメントよりも、心血管系疾患のリスクを改善するようだ、という米国ブリガムアンドウィメンズ病院によるメタ分析。-----

## 免疫学的健康と老化の慢性疾患を予測する最初の実用的な時計

リンク DE ダイエット - 2021/7/20 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.7.20, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75676&-lay=lay&-Find.html>

米国バック研究所とスタンフォード大学の研究チームは、炎症負荷を測定し、複数の併存疾患、フレイル、免疫的な健康、心血管系の加齢を予測する、そしてまた百寿者における格別な長寿とも関連した、炎症加齢時計 (iAge) を開発した。-----

## ダークチョコレートは、トレーニング習慣のある女性の安静時エネルギー消費を高める

スポーツ栄養 WEB - 2021/7/13 <https://sndj-web.jp/news/001390.php>

カカオから作られるダークチョコレートを巡っては近年、健康面にプラスの影響を及ぼすとの研究報告が増えている。最近もまた、少量のダークチョコレート摂取が、安静時の消費エネルギー量を増大させるとの研究結果が発表された。日常的にトレーニングを行っている正常体重の女性を対象に、30日間介入した単盲検試験の結果だ。-----

## アミノ酸スポーツ栄養科学ラボに新コーナー、アミノ酸を活用したスポーツ栄養のエビデンスを集約

スポーツ栄養 WEB - 2021/6/16 <https://sndj-web.jp/news/001405.php>

当サイトでもたびたび情報元として取り上げている、味の素(株)の「アミノ酸スポーツ栄養科学ラボ」に、このほど新コーナー「新着!サイエンス情報」がオープンした。スポーツ栄養を語る時には外せない基本的キーワードの一つ「アミノ酸」を主軸に据え、同社アミノ酸素材関連の論文や学会・セミナー情報などを掲載していくという。-----

## バスケットボール選手のパフォーマンス向上にビタミンD値が影響する可能性

スポーツ栄養 WEB - 2021/7/20 <https://sndj-web.jp/news/001403.php>

バスケットボールのパフォーマンスに重要なジャンプ力と、ビタミンDレベルとの間に有意な相関があることが、スペインのハイレベルクラブに所属するユースアスリート対象の

研究から明らかになった。ただしその相関の方向が性により異なるという。また、ユースアスリートであっても、ビタミンDレベルが低い傾向が認められたとのことだ。-----

## **非アルコール性脂肪肝は「玄米」で予防・抑制できる～そのメカニズムはビタミンA代謝の亢進！～ | 農芸化学科 山本 祐司教授**

学校法人東京農業大学 - 2021/7/14 <https://www.nodai.ac.jp/news/article/26527/>

食生活の欧米化や運動不足による肥満は、脂質異常症、高血圧、2型糖尿病の原因となるばかりでなく非アルコール性脂肪肝(NAFLD)の原因であります。そのまま放置すると肝硬変、肝癌へと変遷することが知られており、日本国内のみならず大きな健康問題となっています。しかし、基本的に食事カロリーの制限と運動の推奨が治療戦略であり、積極的な治療方法はまだ確立されていないのが現状です。学校法人東京農業大学(東京都世田谷区桜丘 1-1-1)とアルファー食品株式会社(島根県出雲市大社町北荒木 645)の共同研究により、肥満が原因となるこのNAFLDが、玄米をたべることで、予防・抑制できることと、その作用機序について明らかにしました。-----

## **加熱殺菌したビフィズス菌にも抗ストレス効果があることをマウスで確認－藤田医科大**

QLifePro 医療ニュース - 2021/7/7

<http://www.qlifepro.com/news/20210707/sterilization-bifidobacteria.html>

### **殺菌されたビフィズス菌でも抗ストレス効果を有するのか？**

藤田医科大学は7月6日、加熱殺菌したビフィズス菌が脳内の炎症を抑え、抗ストレス効果をもたらすことを発見したと発表した。この研究は、同大大学院保健学研究科レギュラトリーサイエンス分野の小菅愛加大学院生、國澤和生助教、毛利彰宏准教授らのグループと、同保健学研究科の齋藤邦明教授、鍋島俊隆客員教授の共同研究グループによるもの。研究成果は、「Brain, Behavior, and Immunity」オンライン版に掲載されている。-----

*情報源のご意向で、記事タイトルとURLのみのご紹介となります。*

## **朝食でのタンパク質摂取が筋肉量の増加に効果的、早大が確認**

マイナビニュース - 2021/7/9 <https://news.mynavi.jp/article/20210709-1918282/>

## **質の良いタンパクを摂取して筋トレの効果アップー第53回メディアミルクセミナー開催**

食品と開発 - 2021/6/29 [https://www.kenko-media.com/food\\_devlp/archives/5150](https://www.kenko-media.com/food_devlp/archives/5150)

(一社) Jミルクが28日に行った、第53回メディアミルクセミナーでは、タンパク質の“質”に関する話題が、立命館大学スポーツ健康科学部教授の藤田聡先生によって語られた。-----

## **酢酸の腸内免疫制御に関する研究成果が科学雑誌「Nature」に掲載！**

### **—大腸に酢酸を届ける当社独自の酢酸セルロースを使った、理化学研究所との共同研究成果—**

株式会社ダイセル - 2021/7/15 <https://www.daicel.com/news/assets/pdf/20210715.pdf>

株式会社ダイセル（本社：大阪市北区、代表取締役社長：小河義美）は、国立研究開発法人理化学研究所（埼玉県和光市）などと、腸内細菌の主要な代謝物である酢酸の免疫制御機構に関する共同研究を実施し、その成果が科学雑誌『Nature』オンライン版（7月14日付：日本時間7月15日）に掲載されましたことをお知らせいたします。また、同内容は『Nature』本誌（2021年7月22日号）に掲載予定です。-----

理化学研究所プレスリリース（2021/7/15）

[https://www.riken.jp/press/2021/20210715\\_1/index.html](https://www.riken.jp/press/2021/20210715_1/index.html)

## **抗老化新規機能性食品素材として注目！ ザクロ抽出物の腸内代謝物「ウロリチンA」によるサーチュイン遺伝子発現増強効果を確認**

### **—国際ポリフェノール学会（ICP2020）にて発表—**

株式会社ダイセル - 2021/7/15 <https://www.daicel.com/news/assets/pdf/20210716.pdf>

株式会社ダイセル（本社：大阪市北区）は、当社が世界で初めて発酵法による工業生産に成功したザクロ果皮由来エラグ酸の腸内代謝物「ウロリチンA」を用いて、九州大学（福岡県福岡市）と共同研究を行いました。その研究成果として、「ウロリチンA」のサーチュイン遺伝子の発現増強効果を確認いたしました。また、新たな機能性が期待されているウロリチンA類縁体のイソウロリチンA及びウロリチンBについても発酵法による製法開発に成功しました。これらの研究成果は、2021年7月15日に開催された「ICP2020 XXX International Conference on Polyphenols」にて発表いたしました。-----

## **森永乳業の認知機能改善ビフィズス菌「MCC1274」研究 第10回日本認知症予防学会学術集会で浦上賞を受賞**

セントケア・グループ 株式会社ミレニア - 2021/7/9

<https://www.millennia-corporation.jp/press/images/NewsRelease20210709.pdf>



セントケア・グループ（2374）の株式会社ミレニア（本社：東京都港区）が提供する認知機能指標である「あたまの健康チェック®（英名：The MCI Screen）」が評価スケールとして採用された森永乳業株式会社（本社：東京都港区）の認知機能改善ビフィズス菌「MCC1274」に関する研究成果が、「第10回 日本認知症予防学会学術集会（開催 2021年6月24～26日）」において優秀演題賞である「浦上賞」を受賞いたしましたのでお知らせいたします。-----

## ■ その他の注目研究・技術情報

### 抗老化の新しいターゲットタンパク質を発見

幹細胞の分化を抑制するタンパク質「グレムリン2」が多いほど皮膚の老化が進行している

日本メナード化粧品株式会社 - 2021/7/14

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000028.000048666.html>

日本メナード化粧品株式会社（愛知県名古屋市中区丸の内3-18-15、代表取締役社長：野々川 純一）は、藤田医科大学医学部（愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98）応用細胞再生医学講座（教授：赤松 浩彦）及び皮膚科学講座（教授：杉浦 一充）と共同で研究を進め、加齢に伴い産出される「グレムリン2（GREM2）」と呼ばれるタンパク質が、皮膚の幹細胞の分化を抑制し皮膚組織の再生を妨げていることを突き止めました。また、グレムリン2の量が多いほど皮膚の老化が進行していることが分かりました。-----

### 皮膚から老化細胞が排除されるメカニズムを解明 タンパク質「JAG1」が皮膚における老化細胞の排除を制御している

日本メナード化粧品株式会社 - 2021/7/20 <https://www.atpress.ne.jp/news/267970>

日本メナード化粧品株式会社（愛知県名古屋市中区丸の内3-18-15、代表取締役社長：野々川 純一）は、藤田医科大学医学部（愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98）応用細胞再生医学講座（教授：赤松 浩彦）及び皮膚科学講座（教授：杉浦 一充）と共同で、皮膚（表皮）の新陳代謝（ターンオーバー）における老化細胞の排出について、「ジャグ1（以下、JAG1）」と呼ばれるタンパク質が大きく関与していることを発見しました。-----

### 三洋化成と長瀬産業が共同で「匂いセンサー」事業化 -AI を応用した人工嗅覚でおいしさを可視化-

三洋化成工業株式会社 - 2021/7/13



[https://www.sanyo-chemical.co.jp/wp/wp-content/uploads/2021/07/k20210713\\_1.pdf](https://www.sanyo-chemical.co.jp/wp/wp-content/uploads/2021/07/k20210713_1.pdf)

三洋化成工業株式会社（京都市東山区、代表取締役社長：樋口 章憲、以下「三洋化成」）と長瀬産業株式会社（東京都中央区、代表取締役社長：朝倉 研二、以下「長瀬産業」）は、AI 技術を応用した人工嗅覚で匂いを識別する「匂いセンサー」について共同で事業化を検討することで合意しました。-----

## **三洋化成と都鶴酒造が共同研究を開始 –AI を応用した「匂いセンサー」を日本酒造りに活用–**

三洋化成工業株式会社 - 2021/7/13

[https://www.sanyo-chemical.co.jp/wp/wp-content/uploads/2021/07/k20210713\\_2.pdf](https://www.sanyo-chemical.co.jp/wp/wp-content/uploads/2021/07/k20210713_2.pdf)

三洋化成工業株式会社（本社：京都市東山区、代表取締役社長：樋口 章憲、以下、「三洋化成」）と都鶴酒造株式会社（本社：京都市伏見区、代表取締役社長：内田 浩司、以下、「都鶴酒造」）は、AI 技術を応用した「匂いセンサー」を活用した新しい日本酒造りを目指して共同研究を開始しましたので、お知らせいたします。-----

## **キリンビールが IoT で工場の設備管理と遠隔監視を実施、前川製作所と協業で**

MONOist - 2021/7/8 <https://monoist.atmarkit.co.jp/mn/articles/2107/08/news032.html>

キリンビールと前川製作所は 2021 年 7 月 7 日、キリンビールの工場において、ビッグデータ活用による設備管理と IoT（モノのインターネット）を活用した冷凍機の遠隔監視を実施したと発表した。

## **食品製造業のスマート工場化を支援、Edgecross が WG 活動を推進**

MONOist - 2021/7/9 <https://monoist.atmarkit.co.jp/mn/articles/2107/09/news055.html>

FA と IT を結ぶエッジコンピューティング領域の共通基盤構築を目指す Edgecross コンソーシアムは、業界に特化した課題解決やソリューション構築を進めるためにワーキンググループ（WG）活動を強化している。その 1 つが食品製造業に向けた「食品製造業向けソリューション構築 WG」である。-----

## **イヤホン型脳波計「VIE ZONE」による「フロー状態の推定」に成功**

TECHABLE - 2021/7/6 <https://techable.jp/archives/157632>

---VIE STYLE 株式会社と東京大学は、VIE STYLE が開発するイヤホン型脳波計「VIE ZONE」を活用し、フロー状態を推定する技術開発に成功。IEEE の運営するプレプリントサーバーTechRxiv にて、論文を公開しました。

## ■ その他

### 甘味飲料税と飲料、高糖食品の購入との関連

リンク DE ダイエット - 2021/7/15 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.7.15, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75640&lay=lay&Find.html>

加糖飲料税の導入は加糖飲料の価格の上昇と、購入量の低下をもたらしたようだ、という米国ペンシルバニア大学からの研究報告。-----

### 【連載】ベンチャー巡訪記【全記事まとめ】

AnswersNews - 2021/7/20 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/19621/>

製薬業界のプレイヤーとして存在感を高めるベンチャー。注目ベンチャーの経営者を訪ね、創業のきっかけや事業にかける想い、今後の展望などを語ってまいります。-----

以上

## 健康食品等に関する 日本語記事情報 (2021 年 8 月号 No.1)

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財)日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

(例: 法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

*なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。*

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

## ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年8月更新中

被害関連情報	<a href="https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2374">https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2374</a>
素材情報データベース（更新）	<a href="https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2373">https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2373</a>
素材情報データベース（新規）	8月4日現在、ありません。

2021年7月分

被害関連情報	<a href="https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2358">https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2358</a>
素材情報データベース（更新）	<a href="https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2356">https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2356</a>
素材情報データベース（新規）	<a href="https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2365">https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2365</a>
● 「シンバイオティクス」 (210726)	<a href="https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4726.html">https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4726.html</a>
● 「ゴボウ」 (210719)	<a href="https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4724.html">https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4724.html</a>
● 「リポポリサッカライド (LPS)、リポ多糖」 (210719)	<a href="https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4723.html">https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4723.html</a>

### 食品安全情報（化学物質）No.15 / 2021（2021.7.21）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202115c.pdf>

（別添） <http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202115ca.pdf>

### 食品安全情報（化学物質）No.16 / 2021（2021.8.4）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202116c.pdf>

**全リスト**

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

### 連鎖販売業者【リーウェイジャパン株式会社】に対する行政処分について

消費者庁 - 2021/8/3 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/025106/>

消費者庁は、「PURTIER PLACENTA」（パーティアプラセンタ）と称する鹿の胎盤（プラセンタ）が主成分であるとする栄養補助食品等を販売するリーウェイジャパン株式会社（本店所在地：東京都港区）（以下「リーウェイジャパン」といいます。）に対し、令和3年8月2日、特定商取引法第39条第1項の規定に基づき、令和3年8月3日から令和4年2月2日までの6か月間、連鎖販売取引に係る取引の一部等（勧誘（勧誘者に行わせることも含みます。申込受付も同じ。）、申込受付及び契約締結）を停止するよう命じました。……

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 「機能性表示食品に関する質疑応答集」を一部改正しました

消費者庁 - 2021/8/4

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/foods\\_with\\_function\\_claims/notice/#guideline](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/notice/#guideline)

機能性表示食品に関する質疑応答集（令和3年8月4日一部改正）[PDF:834KB]

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/foods\\_with\\_function\\_claims/assets/foods\\_with\\_function\\_claims\\_210804\\_0002.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/assets/foods_with_function_claims_210804_0002.pdf)

機能性表示食品に関する質疑応答集（新旧対照表）[PDF:309KB]NEW

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/foods\\_with\\_function\\_claims/assets/foods\\_with\\_function\\_claims\\_210804\\_0003.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/assets/foods_with_function_claims_210804_0003.pdf)

ガイドラインに則した事前確認を適切に実施できる体制が構築されている団体（質疑応答集問79及び問123関係）[PDF:265KB]NEW

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/foods\\_with\\_function\\_claims/assets/foods\\_with\\_function\\_claims\\_210804\\_0004.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/assets/foods_with_function_claims_210804_0004.pdf)

### 第95回コーデックス連絡協議会（令和3年7月2日開催）

議事概要 [https://www.mhlw.go.jp/topics/identshi/codex/07-17/dl/95th\\_gaiyou.pdf](https://www.mhlw.go.jp/topics/identshi/codex/07-17/dl/95th_gaiyou.pdf)

会議資料 [https://www.mhlw.go.jp/topics/identshi/codex/07-17/dl/95th\\_shiryuu.pdf](https://www.mhlw.go.jp/topics/identshi/codex/07-17/dl/95th_shiryuu.pdf)

(厚生労働省 コーデックス連絡協議会開催状況

<https://www.mhlw.go.jp/topics/idsenshi/codex/07-17/index.html>)

## ■ 海外公的機関情報

*情報源のご意向で、見出しと URL のみのご紹介となります。*

### タイへの食品輸出に必要な GMP 証明書、農林水産省が新たに発行

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2021/7/26

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2021/07/677f77429f3bd976.html>

*以下の 10 件は、2021 年 7 月 21 日～8 月 5 日に食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) にアクセスした際に、気になったものを選定しました。  
[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)*

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのセチル化脂肪酸の安全性を評価した科学的意見書を公表](#)

[ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、食品及び化学物質のエクスポージャーのリスク評価のための前向き全混合物アプローチに関する論文を紹介](#)

[欧州連合\(EU\)、低エネルギーの特定の菓子製品におけるポリオールの使用に関する欧州議会及び理事会規則\(EC\) No 1333/2008 附属書 II の改正を官報で公表](#)

[米国農務省動植物検疫局\(USDA-APHIS\)、遺伝子工学によって作成されるが従来育種法でも達成可能な改変\(新たに 3 種を指定\)を持つ植物を USDA のバイオテクノロジー規制から免除する提案を公表](#)

[スペイン食品安全栄養庁\(AESAN\)、無機ヒ素を含むヒジキの摂取に関する勧告を公表](#)

[欧州連合\(EU\)、ステビオール配糖体\(E960\)及びステビアを原料とするステビオール配糖体の酵素修飾を介して生産されるレバウジオシド M に関する規則改正を官報で公表](#)

[世界保健機関\(WHO\)、特定の食品添加物の評価\(テクニカルレポートシリーズ No.1027\)を公表](#)

[フランス公衆衛生局、栄養スコアに関する消費者への情報提供を目的とした活動を実施することを公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのフルクトホウ酸カルシウム\(calcium fructoborate\)の安全性を評価した科学的意見書を公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、欧州議会及び理事会規則\(EC\) No 1924/2006 第 13 条第 5 項に基づく健康強調表示「Affron\(登録商標\)と積極的な気分の増加」の評価に関する科学的意見書を公表](#)

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

[富士経済、ファストフードやテイクアウトなど 6 カテゴリー64 業態の外食産業国内市場調査、2021 年市場見込では 2020 年比 114.3%の唐揚げが 1200 億円に](#)

マイライフニュース - 2021/8/2

<https://www.mylifeneews.net/data/2021/08/6642021202011431200.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、イートインが新型コロナ対策による店内での飲食機会の減少から苦戦を強いられているものの、テイクアウトやデリバリーを軸に対応が進む外食産業国内市場について調査した。その結果を「外食産業マーケティング便覧 2021 No.1」にまとめた。-----

[矢野経済研究所、飲料市場に関する調査、2020 年度はコロナショックで 2 年連続縮小に](#)

マイライフニュース - 2021/8/3 <https://www.mylifeneews.net/data/2021/08/20202.html>

矢野経済研究所は、国内の飲料市場を調査し、飲料カテゴリー別の動向、流通ルート別の動向、参入企業の動向、および将来展望を明らかにした。その結果、2020 年度の飲料市場はコロナショックで、2 年連続での縮小となった。-----

## 富士経済、SDGsの推進で注目されるサステナブルフードの国内市場調査、プラスチックフリーやラベルレスなどのエコパッケージが大きく伸長

マイライフニュース - 2021/7/29 <https://www.mylifenews.net/data/2021/07/sdgs.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、SDGs 実施指針の策定以降、各産業で環境保全や労働環境整備への取り組みが進められる中、食品業界の展開の一つとして各メーカーが注力する、エコパッケージや生産地・労働者サポートなどを訴求したサステナブルフードの国内市場を調査した。-----

## SDGs、消費者認知が急上昇 健食業界も取り組み不可欠に（連載／話題追跡）

健康メディア.com - 2021/8/2

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15467](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15467)

SDGs（持続可能な開発目標）への対応が健食業界でも求められ始めた。本紙が全国の受託製造企業に実施した定期調査では、「すでに取り組んでいる」「検討はしている」を合わせると6割を超え、関心の高さが示された。背景には、SDGsに対する消費者認知度の高まりがある。-----

*情報源のご意向で、以下のような形のご紹介となります。見出しは実際の記事見出しとは異なります。*

## 企業姿勢を監視し情報を拡散する消費者の出現

ニュースイッチ - 2021/8/2 <https://news witch.jp/p/28179>

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 企業動向、注目ビジネス情報

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 消費者意識等の調査・分析



今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

### 全粒穀物を食べるヒトは太らない？

リンク DE ダイエット - 2021/7/26（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.7.26, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75735&-lay=lay&-Find.html>

毎日少なくとも3サービングの全粒穀物を摂取した中高年齢者は、1日半サービング未満だった人に比べて、時間の経過による腹囲、血圧、血糖値の上昇の幅が小さかった、という米国タフツ大学からの研究報告。-----

### ビタミンD 臨床試験に必要なサンプルサイズとは？

リンク DE ダイエット - 2021/7/26（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.7.26, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75734&-lay=lay&-Find.html>

大規模な季節性および集団内のビタミンD状態の差異を考慮して臨床試験をデザインするための新奇なツールセットを開発した、という愛蘭トリニティカレッジダブリンからの研究報告。-----

### 赤血球オメガ3 レベルが高いと平均余命がほぼ5年長く

リンク DE ダイエット - 2021/7/27（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.7.27, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75737&-lay=lay&-Find.html>

赤血球のオメガ-3系脂肪酸レベルが高いものは、全死因による死亡リスクが低めであるようだ、というスペイン・ホスピタルデルマール医学研究所の報告。-----

**追記：英文記事情報（2021年7月号 No.1）で以下の記事情報として紹介済みです。**

「American Journal of Clinical Nutrition」掲載論文：「Using an erythrocyte fatty acid fingerprint to predict risk of all-cause mortality: the Framingham Offspring Cohort」

<https://academic.oup.com/ajcn/advance-article-abstract/doi/10.1093/ajcn/nqab195/6301120?redirectedFrom=fulltext>

## カラフルな食品が認知機能の低下を抑える？

リンク DE ダイエット – 2021/7/30 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.7.30, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75765&-lay=lay&-Find.html>

イチゴ、オレンジ、コショウ、リンゴなどのフラボノイドが豊富な食品を毎日 0.5 サービング以上摂取する人は、認知機能低下のリスクが 20%低いようだ、という米国ハーバード大学からの研究報告。-----

## エリートサッカー選手のパフォーマンスを向上させるためのサプリメント 文献的考察

スポーツ栄養 WEB - 2021/7/29 <https://sndj-web.jp/news/001421.php>

エリートサッカー選手のパフォーマンス向上のためのサプリメント摂取に関するレビュー論文が発表された。著者は、1名のブラジルの研究者であり、「サッカー選手は、エルゴジェニックサプリメントによってフィールドでのパフォーマンスを向上させることができる。科学的根拠に基づき推奨される用量であれば、副作用はみられない」と述べている。-----

## 朝、タンパク質を摂取すると筋量増加に効果的 ポイントは「BCAA」と「体内時計」 早大・柴田重信教授らの研究

スポーツ栄養 WEB - 2021/7/30 <https://sndj-web.jp/news/001422.php>

タンパク質摂取による筋量増加効果は摂取量だけでなく摂取タイミングも影響し、朝食時のタンパク質摂取は分岐鎖アミノ酸 (BCAA) が関与して、効果的に筋量を増加させる可能性が報告された。-----

**追記：前号では、著作権の関連でマイナビニュースの7月9日付け記事の見出しとURLのみをご紹介しました。スポーツ栄養WEBでも取り上げられましたので、改めてご紹介いたします。**

## 「うま味研究と活用の最前線」2021年度 全国栄養士大会の協賛セミナーの内容を少しだけ先に紹介します！

スポーツ栄養 WEB - 2021/7/29 <https://sndj-web.jp/news/001428.php>

-----。数々の魅力的な講演の中から、徳島大学大学院医歯薬学研究部代謝栄養学分野の堤 理恵 氏による「うま味研究と活用の最前線～うま味を味方にする新しい栄養ケアのススメ」の内容を、講演に先立ちほんの少し紹介する。-----

## **運動前の炭水化物摂取による持久力パフォーマンスの向上と関連のある因子は？**

スポーツ栄養 WEB - 2021/8/2 <https://sndj-web.jp/news/001424.php>

運動前の炭水化物摂取により、ランニング速度が速くなり、疲労困憊までの時間が有意に長くなるというパフォーマンスの向上が、21名の男性ランナーを対象とする研究の結果として確認された。----

## **レチノール摂取が潰瘍性大腸炎の発症を予防する可能性－愛媛大ほか**

QLifePro 医療ニュース - 2021/8/4

[http://www.qlifepro.com/news/20210804/retinol.html](http://www qlifepro.com/news/20210804/retinol.html)

### **野菜、果物、抗酸化物質摂取と潰瘍性大腸炎リスクとの関連を調査**

愛媛大学は7月28日、レチノール摂取が潰瘍性大腸炎発症に予防的であることを示す研究成果を世界で初めて論文報告したことを発表した。この研究は、同大が主導する多施設共同研究「日本潰瘍性大腸炎研究」（責任著者：愛媛大学大学院医学系研究科 疫学・予防医学講座 三宅吉博教授）によるもの。研究成果は、「Nutrition」電子版に掲載されている。-----

## **食べると脂肪燃焼量が上昇 「太りにくいマフィン」開発 城西大学**

大学ジャーナル - 2021/7/22 <https://univ-journal.jp/106638/>

城西大学薬学部薬科学科 栄養生理学研究室の矢島克彦助教は、不飽和脂肪酸の比率を高めた脂質を含む「太りにくい」オリジナルマフィンを開発した。一般的なマフィンと比較して、食べることで24時間の脂肪燃焼量が約10%上昇するというもの。-----

## **京都大学との共同研究の成果が国際的な学術誌『npj Science of Food』に論文掲載されました**

株式会社サン・クロレラ - 2021/7/26

<https://www.sunchlorella.co.jp/news/pressrelease/8297>

株式会社サン・クロレラ（本社：京都市下京区、代表取締役社長 中山太、以下「当社」）は、京都大学 大学院農学研究科海洋生物機能学分野の佐藤健司教授らの研究グループ（以下「京都大学」）とクロレラに含まれている フェネチルアミン の有益性に関する共同研究を行っていましたが、その研究成果が 2021 年 7 月 23 日に Springer Nature が出版する学術誌『npj Science of Food』のオンラインで公開されました。-----

## <「パラミロン EOD-1」4 週間摂取による不安疲労軽減評価試験>

「パラミロン EOD-1」摂取による「不安疲労」軽減効果が第 17 回日本疲労学会総会・学術集会で発表されました

株式会社神鋼環境ソリューション - 2021/8/2

<https://www.kobelco-eco.co.jp/topics/news/2021/20210802.html>

株式会社神鋼環境ソリューション（本社：神戸市中央区、社長：大濱敬織）が特許を保有する独自素材「ユーグレナグラシリス EOD-1 株由来パラミロン（ $\beta$ -1,3-グルカンとして）」（以下「パラミロン EOD-1」と称す）の摂取による「不安疲労（\*）」軽減効果について、現在オンライン開催中の第 17 回日本疲労学会総会・学術集会（2021 年 7 月 28 日～8 月 31 日）にて、医療法人財団 百葉の会 銀座医院の久保明医師（東海大学医学部 客員教授）より、発表されました。-----

## ■ その他の注目研究・技術情報

### 腸内細菌から産生される健康長寿に関わる胆汁酸

#### 百寿者のマイクロバイオーームで増加する新たな胆汁酸の生合成経路

慶應義塾大学 - 2021/7/30 <https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/2021/7/30/28-81513/>

慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室の本田賢也教授（理化学研究所生命医科学研究センター消化管恒常性研究チーム チームリーダー兼任）を中心とする共同研究グループは、百寿者の便中には、isoalloLCA（イソアロリトコール酸）という胆汁酸が特異的に多いことを見だし、その胆汁酸を合成できる腸内細菌株を同定しました。-----

### フレイルの理解は高齢者のより良いケアにつながる

リンク DE ダイエット - 2021/7/29（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.7.29, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75747&-lay=lay&-Find.html>

フレイルのレベルが1年後の生存可能性を予測するようだ、というカナダ・ウォータールー大学の研究。-----

**情報源のご意向で記事見出しと URL のみのご紹介となります。**

## **容器の色は特定の味を強めたり弱めたりする効果があることを千葉大が確認**

マイナビニュース - 2020/8/2 <https://news.mynavi.jp/article/20210802-1937141/>

## **猫の寿命が2倍に!? 鍵となるタンパク質「AIM」とは**

財経新聞 - 2021/7/29 <https://www.zaikei.co.jp/article/20210729/631977.html>

多くの高齢の猫がかかる「慢性腎臓病」の治療法の開発によって、猫の寿命が2倍になるかもしれない。時事通信の報道によれば、東京大学の宮崎徹教授が発見した AIM というタンパク質が、その鍵を握っているという。-----

## **花王、スマートフォンなどで動画を撮影するだけで歩行動作を詳細に解析できる「mGCC 技術」を開発**

IOT News - 2021/7/20 <https://iotnews.jp/archives/180061>

-----

花王株式会社 パーソナルヘルスケア研究所とサニタリー研究所は、十条こどもクリニック 岩崎博之医師、順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 内藤久士教授、上海体育学院 陸大江教授の協力のもと、機械学習技術を用いることで、2次元の動画を撮影するだけで3次元の歩行動作として詳細に解析できる「mGCC (mobile Gait Change Capture) 技術」を開発した。-----

## **■ その他**

## **食品製造業に求められる脱“属人化”、スマートマニュファクチャリング**

MONOist - 2021/7/29

<https://monoist.atmarkit.co.jp/mn/articles/2107/28/news044.html>

ダッソー・システムズ主催のオンライン年次カンファレンス「3DEXPERIENCE CONFERENCE JAPAN 2021」（会期：2021年6月15日～7月9日）において、野村総

合研究所（NRI）上級コンサルタントの疋田時久氏が「食品・日雑製造業における DX（デジタルトランスフォーメーション）推進」をテーマに講演を行った。-----

## 需要予測の高度化で食品ロス低減、食品メーカーに必要なサプライチェーン DX

MONOist - 2021/7/29

<https://monoist.atmarkit.co.jp/mn/articles/2107/29/news028.html>

クラウドベース ERP ソリューションなどを展開するインフォアジャパンは 2021 年 7 月 21 日、食品／飲料業界を取り巻くさまざまな課題の解説と、それらを解決し得る同社製品を紹介する説明会を開催した。需要予測の高度化などサプライチェーンの DX が食品ロス問題解決を促す可能性がある。-----

## 豆腐の割れ、欠け、くぼみを AI で判別 食品工場が目指すスマートファクトリー化とは

ITmedia - 2021/7/29

<https://www.itmedia.co.jp/enterprise/articles/2107/29/news041.html>

大豆加工食品の製造や販売などを手掛ける四国化工機は、自社工場での豆腐の検品に向けて AI ラインピッキングシステムを導入した。同社は工場に全ての機器の状況を一元管理できる IoT を導入し、スマートファクトリー化を推進している。

*情報源のご意向で、以下のような形のご紹介となります。見出しは実際の記事見出しとは異なります。*

## 官能評価と AI 技術の一つである遺伝的アルゴリズム（Genetic Algorithm : GA）を活用した商品開発

ニュースイッチ - 2021/7/28 <https://news witch.jp/p/28138>

*情報源のご意向で、以下のような形のご紹介となります。見出しは実際の記事見出しとは異なります。*

## 食品企業のモーダルシフト（トラック等の自動車で行われている貨物輸送を環境負荷の小さい鉄道等の利用へと転換すること）活用事例

ニュースイッチ - 2021/7/28 <https://news witch.jp/p/28137>

以上



## 健康食品等に関する 日本語記事情報（2021年8月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。  
（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

*なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。*

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年8月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2374>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2373>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2380>

「ビフィズス菌」（210810）：<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4741.html>

「乳酸菌」（210816） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4750.html>

2021年7月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2358>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2356>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2365>

### 食品安全情報（化学物質） No.17 (2021.08.18)



国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202117c.pdf>

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## **食品安全情報 blog2 2021.8.18**

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/08/18/175917>

以下、目に付いた見出しです（出現順）

[FDA]消費者情報。着色料はどの程度安全か？

[EFSA]意見・新規食品としての丸ごとのイエココオロギ(*Acheta domesticus*)由来冷凍及び乾燥製剤の安全性

[EU]食品中最大濃度基準の改定 カドミウム、鉛

## **■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）**

### **【注意喚起】インターネット広告表示の監視結果（令和2年度）を公表（東京都）**

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 - 2021/8/13

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2382>

2021年8月10日、東京都が24,000件のインターネット広告表示の監視結果（令和2年度）と257事業者への改善指導の実施を公表。

## **■ 行政・法令関連情報（その他）**

### **東京栄養サミット 2021**

外務省 - 2021/8/18 [https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ghp/page25\\_002043.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ghp/page25_002043.html)

……。日本政府は東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催国として、2021年12月に東京栄養サミット2021を主催します。

東京栄養サミット2021では、各国政府、国際機関、企業、市民団体などのリーダーが、食・健康・繁栄をテーマに世界の人々の栄養改善について幅広く議論し、今後の行動の方向性について共通認識を深めます。……

## **■ 海外公的機関情報**

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

### THC 基準の規制で——日本でもグリーンラッシュの予感（特集／CBD）

健康メディア.com - 2021/8/10 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15491](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15491)

CBD は麻科植物に含まれる成分で、睡眠質の改善、緊張感の緩和、抗炎症作用などに効果があるという。近年は、欧米を中心に急速な市場拡大が見られ、ゴールドラッシュならぬグリーンラッシュと呼ばれており、日本でも CBD を配合した健食や化粧品が徐々に増え始めている。一方で、麻には THC と呼ばれる規制成分が含まれる。日本では、CBD 製品を輸入する際に THC を除去した証明が求められる。-----

### “高吸収”を実現する素材・技術に注目 「体感性アップ」「コスト削減」を両建て(特集／吸収性向上素材・技術)

健康メディア.com - 2021/8/10 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15482](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15482)

「体感性アップ」「コスト削減」を実現する吸収性向上素材・技術。一本買いが主流のエネルギー・滋養強壮系ドリンクはもとより、「お試し1週間のサンプル商品」など、体感性がリピートに繋がるサプリメントでの採用が進む。有効成分や摂取粒数の少量化にも繋がるため、コストメリットの面も評価されているようだ。素材分野では、素材自体の吸収性を高めたものや、主剤の吸収性をサポートする“機能性素材のための機能性素材”が流通。-----

### 新型コロナ禍、関連商材の人気沸騰（特集／オーラルヘルスケア）

健康メディア.com - 2021/8/19

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15500](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15500)

新型コロナ禍で“オーラルヘルスケア”への関心が一層高まっている。本紙が化粧品受託企業に実施した調査では、今年上期の人気受注アイテムで、歯磨き剤およびマウスウォッシュの受注が上位にランクインした。主に口から侵入してくる細菌やウイルスの防御、マスク常用に伴う口臭ケア対策として需要が拡大しているもようだ。-----

## ■ 企業動向、注目ビジネス情報

### 健康データ活用したビジネスモデル創出への取り組み - Welby × 電通

マイナビニュース - 2021/8/11 <https://news.mynavi.jp/article/20210811-1943578/>

## ■ 消費者意識等の調査・分析

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

### アスパラガス成分に血圧降下作用があることを発見

#### －アスパラプチン A の健康維持や医療現場での活用に期待－

理化学研究所 - 2021/8/11 [https://www.riken.jp/press/2021/20210811\\_2/index.html](https://www.riken.jp/press/2021/20210811_2/index.html)

理化学研究所（理研）環境資源科学研究センター統合メタボロミクス研究グループの中林亮研究員（研究当時、現客員研究員）、斉藤和季グループディレクターらの共同研究グループは、新しく開発したメタボロミクスの解析法を用いて、アスパラガスの代謝物アスパラプチン A の生合成経路、中間体および類縁体を明らかにし、またアスパラプチン A に血圧降下作用があることを示しました。

本研究成果は、アスパラプチン A が健康維持や医療現場で活用されること、高機能アスパラガスの品種改良などに貢献するものと期待できます。-----

### 雑穀ベースの食事は 2 型糖尿病のリスクを低下させる？

リンク DE ダイエット – 2021/8/10（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.8.10, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75816&-lay=lay&-Find.html>

雑穀を食べることは 2 型糖尿病を発症するリスクを減らし、糖尿病患者の血糖値を管理するのに役立つようだ、という国際半乾燥熱帯作物研究所からの系統的レビュー&メタ分析の報告。-----

**追記：前号の「英文記事情報」（8月10日発信）でも、以下の論文情報としてご紹介しました。**

「Frontiers in Nutrition」掲載論文（オープンアクセス）：「A Systematic Review and Meta-Analysis of the Potential of Millets for Managing and Reducing the Risk of Developing Diabetes Mellitus」

<https://www.frontiersin.org/articles/10.3389/fnut.2021.687428/full>

## 更年期のホットフラッシュは食事で軽減できる？

リンク DE ダイエット – 2021/8/10（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.8.10, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75815&-lay=lay&-Find.html>

サイズが豊富な植物ベースの食事によって、更年期の中程度から重度のほてり（ホットフラッシュ）を減らせるかもしれない、という米国ジョージワシントン大学からの研究報告。

-----

## 1日に必要なエネルギーは加齢に伴いダイナミックに変動する

リンク DE ダイエット – 2021/8/13（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.8.13, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75843&-lay=lay&-Find.html>

総エネルギー消費量の絶対値は10代後半で最も高くなり、その後わずかに低下するが60代までは一定の値を示すようだ、という国立健康・栄養研究所などの国際研究チームによる研究報告。乳児は極めて多くのエネルギーを必要としており十分に食べる必要があるという。-----

## 心臓の健康にビタミンKが役立つという証拠が増えている？

リンク DE ダイエット – 2021/8/17（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.8.17, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75853&-lay=lay&-Find.html>

ビタミンKが豊富な食事を摂る人は、アテローム性動脈硬化に関連する心血管系疾患のリスクが最大34%低くなるようだ、という豪州エディンバラ大学からの研究報告。-----

**追記：同日発信の「英文記事情報」の中でも、以下の論文情報として紹介しております。**

「Journal of the American Heart Association」掲載論文（オープンアクセス）：  
「Vitamin K intake and atherosclerotic cardiovascular disease in the Danish Diet  
Cancer and Health Study」

<https://www.ahajournals.org/doi/full/10.1161/JAHA.120.020551?af=R>

## ケトダイエットのさまざまな懸念についてのレビュー

リンク DE ダイエット – 2021/8/16（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.8.16, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75849&-lay=lay&-Find.html>

超低炭水化物ケト（ジェニック）ダイエットの、これまでに最も包括的なレビューが、ケトダイエットに妊婦と腎臓病患者の健康への懸念があることを発見した、という責任ある医療のための医師会による報告。-----

## レジスタンス運動が脂肪を燃焼する機序についての洞察

リンク DE ダイエット – 2021/8/20（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.8.20, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75876&-lay=lay&-Find.html>

レジスタンス運動は体脂肪の減少に独特の利益をもたらすかもしれない、という米国ケンタッキー大学からの研究報告。-----

**追記：同日発信の「英文記事情報」でも、以下の論文情報としてご紹介しております。**

「The FASEB Journal」掲載論文（オープンアクセス）：「Mechanical overload- induced muscle- derived extracellular vesicles promote adipose tissue lipolysis」

<https://faseb.onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.1096/fj.202100242R>

## 低 GI 食は糖尿病患者にわずかな改善をもたらす？

リンク DE ダイエット – 2021/8/20（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.8.20, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75875&-lay=lay&-Find.html>

低グリセミックインデックス（GI）食を順守する糖尿病患者は、血糖値、コレステロール、体重、その他のリスク因子がわずかに改善するようだ、というカナダ・トロント大学などからの研究報告。-----

**追記：同日発信の英文記事情報でご紹介した別の論文の著者は、減量と肥満予防に関しては、低GI食が高GI食よりも優れているという科学的証拠はほとんどないと結論付けています。**

「Advances in Nutrition」掲載論文（オープンアクセス）：「Perspective: Does Glycemic Index Matter for Weight Loss and Obesity Prevention? Examination of the Evidence on “Fast” Compared with “Slow” Carbs」

<https://academic.oup.com/advances/advance-article/doi/10.1093/advances/nmab093/6342518>

## **乳酸菌の摂取でストレスが低減することを発見 北大らの研究**

財経新聞 - 2021/8/7 <https://www.zaikei.co.jp/article/20210807/633211.html>

乳酸菌には多くの種類があり、古くから利用されてきた。北海道大学などの研究グループは4日、YRC3780という乳酸菌株が、ストレスによって体内で起こる反応を穏やかにすることを発見したと発表した。この乳酸菌により、ストレスによる精神の不調や疾患を防ぐ食品が開発されることに期待したい。-----

### **関連情報追記**

**北海道大学ニュースリリース** <https://www.hokudai.ac.jp/news/2021/08/ycr3780.html>

## **スポーツにおける植物性タンパク質の可能性 動物性タンパク質との違いは？ ナラティブレビュー**

スポーツ栄養 WEB - 2021/8/19 <https://sndj-web.jp/news/001462.php>

植物性タンパク質は、アミノ酸スコアなどの点で動物性タンパク質よりも下位に位置付けられることが少なくない。しかし近年、植物性タンパク質の重要性を見直す機運が高まっている。例えば、癌や糖尿病、心血管疾患リスクとの関連で、あるいは社会の持続可能性という点で植物性タンパク質の優位性が注目されつつある。-----

## **$\beta$ -アラニン+L-アルギニン+ブラックミンで、イラン軍士官候補生のパフォーマンスが改善**

スポーツ栄養 WEB - 2021/8/20 <https://sndj-web.jp/news/001463.php>

イラン軍の士官候補生が参加した二重盲検無作為化比較試験の結果、 $\beta$ -アラニン、L-アルギニン、およびブラックミン（ブラックシード、ニゲラサティバ）から成る栄養バーの2週間の摂取によって、嫌気性パフォーマンスに有意差が生じ、高感度CRPやTNF- $\alpha$ の動態にも相違が生じたという研究結果が報告された。-----



## DHA と EPA、炎症性疾患関連の下部消化管の収縮機能異常を改善する可能性－東邦大

QLifePro 医療ニュース - 2021/8/12

<http://www.qlifepro.com/news/20210812/dha-epa.html>

### 回腸や結腸などの運動性に対する n-3 多価不飽和脂肪酸の影響は？

東邦大学は 8 月 10 日、魚油に多く含有され、健康食品成分としても注目されているドコサヘキサエン酸（DHA）、エイコサペンタエン酸（EPA）が下部消化管平滑筋の収縮反応を非選択的に抑制することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大薬学部薬理学教室の田中芳夫教授、吉岡健人助教、小原圭将講師らの研究グループによるもの。研究成果は、「Biological and Pharmaceutical Bulletin」に掲載されており、Highlighted paper selected by Editor-in-Chief および Featured Article として推薦されている。-----

## ■ その他の注目研究・技術情報

### 運動は DNA の変化を通じて健康を改善

リンク DE ダイエット – 2021/8/6（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.8.6, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75802&-lay=lay&-Find.html>

定期的な運動が事実上すべての慢性疾患のリスクを低下させることは広く知られているが、そのメカニズムは完全にはわかっていない。今回コペンハーゲン大学の研究チームは、身体運動の有益な効果が、私たちの DNA のエピジェネティックな変化に部分的に起因している可能性があることを発見した。

### レーザー及びデータサイエンスを駆使したリンゴ内健康機能性成分「プロシアニジン」の簡便な計測技術開発

弘前大学、理化学研究所 - 2021/8/19

[https://www.riken.jp/press/2021/20210819\\_5/index.html](https://www.riken.jp/press/2021/20210819_5/index.html)

弘前大学と理化学研究所の共同研究グループは、リンゴに特徴的に含まれる健康 機能性成分である「プロシアニジン」を非破壊かつ簡便、スピーディーに測定する技術を開発しました。-----。本研究結果により、レーザーポインター程度の微弱なレーザー光を照射する

(ラマン分光法)だけでリンゴに含まれる「プロシアニジン」含量を推定することが可能になりました。-----

## **天然物が持つ鏡像異性な環状骨格を作り分ける**

### **—2つの酵素の反応機構を解明—**

鳥取大学、理化学研究所、摂南大学 - 2021/8/19

[https://www.riken.jp/press/2021/20210819\\_7/index.html](https://www.riken.jp/press/2021/20210819_7/index.html)

鳥取大学大学院工学研究科の永野真吾教授ら、摂南大学農学部の加藤直樹准教授、国立開発法人理化学研究所 環境資源科学研究センター天然物生合成研究ユニットの高橋俊二ユニットリーダーら、同計算科学研究センター粒子系生物物理研究チームの杉田有治チームリーダーら、および東京大学大学院薬学系研究科の滝田良准教授らの共同研究グループは、ディールス・アルダー反応を触媒する2つの酵素が、天然物を合成する過程で鏡像異性体を作り分ける仕組みを解明しました。-----

## **アルバータ大学 - AI研究のための「健康情報解析プラットフォーム」**

The Medical AI Times - 2021/8/5 <https://aitimes.media/2021/08/05/8668/>

カナダ・アルバータ州エドモントンに所在するアルバータ大学はこのほど、ヘルスデータの管理・分析を行う新しいプラットフォームを立ち上げた。ビッグデータ・プレジジョンヘルス・機械学習などを主要なキーワードとして、関連研究推進のための強力なツールとなることが期待されている。-----

## **NEC ソリューションイノベータ、生産状況を可視化する「NEC AI・画像活用見える化サービス」を機能強化**

IoT News - 2021/8/18 <https://iotnews.jp/archives/181678>

近年、食品製造業の生産工程では、目視による検品作業が行われており、熟練作業者の高齢化によって、技術の継承が将来にわたる課題となっている。その課題を解決するため、NEC ソリューションイノベータ株式会社では良品・不良品の画像から、AI技術で良品・不良品を判定する「NEC AI・画像活用見える化サービス / 生産管理・検査支援」を提供し、現場作業者の作業効率と品質の向上を支援してきた。-----

## **■ その他**

今回は特に見当たりませんでした。

以上

## 健康食品等に関する 日本語記事情報（2021年9月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。  
（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

*なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。*

英文記事情報については別途お送りいたします。

*記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。*

### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年9月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2390>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2388>

素材情報データベース（新規） 9月7日14時の時点ではありませんでした。

2021年8月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2374>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2373>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2380>

### 食品安全情報（化学物質）No.18 (2021.09.01)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202118c.pdf>

別添：「ヘンプを含む食品の健康リスクに関するよくある質問」

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202118ca.pdf>

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## **食品安全情報 blog2 - 2021/8/23**

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/08/23/182713>

[BfR] ヘンプを含む食品の健康リスクに関するよくある質問

## **PIO-NET にみる 2020 年度の危害・危険情報の概要**

独立行政法人国民生活センター - 2021/9/2

[http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20210902\\_4.html](http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20210902_4.html)

## **■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）**

### **インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示に対する要請について(令和3年4月～6月)**

消費者庁 - 2021/9/7

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant\\_advertisement/assets/representation\\_cms214\\_210907\\_01.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant_advertisement/assets/representation_cms214_210907_01.pdf)

## **■ 行政・法令関連情報（その他）**

### **食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法**

厚生労働省 - 2021/9/6

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/zanryu/zanryu3/siken.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/zanryu/zanryu3/siken.html)

食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）の第1食品の部A食品一般の成分規格の6の(1)の表の第1欄、7の(1)の表の第1欄及び9の(1)の表の第1欄に掲げ

る農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質（その物質が化学的に変化して生成した物質を含む。）の試験法（同表第3欄に「不検出」と定めているものに係るものを除く。）について、次のとおり定める。-----

## 食品に残留する農薬等の試験法 関連通知・事務連絡（本文）

厚生労働省 - 2021/9/6

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/zanryu/zanryu3/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/zanryu/zanryu3/index.html)

## 「食薬区分における成分本質（原材料）の取扱いの例示リスト」の一部改正に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2021/8/26

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495210189&Mode=0>

**締切は9月24日です。**

## 第3回アフィリエイト広告等に関する検討会の資料を公表しました。

消費者庁 - 2021/8/30

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting\\_materials/review\\_meeting\\_03/025320.html](https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_03/025320.html)

## 環境省、食品大手9社と食の持続可能性で議論

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2021/8/30

<https://www.alterna.co.jp/40274/>

環境省は8月30日、味の素やイオンなど「食」にかかわる大手企業9社と食生活からサステナビリティを考える意見交換会を開いた。環境省からは小泉進次郎・環境相と堀内詔子・環境副大臣が参加した。食のサステナビリティを切り口に、環境課題の解決策について話し合った。（オルタナS編集長＝池田 真隆）-----

## ■ 海外公的機関情報

以下の 15 件は、2021 年 8 月 6 日～9 月 6 日に食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) にアクセスした際に、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、チコリ由来イヌリンの酵素的加水分解から得られるフルクタン類の混合物であるフルタロースと正常な排便に対し、健康強調表示について評価する科学的意見書を公表](#)

[欧州連合\(EU\)、カドミウムに関する特定の食品中の基準値\(maximum level\)の改正を官報で公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、新たな食品添加物としての架橋型ポリアクリル酸ポリマー\(カルボマー\)の安全性評価に関する科学的意見書を公表](#)

[欧州連合\(EU\)、特定の食品中の鉛の基準値\(maximum level\)の改正を官報で公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、欧州議会及び理事会規則\(EC\)No 1924/2006 第 13 条第 5 項に基づく健康強調表示「MegaNatural-BP ぶどうの種子抽出物と正常血圧の維持」の評価に関する科学的意見書を公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品接触材料中で使用する銀ナノ粒子の安全性評価に関する科学的意見書を公表](#)

[ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、食生活と血中 PFAS 濃度に関する論文を紹介](#)

[米国食品医薬品庁\(FDA\)、フッ素化ポリエチレン食品接触容器に関して業界宛に文書を発出](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、ステビア葉の高度精製抽出物ステビオシド及び/又はレバウジオシド A を酵素による生物変換で産生したレバウジオシド AM を含むステビオール配糖体の調製品の安全性評価に関する科学的意見書を公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、「ナノ粒子を含む微小粒子の含有を立証するための、規制食品及び飼料の申請に対する技術的要件に関するガイダンス」を公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、更新されたガイダンス「食品及び飼料チェーンにおいて適用されるナノ材料のリスク評価に関するガイダンス: ヒトの健康及び動物衛生」を公表](#)

[世界保健機関\(WHO\)、「より良い健康をもたらすフードシステム: エグゼクティブサマリー」を公表](#)



[カナダ保健省\(Health Canada\)、Yarrowia lipolytica VRM 由来のステビオール配糖体を種々の食品への使用を可能にする、認可されている甘味料リストの変更を通知](#)

[ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、食品及び化学物質のエクスポゾームのリスク評価のための前向き全混合物アプローチに関する論文を紹介](#)

*追記：8月26日付けの食品安全情報 blog2 で、少し詳しく説明されています。*

[ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、ドイツがパーフルオロアルキル化合物\(PFAS\)に関する規制案を欧州化学品庁\(ECHA\)に提出する意向を表明したとの情報提供](#)

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

[富士経済、環境配慮やイエナカなどをキーワードに分析した清涼飲料市場の調査、2021年ラベルレス飲料市場は205億円と前年比2.4倍に](#)

マイライフニュース - 2021/9/6

<https://www.mylifenews.net/data/2021/09/202120524.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、コロナ禍によって飲用シーンや消費者ニーズが大きく変わった清涼飲料市場について「環境配慮」「イエナカ」「経済性」「健康性」というキーワードを軸に横断的に分析した。その結果を「飲用シーン・消費者ニーズ別清涼飲料カテゴリー分析調査」にまとめた。-----

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

[筋力維持やダイエット、メンタルケアまで コロナ禍のニーズをキャッチした提案加速（特集／アミノ酸）](#)

健康メディア.com - 2021/8/30

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15527](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15527)

スポーツ実施率が統計以来過去最高の約6割に達した（スポーツ庁調べ）。コロナ禍による外出機会の減少や運動不足などを背景に、ドラッグストアなどの店頭ではバリン・ロイシン・イソロイシンをはじめ、EAA、HMB、アルギニンを配合した商品が好調に推移している。機能性研究では、脱水症予防やメンタルケアに関する新たな知見も報告された。サブライヤーサイドでは今後の需要増を睨み、汎用性を高めた原料や機能性を向上させたプレミックス原料の提案を強化している。-----

## 新油市場、300 億円にリーチ（特集／注目の植物油）

健康メディア.com - 2021/9/2 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15534](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15534)

「新油」市場が拡大を続けている。アマニ油、シソ・エゴマ油、米油、MCT（中鎖脂肪酸）オイルを中心に、マーケットサイズは 290 億円超に。機能性と呈味性を併せ持つ“サブリのオイル”“食べる油”として、市場規模は 6 年で 3 倍以上に拡大した。カメリナ、アルガン、チアシード、ココナッツ、ヘンプなど、ネクストオイルも続々登場しており、-----

## 日本の消費者市場で急増するプラントベース（植物性）の菓子の需要（Mintel グローバルトレンドレポート 2）

健康メディア.com - 2021/9/2 [https://www.kenko-media.com/food\\_devlp/archives/5252](https://www.kenko-media.com/food_devlp/archives/5252)

新型コロナウイルスの蔓延以降、日本の消費者は、プラントベース、いわゆる植物由来の製品の健康効果に魅力を感じています。間食として食べる菓子においても植物性ならではの低カロリー、ダイエットに適した栄養素の含有量に魅了されています。----

## 医師と大学の共同研究で開発された低 GI 食品 「からだにやさしいお砂糖」を 9 月 13 日(月)に販売開始

大東製糖株式会社 - 2021/9/3 <https://www.atpress.ne.jp/news/274125>

大東製糖株式会社(本社：千葉県千葉市、代表取締役社長：木村 成克)は 2021 年 9 月 13 日(月)より「からだにやさしいお砂糖」の販売を開始します。-----。今回発売する「からだにやさしいお砂糖」は、医師と大学の共同研究で開発された砂糖です。外部機関でのヒト臨床試験の結果、「からだにやさしいお砂糖」は、さとうきび原料 100%の砂糖でありながら低 GI 食品(GI 値 53)であることが確認されました。-----

## ■ 企業動向、注目ビジネス情報

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 消費者意識等の調査・分析

## ニチバン、自肅痛と睡眠に関する調査、コロナ禍の平均睡眠時間は 6.5 時間と睡眠不調は深刻に

マイライフニュース - 2021/8/31 <https://www.mylifenews.net/data/2021/08/65.html>

ニチバンは、新型コロナウイルスによる生活様式の変化によって増加している体調不調を「自肅痛」と称し、実態調査や対策法を発信している。今回、9月3日の「睡眠の日」に先駆け、「コロナ禍の睡眠不調」について8月に20代から60代までの男女500名を対象に調査を実施した。-----

## ■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

### ビタミンCと癍痕強度：歴史的研究の新たな分析

リンク DE ダイエット - 2021/8/23（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.8.23, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75896&-lay=lay&-Find.html>

ビタミンCは、WHOの推奨量よりもかなり多く必要である可能性がある、という米国ブリガム・アンド・ウイメンズ病院からの研究報告。-----

### 高脂肪食、腸内細菌、心臓病の間のミッシングリンクを発見

リンク DE ダイエット - 2021/8/24（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.8.24, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75903&-lay=lay&-Find.html>

高脂肪食は、腸上皮とその微生物叢を破壊し、心臓病に寄与する可能性のある代謝物の生成を促進するようだ、という米国ヴァンダービルト大学医療センターからの研究報告。-----

### 大規模遺伝子分析が摂食と関連する26の遺伝子領域を同定

リンク DE ダイエット - 2021/8/26（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.8.26, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75924&-lay=lay&-Find.html>

個人の摂食に影響する可能性のある 2 ダース以上の遺伝子領域を同定した、というマサチューセッツ総合病院などからの研究報告。-----

## ハーブ成分がパーキンソン病を予防および治療する？

リンク DE ダイエット - 2021/8/27 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.8.27, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75935&-lay=lay&-Find.html>

ハーブやベリーその他のフルーツに自然に含まれる化合物ファルネソールが、パーキンソン病に関連する脳損傷を予防および回復させるという証拠を追加した、という米国ジョージア州ホプキンス大学による動物実験の報告。-----

## コレステロールを低下させるピーカンナッツ？

リンク DE ダイエット - 2021/9/1 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.9.1, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75953&-lay=lay&-Find.html>

ピーカンナッツの 8 週間の摂取で、総コレステロール、LDL-コレステロール、中性脂肪が有意に改善された、という米国ジョージア州大学からの研究報告。-----

## フルクトースがマウスの肥満に寄与するメカニズムが明らかに

リンク DE ダイエット - 2021/9/2 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.9.2, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75961&-lay=lay&-Find.html>

フルクトース (果糖) を摂取すると消化管の細胞が変化し、より多くの栄養素が吸収されるようになるようだ、という米国ワイルコーネル医科大学などから前臨床試験の報告。世界中で増加しているフルクトース摂取と肥満および特定のがんの増加率との間のよく知られた関連を説明するのに役立つ可能性があるという。-----

## 腸内細菌とフラボノイドは関連して血圧レベルを改善する？

リンク DE ダイエット - 2021/9/3 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.9.3, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75968&lay=lay&-Find.html>

ベリー、リンゴ、ナシ、ワインなどのフラボノイドが豊富な食品は、部分的には腸内細菌を通じて血圧レベルにプラスの影響を与えるようだ、というクイーンズ大学ベルファストからの研究報告。-----

**追記：同日発信の英文記事情報でも以下の論文情報としてご紹介しております。**

「Hypertension」掲載論文：「Microbial Diversity and Abundance of Parabacteroides Mediate the Associations Between Higher Intake of Flavonoid-Rich Foods and Lower Blood Pressure」<https://doi.org/10.1161/HYPERTENSIONAHA.121.17441>

## ロイシンの筋タンパク合成刺激作用の効果を文献レビューで精査 影響する因子は？

スポーツ栄養 WEB - 2021/8/27 <https://sndj-web.jp/news/001469.php>

必須アミノ酸のロイシンによる筋タンパク質合成（MPS）刺激作用に関するシステムレビュー論文が発表された。英国キングス・カレッジ・ロンドンの研究者らの報告。結論として、ロイシンの MPS 刺激作用は支持されるが、そのエビデンスは高齢者対象に運動と組み合わせて行った研究からのものが多いという。-----

## 第7回「クレアチン摂取による骨と脳への効果」

スポーツ栄養 WEB - 2021/9/2 <https://sndj-web.jp/news/001481.php>

----

第7回目は前回（クレアチン摂取による脳損傷、持久パフォーマンスへの効果）に引き続き、クレアチン研究の第一人者であるラルフ・イエーガー博士らに、近年研究が進みつつある、クレアチン摂取による骨や脳への効果をテーマに執筆いただきました。-----

## 飲み物の「容器」の色によって味を感じる強さが変わる 食習慣改善への応用に期待

スポーツ栄養 WEB - 2021/9/3 <https://sndj-web.jp/news/001480.php>

飲み物の容器の色によって味を感じる強さが変わることがわかった。容器の色を調整することで、減塩や糖質制限にもつながる可能性もあるという。千葉大学の研究グループによる成果で、日本視覚学会の学術誌「VISION」に論文が掲載されるとともに、同大学のサイトにニュースリリースが掲載された。-----

追記：8月10日発信の日本語記事情報（2021年8月号No.1）で、マイナビニュースの記事タイトルとURLをご紹介しましたが、再度ご紹介いたします。

## 乳酸菌入り乳製品の習慣的摂取で高齢者の腸内細菌叢が安定する可能性 —ヤクルトほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/9/6

<http://www.qlifepro.com/news/20210906/elderly-intestinal-bacteria.html>

### 高齢者 218 人を対象に、腸内細菌叢の経時変化と乳酸菌摂取が腸内細菌叢の変化に与える影響を検証

株式会社ヤクルト本社は9月2日、群馬県吾妻郡中之条町（以下、中之条町）に在住の高齢者を対象に、腸内細菌叢の経時変化と、乳酸菌ラクチカゼイバチルス パラカゼイ シロタ株（以下、L. パラカゼイ・シロタ株）を含む乳製品の習慣的摂取が、腸内細菌叢の変化に与える影響を疫学的に調査した結果を発表した。この研究は、同社と東京都健康長寿医療センター研究所（社会参加と地域保健研究チーム）の青柳幸利専門副部長らの研究グループによるもの。研究成果は、「Scientific Reports」に掲載されている。-----

## 認知症予防にはこんにやく由来グルコシルセラミドが効果的 ～植物 セラミドでヒト脳内アミロイドβ蓄積抑制を確認～

株式会社ダイセル - 2021/8/30 <https://www.daicel.com/news/assets/pdf/20210830.pdf>

北海道大学大学院先端生命科学研究院の五十嵐靖之客員教授、門出健次教授、湯山耕平特任准教授らの研究グループは、株式会社ダイセル、北海道情報大学健康情報科学研究センターと共同でヒト介入試験を実施し、植物由来セラミドが脳内アミロイドβペプチド(Aβ)蓄積を軽減させることを発見しました。-----

## 【論文掲載】エクストラバージンオリーブオイルの ヒトのストレス反 応に対する影響を脳血流動態計測で評価

株式会社 J-オイルミルズ - 2021/9/2

[https://www.j-oil.com/press/article/210902\\_002747.html](https://www.j-oil.com/press/article/210902_002747.html)

このほど株式会社 J-オイルミルズ（東京都中央区、代表取締役社長：八馬 史尚、以下当社）は、慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科 満倉 靖恵（みつくら やすえ）教授のご協力のもと、NIRS 脳計測装置（※1）を用いた脳血流動態計測によって、エクストラバージンオリーブオイルのヒトのストレス反応に対する影響を評価しました。試験では、エクストラバージンオリーブオイル摂取条件は、エクストラバージンオリーブオイル未



摂取条件に比べ、1時間後のストレスレベルが低くなりました。条件については、2 ページ目の<試験概要>をご参照ください。本研究に関する論文は学術誌「Food Science & Nutrition」に掲載されています。（Yasue Mitsukura, et al., Food Science & Nutrition. 2021 April; 9(4): 1851-1859.) -----

## **紅茶ポリフェノールに高コレステロール血症予防の可能性、東大が確認**

マイナビニュース - 2021/8/30 <https://news.mynavi.jp/article/20210830-1960043/>

## **フキノトウの成分ががん細胞の増殖と転移を極めて強く抑制 岐阜大学発見**

大学ジャーナルオンライン - 2021/9/7 <https://univ-journal.jp/115488/>

フキノトウに含まれる「ペタシン」ががんの増殖と転移を強く抑制することを、岐阜大学のグループがシーシーアイなどとの共同研究で明らかにした。-----

## **サルコペニア予防に筋トレ+必須アミノ酸+茶カテキンを**

Care Net - 2021/9/3 <https://www.carenet.com/news/general/hdnj/52876>

高齢者のサルコペニアの予防に筋力トレーニングが推奨されているが、必須アミノ酸と茶カテキンの摂取を追加すると、より大きなメリットを得られる可能性を示唆するデータが報告された。骨格筋量の増大に加えてバランス力も向上できる可能性が示唆されたという。徳島大学先端酵素学研究所の森博康氏らの研究によるもので、詳細は「Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition」6月号に掲載された。-----

## **■ その他の注目研究・技術情報**

### **運動は肥満の人の安静時に消費されるカロリーを減らす**

リンク DE ダイエット - 2021/9/7 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.9.7, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75981&-lay=lay&-Find.html>

運動は肥満の人々の安静時に消費されるカロリーを減らすようだ、という英国ローハンプトン大学などの研究グループによる報告。国立健康・栄養研究所の山田陽介特別研究員も参加している。

## 離れていても同じ味、塩味をリアルタイムで転送するシステムを明治大学が開発

大学ジャーナルオンライン - 2021/9/5 <https://univ-journal.jp/115166/>

明治大学総合理学部・宮下芳明研究室の宮下芳明教授、小林未侑さん（先端数理科学研究科 博士前期課程 1 年）が遠隔でも同じ濃さの塩味をリアルタイムで体験できる通信システム「TeleSalty」を開発。岐阜県と東京都を結んだ実証実験を行い、合わせ味噌によって作られた味噌汁の塩味を、東京都にリアルタイムで伝送することに成功した。-----

## 植物の再生と防御のスイッチ

### —転写因子 WIND は道管再形成や自然免疫も制御する—

理化学研究所 - 2021/8/20 [https://www.riken.jp/press/2021/20210820\\_2/index.html](https://www.riken.jp/press/2021/20210820_2/index.html)

理化学研究所（理研）環境資源科学研究センター細胞機能研究チームの岩瀬哲上級研究員、杉本慶子チームリーダー（東京大学大学院理学系研究科教授）、植物免疫研究グループのアヌボン・ラオハビシット研究員、白須賢グループリーダー（東京大学大学院理学系研究科教授）、神戸大学大学院理学研究科の近藤藤貴准教授、新潟大学理学部の池内桃子准教授、帝京大学理工学部の朝比奈雅志准教授、京都先端科学大学バイオ環境学部の福田裕穂教授らの共同研究グループは、転写因子 WIND が傷口のカルス化だけでなく、道管の再形成や病原菌への抵抗性獲得に重要な働きをしていることを発見しました。-----

## 老化細胞が慢性炎症引き起こす仕組みを解明 がんの予防にも期待 がん研究会ら

財経新聞 - 2021/8/26 <https://www.zaikei.co.jp/article/20210826/635890.html>

がん研究会、科学技術振興機構などは 24 日、老化細胞が慢性的な炎症を引き起こす仕組みを解明したと発表した。研究グループによれば、サテライト II RNA と呼ばれる非翻訳 RNA によって、炎症に関する遺伝子のスイッチが ON になり、慢性的な炎症が引き起こされるという。-----

## 培養肉で和牛の「サシ」まで再現する 3D プリント技術、大阪大学などが開発

大学ジャーナルオンライン - 2021/8/31 <https://univ-journal.jp/113984/>

大阪大学大学院の松崎典弥教授らの研究グループは、和牛肉の複雑な組織構造を自在に再現可能な「3D プリント金太郎飴技術」を開発。筋・脂肪・血管の線維組織で構成された和

牛培養肉の構築に世界で初めて成功した。研究には、凸版印刷株式会社、弘前大学、日本ハム株式会社、キリンホールディングス株式会社、株式会社リコー・リコーフューチャーズ、リコージャパン株式会社、大阪工業大学が参加している。-----

## 光照射で内包物を放出する結晶カプセル、龍谷大学が開発成功

大学ジャーナルオンライン - 2021/8/31 <https://univ-journal.jp/113440/>

龍谷大学先端理工学部の内田欣吾教授のグループが、種を弾き飛ばすホウセンカの実を模倣した「光を照射することで内包物を放出する結晶カプセル」の開発に成功した。-----

**追記：記事の後半では、“また、「生体の窓」と呼ばれる、生体内に深く浸透する波長域の近赤外光でも、結晶を破壊できることが確認された。このことは、生体内に導入後も、カプセルを内部で光破壊させて薬物などの放出に使うことができる可能性を示している。”とも説明されています。**

## レム睡眠中の脳、毛細血管の血流が大きく上昇 筑波大学と京都大学が観測成功

大学ジャーナルオンライン - 2021/9/3 <https://univ-journal.jp/115033/>

筑波大学と京都大学の研究グループは、睡眠中の動物の脳における毛細血管中の赤血球の流れを直接観測することに、世界で初めて成功。レム睡眠中の毛細血管の血流が大幅に上昇することが分かった。-----

## エクサウィザーズ他 3 社、医療従事者向け歩行機能評価アプリを共同開発し国内 3 病院にて実証試験を開始

IoT News - 2021/8/30 <https://iotnews.jp/archives/186058>

株式会社エクサウィザーズは、アステラス製薬株式会社、国立長寿医療センター荒井秀典理事長、および順天堂大学・スポーツロジセンターと共同で、主に運動機能に課題を持つ高齢者の歩行機能を評価するスマートフォン用のアプリケーションを開発した。-----

## マクニカ、脳科学を活用し AI の可能性を拡張する「BRAIN AI Innovation Lab」を設立

IoT News - 2021/9/ <https://iotnews.jp/archives/179692>

株式会社マクニカは、7月14日「BRAIN AI Innovation Lab（以下、BRAIL）」設立に関する記者発表会を開催した。

「BRAIL」は、AIに脳科学の要素を取り入れ、AIの可能性の拡張やその実装の支援を行う組織である。また、様々な課題に対して、脳科学をベースにしたソリューションをパートナーとの連携により生み出し、社会実装を加速していくとした。-----

## fMRI 画像から軽度認知障害を超高精度に分類

The Medical AI TIMES - 2021/9/7 <https://aitimes.media/2021/09/07/8899/>

脳活動を画像化する fMRI を AI 手法で解析することで、アルツハイマー病および軽度認知障害 (MCI) を診断する試みがある。その中でブレイクスルーとも言えるほど極めて高い精度を達成したディープラーニングモデルが、リトアニア・カウナス大学の研究グループによって発表された。-----

## 触覚に係る「メルケル細胞」を活性化して「オキシトシン」を増やす成分を発見

株式会社ファンケル - 2021/9/7

[https://www.fancl.jp/news/pdf/20210907\\_merukerusaibou.pdf](https://www.fancl.jp/news/pdf/20210907_merukerusaibou.pdf)

株式会社ファンケルは、加齢で鈍化する触覚機能と肌状態の関係に着目し、やさしく触れられた刺激を受容する感覚受容器のメルケル細胞(補足参照)と皮膚老化との関連性について研究を行っています。今回、メルケル細胞は外的ストレスや老化など皮膚環境の変化に応答して機能が低下することを見出し、表皮や真皮の老化に影響を与える可能性を確認しました。さらに、機能性ペプチド「デカペプチド」がメルケル細胞を活性化し、細胞老化を防ぐオキシトシン量を増やすことを発見しました。-----

## ■ その他

## ユビテックとキリンビール、作業者の安全見守りサービス「Work Mate」の実証実験を開始

Iot NEWS - 2021/8/19 <https://iotnews.jp/archives/181862>

昨今、少子高齢化にともない国内の労働実行の減少が社会課題となる中、職場環境の改善と従業員の安全・健康を守ることは急務となっている。現在、猛暑日の増加にともなう熱中症による救急搬送者数が年々増加傾向にあるように、工場現場における熱中症リスクも高まっている。-----

以上

## 日本語記事情報（2021年9月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年9月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2390>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2388>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2398>

● 「タモギタケ」（210916） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4777.html>

2021年8月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2374>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2373>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2380>

### 食品安全情報（化学物質） No.19 (2021.09.15)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202119c.pdf>

別添： 1. EU へ輸出したラーメンにおける 2-クロロエタノール検出について

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202119ca.pdf>

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

### イマジン・グローバル・ケア株式会社に対する景品表示法に基づく課徴金納付命令について

消費者庁 - 2021/9/15 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/025628/>

消費者庁は、本日、イマジン・グローバル・ケア株式会社に対し、同社が供給する「ブロリコ」と称する食品に係る表示について、景品表示法第8条第1項の規定に基づき、課徴金納付命令を発出しました。……

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 海外公的機関情報

*以下の6件は、2021年9月9日～9月21日に食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) にアクセスした際に、気になったものを選定しました。*

*見出しのクリックで内容をご覧ください。*

[ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、パーフルオロブタン酸\(PFBA\)のヒトの肺及び腎組織への高濃度蓄積はないとする論文を紹介](#)

[米国食品医薬品庁\(FDA\)、加工食品での初めての調査による PFAS 検査結果を公表](#)

[カナダ食品検査庁\(CFIA\)、大豆たん白質分離物及び加水分解大豆たん白質の肉製品への使用に関する表示要件について再度情報提供](#)



[欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての黄色ミールワーム\(Tenebrio molitor larva\)の個体全体に由来する冷凍及び乾燥調整品の安全性を評価した科学的意見を公表](#)

[欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報に公表\(2021年8月18日~8月24日\)](#)

[欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報に公表\(2021年8月14日~8月17日\)](#)

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 特保市場、13.6%減 5,610 億円 「整腸」など伸び悩む

健康メディア.com - 2021/9/13 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15540](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15540)

（公財）日本健康・栄養食品協会は7月30日、2020年度の特定保健用食品市場が前年度比13.6%減の5,610億円になったとする調査結果を公表した。金額の大きい「整腸」が18%減となり、特に食物繊維の減少幅が大きかった。-----

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

### 上期好調維持も…市場は「戦国時代」へ（特集／青汁）

健康メディア.com - 2021/9/16 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15559](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15559)

本紙が7月中旬~8月初旬に掛けて青汁製品の主要サプライヤー、受託加工・製造事業者、販売メーカーなどを対象に実施した調査の結果、今年上期の青汁製品の市場は、前年同期比を上回るペースで推移、好調をキープしていることがわかった。長引く新型コロナ禍で国民の健康意識はますます高まる中、青汁製品の底堅さが垣間見られる。-----

## ■ 企業動向、注目ビジネス情報

### 地域特産品の活用活発—有力企業とアカデミアの産学連携進む（特集／北陸）

健康メディア.com - 2021/9/14 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15550](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15550)

北陸地域では、全国的にも知名度の高い健康食品や飲料水のメーカーが集積。健康食品業界の製造拠点としての役割を果たしている。また、アカデミアとの産学官連携で地域特産品を活用した健康食品・化粧品開発も盛んで、富山県では健康・美容分野から再生医療や介護分野での活用まで広がりを見せる富山湾の海洋深層水をはじめ、富山市が特産化を推進するエゴマの栽培から加工、販売までを展開。-----

## **日清食品の「完全栄養食」が "ロボットによる調理の自動化" でさらに進化 食領域に特化したロボット開発で世界をリードする TechMagic に出資し、「スマートキッチン」構想の実現に向けた共同開発契約を締結**

日清食品ホールディングス株式会社 - 2021/9/7 <https://www.nissin.com/jp/news/9943>

日清食品ホールディングス株式会社（社長・CEO:安藤 宏基）は、TechMagic 株式会社（社長:白木 裕士）への出資を実施しました。同社にとって、食品会社からの出資は初めての事例となります。あわせて、弊社の子会社である日清食品株式会社（社長:安藤 徳隆）が研究を進める最新の分子栄養学に基づく「完全栄養食メニュー」のさらなる進化を目指し、同社と調理ロボットの共同開発契約を締結しました。今後は、栄養バランスの取れた食事の調理、盛り付けから提供までを完全に自動化する「スマートキッチン」構想の実現に取り組んでいきます。-----

## **細胞ケアを日本発のグローバル産業に ここまで進んでいる先端研究の社会実装**

ウェルネス総研レポート - 2021/8/30 <https://wellnesslab-report.jp/1286/>

細胞ケアをテーマにしたオートファジーに関する研究は今、創薬・食品素材ともに注目を集めています。この全く新しい市場には、まだ誰も手をつけていない課題があることをご存じですか？それは、研究者にとっては標準として開発の軸となるもの。

一方、一般消費者にとっては、いずれ当たり前のように認識される選択基準となるものです。その測定方法や基準値など、アカデミックに研究を重ねて整備し、科学の専門家でない誰もが分かりやすく選べるものを企業が製品化する世の中を目指す活動があります。ここでは、経済産業省も後押しする、日本オートファジーコンソーシアムの活動、オートファジーの研究から社会実装の裏にある課題や期待、これからの展望について、株式会社 AutoPhagyGO 代表の石堂美和子氏に伺いました。-----

## **森永乳業が進める「記憶応援プロジェクト」あたまの健康チェック® コールセンターサービスの無料提供キャンペーンを実施**

あたまの健康チェック®のミレニア： 「記憶応援プロジェクト」協力企業として参画

株式会社ミレニア - 2021/9/21

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000037.000042711.html>

セントケア・グループ（2374）の株式会社ミレニア（本社：東京都港区）は、森永乳業株式会社（本社：東京都港区）が10月12日（火）より全国で発売を開始する新商品「メモリービフィズス 記憶対策」シリーズの発売にあわせて推進する「記憶応援プロジェクト」の外部協力企業として参画することとなりましたのでお知らせいたします。-----

## 成長著しい「自社通販」 通販商品にSDGsの波も

食品新聞 - 2021/9/17 <https://shokuhin.net/47228/2021/09/17/topnews/>

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### 「のむヨーグルト」に関する調査、手軽なたんぱく質摂取方法として「のむヨーグルト」に注目、「のむヨーグルト男子」が実践する飲み方第1位は「ヨーグルトコーヒー」

マイライフニュース - 2021/9/9

<https://www.mylifenews.net/data/2021/09/1-20204100546.html>

生活者の“健康と暮らし”に関する情報を発信するポータルサイト「マイライフニュース」を運営するヒューマン・データ・ラボラトリは、「のむヨーグルトの喫食状況」を知るため、数か月に1回以上の頻度でヨーグルトを食べる（固形タイプ以外の飲むタイプも全て含む）全国の男女1000名を対象にアンケート調査を実施した（実施時期：6月3日～4日）。-----

### セコム、老後の不安に関する意識調査、8割が「病気・ケガ」に不安とする一方で健康維持と老後に備えた対策は6割が講じず

マイライフニュース - 2021/9/8 <https://www.mylifenews.net/data/2021/09/86-1.html>

セコムは、全国の20代以上の500名（20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60歳以上／男女各50名）を対象に、「老後の不安に関する意識調査」を実施した。その結果、老後の不安は8割が「病気・ケガ」と過去10年で最多となった。一方、健康維持と老後に備えた対策は6割が講じていないことがわかった。-----

## 「ステイホームの健康意識調査 2021 年」シニア世代&働き世代の 2 人に 1 人が 警戒「認知機能」が健康不安の第 1 位 専門家が警鐘：ステイホームの生活による、認知機能の低下リスクの恐れ

株式会社山田養蜂場 - 2021/9/13

[http://beekeeper.3838.com/release/20210913\\_newrelease.pdf?sc\\_bid=sint\\_upd\\_top\\_532](http://beekeeper.3838.com/release/20210913_newrelease.pdf?sc_bid=sint_upd_top_532)

株式会社山田養蜂場(本社：岡山県苫田郡鏡野町、代表：山田英生、以下「山田養蜂場」)は、全国の 30 歳以上男女 3,391 名を対象に健康に関する意識調査を行いました。本調査はお客様の生活や健康意識の現状を知るため 2019 年から実施しており、3 回目の調査結果となります。今回の調査では、自粛生活などの新しい生活様式の浸透による影響も確認されました。

## 『中国における健康意識と日本食に関する調査』 2021 年

～ 中国における健康意識と健康のために利用している食品や飲料  
& 日本食に対するイメージとメニューの認知、喫食経験に関する調査 ～

株式会社日本能率協会総合研究所 - 2021/9/3

[https://jmar-im.com/news/research\\_china2021/](https://jmar-im.com/news/research_china2021/)

## **■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）**

### 鉄サプリメントは子供の認知機能を改善しない？

リンク DE ダイエット – 2021/9/13（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.9.13, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76016&lay=lay&Find.html>

鉄分のサプリメントは、貧血を改善するが認知機能を改善しなかった、というバングラデシュの子供 3,300 人を対象とした豪州ウォルターアンドライザホール医学研究所からのランダム化比較試験の結果報告。-----

### 高脂肪食は肥満に先立ちラットの体内時計を壊す？

リンク DE ダイエット – 2021/9/10（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.9.10, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75994&lay=lay&Find.html>

ラットが高脂肪食を食べると、脳の食欲調節に関わる部位の体内時計が乱され、過食や肥満に導かれるようだ、というポーランド・ヤギェウォ大学などからの研究報告。-----

## クルミの摂取が LDL-コレステロールを低下

リンク DE ダイエット – 2021/9/10 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.9.10, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76001&-lay=lay&-Find.html>

2年間毎日 1/2 カップのクルミを食べることで、LDL-コレステロールの血中レベルが低下した、という米国ロマリダ大学などからの研究報告。-----

## 高齢者の脳の鉄分低下、認知力の向上に関連する健康的な食事摂取

リンク DE ダイエット – 2021/9/10 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.9.10, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76000&-lay=lay&-Find.html>

特別な栄養素の高い摂取が、高齢者の脳の鉄濃度の低下とより良い認知機能に関連しているようだ、という米国ケンタッキー大学からの研究報告。-----

## ヒトの筋肉増強を刺激する分子を同定？

リンク DE ダイエット – 2021/9/14 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.9.14, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76025&-lay=lay&-Find.html>

ロイシン 2 分子が結合したジロイシンは、ロイシンよりも筋肉の成長を促進する代謝プロセスを高めるようだ、という米国イリノイ大学からの研究報告。-----

**追記：前々号の英文記事情報 (8月25日発信) で以下の論文情報としてご紹介しました。**

「Journal of Applied Physiology」掲載論文 (オープンアクセス) : 「Dileucine ingestion is more effective than leucine in stimulating muscle protein turnover in young males: a double blind randomized controlled trial」

<https://journals.physiology.org/doi/abs/10.1152/jappphysiol.00295.2021>

## アボカドは女性の腹部脂肪分布を変化させる？

リンク DE ダイエット - 2021/9/16 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.9.16, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76044&-lay=lay&-Find.html>

毎日のアボカド摂取は、女性の体脂肪をより健康的な構成に再配分するのに役に立つ可能性が高い、という米国イリノイ大学アーバナシャンペン校からの研究報告。-----

## **研究者らは過食は肥満の主な原因ではないと主張する**

リンク DE ダイエット - 2021/9/18 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.9.18, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76053&-lay=lay&-Find.html>

どれくらい食べるかよりは、何を食べるかが、肥満蔓延の根底にある原因かもしれない、という『米国臨床栄養学雑誌』の視点欄記事。-----

## **「超加工食品」を減らせば飽和脂肪酸摂取量が有意に減る 8カ国横断調査の結論**

スポーツ栄養 WEB - 2021/9/8 <https://sndj-web.jp/news/001479.php>

添加物や保存料などの使用等、食材を高度に変化させた超加工食品の摂取量を国全体で減らすことで、その国の国民の飽和脂肪酸の摂取量を大きく減らせることを、シミュレーションによって示した研究結果が報告された。調査対象とした8カ国のすべてで、有意な効果が見込まれるという。-----

## **新型コロナ関連の味覚異常や下痢への亜鉛による介入 根拠とメカニズムと留意事項**

スポーツ栄養 WEB - 2021/9/10 <https://sndj-web.jp/news/001490.php>

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) では、味覚異常や下痢が現れやすいことが知られている。一方、COVID-19によるものでない成人の味覚異常や小児の下痢に対しては、亜鉛が用いられている。では、成人の COVID-19に伴う味覚異常や下痢に対して亜鉛を用いるという介入は、推奨されるのだろうか。この点に関するブラジルのウベルランディア国立大学の研究者によるレビュー論文が、「Nutrition reviews」に掲載された。大意を紹介する。-----



## **筋トレ後の必須アミノ酸+茶カテキン摂取で、高齢者の骨格筋量指数とバランス力が上昇 徳島大**

スポーツ栄養 WEB - 2021/9/9 <https://sndj-web.jp/news/001489.php>

高齢者のサルコペニア予防のための筋力トレーニング直後に、ロイシンが高配合された必須アミノ酸を摂取することによって骨格筋量指数（Skeletal muscle mass index: SMI）が有意に上昇し、さらに茶カテキンの摂取も加えることでバランス力も有意に上昇するというデータが報告された。一方、筋力トレーニングのみでは SMI の有意な上昇は観察されなかったという。徳島大学先端酵素学研究所の森 博康氏らの研究結果であり、「Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition」に論文が掲載された。

## **運動後の筋肉損傷からの回復におけるビタミン D の役割 ナラティブレビュー**

スポーツ栄養 WEB - 2021/9/11 <https://sndj-web.jp/news/001483.php>

ビタミン D には近年、多彩な機能性があることが明らかになってきている。そのなかで、運動負荷による筋損傷からの回復過程でのビタミン D の機能性に焦点を当てた、スペインの研究者らのナラティブレビュー論文が発表された。-----

## **カフェイン摂取で動態視力がアップし反応時間が短縮する プラセボ対照二重盲検試験**

スポーツ栄養 WEB - 2021/9/17 <https://sndj-web.jp/news/001487.php>

カフェインの新たなエルゴジェニック効果が報告された。日常的なカフェイン摂取量が多くない対象では、カフェイン摂取後に動体視力が向上し反応時間が短縮することが、プラセボ対照二重盲検クロスオーバー試験によって確認され、著者は「スポーツや車の運転、飛行機の操縦」などにメリットとなり得ると述べている。-----

## **脂肪分と糖分の過剰摂取、血管異常の発生部位が異なることをラットで確認—近大ほか**

QLifePro 医療ニュース - 2021/9/16

<http://www qlifepro.com/news/20210916/fat-and-sugar.html>

**高脂肪食と高シュクロース食摂取で、どの部位の大動脈と周囲の脂肪組織に影響が及ぶ？**

近畿大学は 9 月 14 日、脂肪分を過剰に摂取した場合と、糖分を過剰に摂取した場合では、異常が生じる血管の部位が異なることを発見し、その違いが生じる原因も明らかにしたと発表した。この研究は、同大近大学院農学研究科の佐宗宰博士前期課程 2 年生（当時）、

久後裕菜博士研究員、財満信宏教授、森山達哉教授ら、大木製菓株式会社の研究グループによるもの。研究成果は、「Adipocyte」にオンライン掲載されている。-----

## 味の素(株)、6種アミノ酸ミックスが関節の違和感・痛み、腱の状態を改善することを発見 ～アミノ酸のはたらきにより、スポーツをする人々の課題解決に貢献～

味の素株式会社 - 2021/9/21

[https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/presscenter\\_topics/2021\\_09\\_21.pdf?1632190397466](https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/presscenter_topics/2021_09_21.pdf?1632190397466)

味の素株式会社(社長：西井 孝明 本社：東京都中央区)は、最新のスポーツ栄養科学研究を通じて、当社独自の配合によるアミノ酸素材である「関節・腱コンディショニング向け6種アミノ酸ミックス」が、関節の違和感や運動機能および腱の状態を改善することを明らかにしました。-----

## 「パラミロン EOD-1」継続摂取により高齢者の健康ベースアップに寄与する可能性を示唆 ～高齢者のテストステロン低下抑制効果を確認～

株式会社神鋼環境ソリューション - 2021/9/8

<https://www.kobelco-eco.co.jp/topics/news/2021/20210907.html>

株式会社神鋼環境ソリューション（本社：神戸市中央区、社長：大濱敬織）は、65歳～75歳の高齢者を対象に、「ユーグレナグラシリス EOD-1 株由来パラミロン（ $\beta$ -1,3-グルカンとして）」（以下「パラミロン EOD-1」と称す）の摂取による内因性テストステロンの低下抑制効果についての検証試験を行いました。-----

## 今井眞一郎ワシントン大教授が語る「NMN、抗老化効果の真実」

目指すのはプロダクティブ・エイジングの実現

Beyond Health - 2021/9/16（取材・文／福島 安紀＝医療ライター）

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00043/090800005/>

## ■ その他の注目研究・技術情報

### プレスリリース：において生物資源の利活用を促進、三重大と共同で「日本酒」と「畜産」分野における実証実験を開始 (revorn.co.jp)

株式会社レボーン - 2021/9/6

香り×AI×IoTで「にのいの“なんとなく”をなくす」ことを目指す、株式会社レボーン（本社：東京都渋谷区、代表取締役：松岡広明、以下、REVORN）が、三重大学大学院生物資源学専攻環境情報システム工学講座フードシステム学研究室）内藤啓貴助教と共に、生物資源分野において、REVORNで独自開発したIoTにおいセンサ「Obre（オブレ）」を活用した実証実験を2021年9月1日～開始することをお知らせいたします。-----

## **PFNと京都薬科大学、医薬品開発の初期工程を高速化するAI創薬技術を開発**

IoT News - 2021/9/6 <https://iotnews.jp/archives/188063>

-----

株式会社 Preferred Networks（以下、PFN）と京都薬科大学は、深層学習技術と大規模計算資源を用いて、医薬品開発の初期工程におけるリード化合物を得るための候補物質の探索、分子設計、モデリング、最適化を高速化するAI創薬技術を開発した。----

## **NTT東日本と日立、XAIとトレンドデータを活用したAI予測モデルで企業の潜在ニーズを発掘する実証を開始**

IoT News - 2021/9/9 <https://iotnews.jp/archives/191850>

-----

東日本電信電話株式会社（以下、NTT東日本）と株式会社日立製作所（以下、日立）は、AIによる企業のビジネス活動支援に向け、予測根拠を説明できるXAI（Explainable AI）とトレンドデータを活用したAI予測モデルにより、複雑化する市場動向や競争環境を踏まえた顧客の潜在ニーズを発掘し、営業活動における提案内容の最適化を図る仕組みの実証を2021年9月10日より開始する。-----

## **安定同位体を利用した研究成果「ヒトの加齢に伴う1日あたりのエネルギー消費量の変化」の米国科学誌「Science」掲載のお知らせ**

大陽日酸株式会社 - 2021/8/20

[https://www.tn-sanso.co.jp/jp/file\\_download.php?id=gq5vBRmESg0%3D&fileid=GvfsWadEz%2BaryMyE%2Ftc%2BK%2FadYkbytsf3udLC0IaT%2FQ%3D&link.pdf](https://www.tn-sanso.co.jp/jp/file_download.php?id=gq5vBRmESg0%3D&fileid=GvfsWadEz%2BaryMyE%2Ftc%2BK%2FadYkbytsf3udLC0IaT%2FQ%3D&link.pdf)

大陽日酸株式会社（社長：永田 研二）が長年協力してまいりました国際プロジェクト（IAEA Doubly Labelled Water Database）の研究成果が、米国科学振興協会が発

行する科学誌「Science」に掲載されました(2021年8月13日版)ので、お知らせいたします。-----

## ■ その他

**「臍帯由来の細胞医療のパイオニアとして、リスクをとって先導したい」ヒューマンライフコード・原田雅充社長 | ベンチャー巡訪記**

AnswersNews - 2021/9/10 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/21759/>

**【連載】ベンチャー巡訪記【全記事まとめ】**

AnswersNews - 2021/9/13 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/19621/>

以上

## **健康食品等に関する 日本語記事情報 (2021年10月号 No.1)**

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財)日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### PFAS 曝露は母乳育児能力に影響を及ぼす可能性

リンク DE ダイエット – 2021/10/6 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.10.6, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76166&-lay=lay&-Find.html>

有害な化学物質が女性の母乳育児を時期尚早にやめる原因となる可能性があるようだ、という南デンマーク大学からの研究報告。-----

### 食品安全情報 blog2 - 2021/9/24

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/09/24/190112>

[EU]砂糖、塩、脂肪、繊維：包装済み食品とソフトドリンクはより健康的になったか？

*追記：欧州委員会の直属科学サービス組織である、共同研究センター (The Joint Research Centre: JRC)による研究が紹介されています。*

### 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年10月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2401>

素材情報データベース (更新) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2404>

素材情報データベース (新規) 10月4日16時現在、ありません

2021年9月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2390>

素材情報データベース (更新) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2388>

素材情報データベース (新規) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2398>

### 食品安全情報 (化学物質) No.20 (2021.09.29)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202120c.pdf>

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 第4回アフィリエイト広告等に関する検討会の資料を公表しました。

消費者庁 - 2021/10/1

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting\\_materials/review\\_meeting\\_03/025735.html](https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_03/025735.html)

### 第1回アフィリエイト広告等に関する検討会の議事録を公表しました。

消費者庁 - 2021/10/6

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting\\_materials/review\\_meeting\\_03/024308.html](https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_03/024308.html)

### 「添加物に関する食品健康影響評価指針」を全部改正しました

内閣府食品安全委員会 - 2021/10/1 [https://www.fsc.go.jp/osirase/osirase\\_20211001.html](https://www.fsc.go.jp/osirase/osirase_20211001.html)

### 食品安全情報マップのページを公開しました

内閣府食品安全委員会 - 2021/9/30 [https://www.fsc.go.jp/osirase/osirase\\_20210930.html](https://www.fsc.go.jp/osirase/osirase_20210930.html)

## ■ 海外公的機関情報

以下の4件は、2021年9月21日～10月6日に食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) にアクセスした際に、気になったものを選定しました。  
[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

[フランス公衆衛生局、Nutri-Scoreに関する消費者向けパンフレットの発行を公表](#)



[国際がん研究機関\(IARC\)、「Nutri-Score : 科学的根拠に基づく包装前面栄養表示」と題した IARC Evidence Summary Brief を発表し、Nutri-Score の義務的使用が急務であることを公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての低温殺菌された Akkermansia muciniphila の安全性を評価した科学的意見書を公表](#)

[欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報に公表\(2021年8月25日~8月31日\)](#)

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### [矢野経済研究所、2021年度の国内食品通販市場調査、コロナ禍の食品通販需要の顕在化で市場は2桁成長に](#)

マイライフニュース - 2021/9/24 <https://www.mylifenews.net/data/2021/09/20212.html>

矢野経済研究所は、2021年度の国内食品通販市場を調査し、市場動向、参入企業動向、将来展望を明らかにした。その結果、2020年度の食品通販市場は前年度比13.1%増の4兆3057億円に達した。コロナ禍の食品通販需要の顕在化で市場は2桁成長となった。----

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

### [世界初のゲノム編集動物食品「可食部増量マダイ」開発、10月から上市](#)

大学ジャーナルオンライン - 2021/9/25 <https://univ-journal.jp/118316/>

ゲノム編集で水産物の品種改良を進める京都大学と近畿大学発の企業・リージョナルフィッシュ株式会社は、肉厚に改良したマダイをゲノム編集食品として厚生労働省、農林水産省へ届け出た。京都大学と近畿大学が開発したもので、血圧上昇を抑える成分を多く含むトマトに次ぐ2例目。ゲノム編集の動物食品としては世界初になるという。-----

## ■ 企業動向、注目ビジネス情報

## ロスマリン酸配合サプリメント摂取で脳年齢が平均 3.64 歳若返るとい う結果に 脳活総研とわかさ生活が共同でモニター調査を実施

株式会社脳活性総合研究所 - 2021/10/2

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000021.000049268.html>

株式会社脳活性総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役：太田 芳徳、以下「脳活総研」）は提供する「脳活性度定期検査（略称「脳検」）」を用いて、株式会社わかさ生活（本社：京都市下京区、代表取締役：角谷建耀知、以下「わかさ生活」）の商品「あたまサプリ翠カ玉（ロスマリン酸配合サプリメント）」を 30 日間摂取したことによる「脳検スコアの変化」を検証するモニター調査を実施いたしました。-----

## 花王が、「ヘルシア」素材を外販へ

ニュースイッチ - 2021/10/2 <https://newsswitch.jp/p/29018>

*（情報元のご意向に沿って、当方オリジナルの見出しをつけております）*

## AIによる献立・栄養管理支援アプリ『おいしい健康』、ユーザーの健康状態や食の好みに合わせて最適な栄養バランスの献立を提案する「A.I.おすすめ献立」機能を正式リリース

株式会社おいしい健康 - 2021/9/28 <https://corp.oishi-kenko.com/news/20210928.html>  
<https://www.zaikai.co.jp/releases/1426553/>

AIによる献立・栄養管理支援アプリ『おいしい健康』を運営する株式会社おいしい健康（本社：東京都中央区、代表取締役 CEO：野尻哲也）ではこのたび、一人ひとりのユーザーに最適な栄養バランスの献立を提案する「A.I.おすすめ献立」機能を正式リリースいたしましたことをご知らせいたします。-----

## FRONTEO、医学論文を解析し製薬企業の情報戦略策定を支援する AI システム「WordATLAS」を提供開始

IOTNEWS - 2021/10/4 <https://iotnews.jp/archives/192844>

株式会社 FRONTEO は、情報戦略支援 AI「WordATLAS」の提供を開始した。WordATLAS は、自然言語解析 AI エンジン「Concept Encoder（※1）」を用いて PubMed（※2）に掲載された医学論文と執筆者情報を解析し、ユーザーが関心を持っている疾患分野にフォーカスして、論文投稿数や投稿内容のトレンドを地図「Global Word MAP」上に表示する（トップ画）。これにより、ユーザーは当該領域の研究が活発な地域・国、機関、研究者などを一目で把握することができる。-----

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### 明治、40～60代女性の3人に1人が栄養摂取に必要な食事を抜く"食スキップ"の傾向に、「食スキップ傾向の女性が抱えがちなつらさを緩める5つのヒント」を公開

マイライフニュース - 2021/9/27

<https://www.mylifenews.net/data/2021/09/4060315.html>

明治は、長引くコロナ禍において、毎日の栄養摂取に必要な食事を抜いてしまう“食スキップ”が大人の女性の間で増えつつあることを受け、「食スキップ傾向の女性が抱えがちなつらさを緩める5つのヒント」（以下、5つのヒント）を作成し、9月15日から公開した。このヒントの策定には、管理栄養士でもあり、女性のライフスタイルと栄養に詳しい金城学院大学 生活環境学部 食環境栄養学科 教授の丸山智美先生を監修に迎えた。-----

### 日本生協連、エシカル消費に関する意識調査、過半数が「エシカル消費」に関心も「価格が高い・経済的な負担が増える」が取り組みへの壁に

マイライフニュース - 2021/9/29 <https://www.mylifenews.net/data/2021/09/post-92.html>

日本生活協同組合連合会（略称：日本生協連）は、エシカル消費（エシカル消費（倫理的消費）とは地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動のこと）に関する組合員の意識や購買行動について調査した「人や環境にやさしい消費活動についてのアンケート」の結果を取りまとめた（実施期間：2021年7月8日～7月13日、有効回答数＝5879）。その結果、過半数が「エシカル消費」に関心があると回答するも、----

### FiNC 総研 ニューノーマル時代のライフスタイル調査結果を公開！ ～脱コロナ太り？半数以上が体重変化を±2kgに抑えていると回答～

株式会社 FiNC Technologies - 2021/9/28 <https://company.finc.com/news/15205>

予防ヘルスケア×AIテクノロジー（人工知能）に特化したヘルステックベンチャー株式会社 FiNC Technologies（本社：東京都千代田区、代表取締役 CEO：南野 充則、以下「当社」）は、「FiNC 総研」より、ニューノーマル時代のライフスタイルについてのアンケート調査結果を公開いたします。-----

## ■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

### 体内時計の乱れ、プレバイオティクスで改善か

リンク DE ダイエット - 2021/9/24（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.9.24, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76091&-lay=lay&-Find.html>

身体に様々な悪影響を及ぼすとされる体内時計の乱れを、プレバイオティクスの摂取によってより迅速に修復できる可能性が示唆された。米コロラド大学による動物実験から。----

**追記：同日発信の英文記事情報でも以下の論文情報としてご紹介しております。**

「Brain, Behavior, and Immunity」掲載論文：「Ruminiclostridium 5, Parabacteroides distasonis, and bile acid profile are modulated by prebiotic diet and associate with facilitated sleep/clock realignment after chronic disruption of rhythms」

<https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S0889159121002701?via%3Dihub>

### 果物や野菜を摂り運動することがあなたを幸せにする？

リンク DE ダイエット - 2021/9/27（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.9.27, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76103&-lay=lay&-Find.html>

果物と野菜の摂取と運動が幸福のレベルを高める可能性があるようだ、というケント大学とレディング大学が主導した研究報告。-----

### 体重を減らせますか？ 微生物叢に尋ねよ！

リンク DE ダイエット - 2021/9/29（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.9.29, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76108&-lay=lay&-Find.html>

腸内細菌叢は、ヒトが体重を減らす能力に影響を及ぼしているようだ、という米国システム生物学研究所からの報告。-----

### スクラロースは減量に効果的でないかもしれない？

リンク DE ダイエット - 2021/9/30 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.9.30, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76124&-lay=lay&-Find.html>

人工甘味料のスクラロースを含む飲み物は、女性や肥満者の食物への渴望と食欲を高める可能性があるようだ、という米国南カリフォルニア大学ケック医学校からの研究報告。----

## 間欠断食はハエの寿命を延ばす—それはヒトにも有効か？

リンク DE ダイエット - 2021/10/1 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.10.1, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76140&-lay=lay&-Find.html>

間欠断食が加齢を遅らせる細胞内作用機序の解明によって (少なくともショウジョウバエで) 空腹感なしに断食の健康上の利点を得る潜在的な方法が示された、という米国コロンビア大学からの研究報告。-----

## ビタミン B12 とアルツハイマー

リンク DE ダイエット - 2021/10/6 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.10.6, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76167&-lay=lay&-Find.html>

アルツハイマーに関与するとされるアミロイドβによる悪影響が、ビタミン B12 の存在によって大幅に緩和されたという。米デラウエア大学による動物実験から。-----

## 運動による酸化ストレスをメラトニン摂取で緩和できるか これまでのエビデンスを総括

スポーツ栄養 WEB - 2021/9/27 <https://sndj-web.jp/news/001506.php>

「運動誘発性の酸化ストレスとメラトニン補充：現在のエビデンス」というタイトルのレビュー論文が日本生理学会発行の「The journal of physiological sciences (JPS)」に発表された。メラトニンの化学構造や代謝、生物活性、抗腫瘍効果などの詳細な解説とともに、スポーツパフォーマンスとの関連について考察した、ポーランドと英国の研究者の論文。パフォーマンスへの影響について述べている部分を中心に、一部分をピックアップして紹介する。-----

## **世界トップの自転車競技アスリート、高用量・短期間のβ-アラニン摂取でパフォーマンスが改善**

スポーツ栄養 WEB - 2021/9/25 <https://sndj-web.jp/news/001504.php>

β-アラニンを1週間という短期間であっても高用量摂取した場合、パフォーマンスに有意な影響が生じる可能性を示すデータが報告された。ワールドクラスで活躍する自転車競技選手を対象とするプラセボ対照二重盲検試験の結果だ。-----

## **女性のプレフレイル予防に必要なのは、たんぱく質だけでなくマグネシウムも？ 垂水研究**

スポーツ栄養 WEB - 2021/9/28 <https://sndj-web.jp/news/001509.php>

地域在住日本人高齢者を対象とする横断研究から、マグネシウムの摂取量が少ないことが、女性のプレフレイル/フレイルと有意に関連しているというデータが報告された。-----日本ビタミン学会と日本栄養・食糧学会が発行する「Journal of Nutritional Science and Vitaminology」に論文が掲載された。-----

## **睡眠中の代謝の個人差が肥満やメタボの一因か 加齢により夜間の脂肪酸酸化が減る可能性も明らかに**

スポーツ栄養 WEB - 2021/10/4 <https://sndj-web.jp/news/001514.php>

夜間睡眠中の代謝の個人差が、肥満やメタボリックシンドロームの一因である可能性を示唆する研究結果が、筑波大学の研究チームから報告された。「Scientific Reports」に論文が掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースが掲載された。-----

## **独自配合のアミノ酸素材が関節の違和感・痛み、腱の状態を改善 味の素株式会社が日米の学会で発表**

スポーツ栄養 WEB - 2021/10/5 <https://sndj-web.jp/news/001517.php>

-----

今回、アミノ酸製造メーカーとして世界をリードする味の素株式会社が、関節や腱のコンディションを整える作用をもったアミノ酸素材を開発し、ヒトで検証した研究結果を日米の学会で発表した。この素材は、単一のアミノ酸ではなく、6種類の非必須（可決）アミノ酸を独自比率で配合した「関節・腱コンディショニング向け6種アミノ酸ミックス」と呼ばれるもの。-----



## ウォーキング中にガムを噛むと時間当たりの歩行距離とエネルギー消費が増える

スポーツ栄養 WEB - 2021/10/6 <https://sndj-web.jp/news/001519.php>

ウォーキング中にガムを噛むと時間当たりの歩行距離とエネルギー消費が増えることが、株式会社ロツテと、早稲田大学スポーツ科学学術院の宮下政司氏、濱田有香氏らの研究グループとの共同研究から明らかになった。「Journal of Exercise Science & Fitness」に論文が掲載されるとともに、同社のサイトにニュースリリースが掲載された。-----

## D-セリンに腎臓の細胞増殖を促進し機能維持する作用があることを発見 -NIBIOHN ほか

QlifePro 医療ニュース - 2021/9/24

<http://www qlifepro.com/news/20210924/d-serine.html>

過去の研究で D-セリンが加齢とともに変動すること、腎臓機能と高い相関があることを発見

医薬基盤・健康・栄養研究所（NIBIOHN）は 9 月 15 日、生体中に微量に存在し、加齢とともに変動する D-アミノ酸のひとつである D-セリンに、腎臓の細胞増殖を促進して機能維持する作用があることを発見したと発表した。この研究は、同研究所 KAGAMI プロジェクトの木村友則プロジェクトリーダー（兼 難治性疾患研究開発・支援センター長）と部坂篤研究調整専門員、大阪大学大学院医学系研究科腎臓内科の猪阪善隆教授らとの研究グループによるもの。研究成果は、「Kidney360」オンライン版に掲載されている。-----

## 善玉菌だけを増殖させる次世代型プレバイオティクスになり得るオリゴ糖発見 -近大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2021/9/28

<http://www qlifepro.com/news/20210928/galrha.html>

特定の善玉菌だけを増やすことができる次世代型プレバイオティクスの開発を目指して

近畿大学は 9 月 23 日、ビフィズス菌を選択的に増殖させることのできる「次世代型プレバイオティクス」となり得るオリゴ糖を発見したと発表した。この研究は、同大生物理工学部食品安全工学科の栗原新准教授、新潟大学農学部農学科 食品科学プログラムの中井博之准教授、石川県立大学大学院平野 里佳博士後期課程 3 年生を中心とする研究グループによるもの。研究成果は、「Gut Microbes」に掲載されている。-----

**追記：近畿大学 生物理工学部・大学院 生物理工学研究科 プレスリリース**

<https://newscast.jp/news/0670417>

## いま改めて考える「間食の栄養学」

ウェルネス総研レポート online - 2021/9/28 <https://wellnesslab-report.jp/1312/>

間食は肥満の原因となる一方、効果的に摂ることで健康に近づくことも可能です。8月23日に開催された国際おやつ（OYATSU）研究会（代表理事 早稲田大学 矢澤一良氏）の第3回オンラインセミナーでは女子栄養大学の香川靖雄副学長が登壇され、「洋菓子、和菓子、中華菓子の NRF（高栄養食品指数）の増加法」をテーマにご講演されました。現代人の食生活の問題点を補完する、“間食の栄養学”の視点が必要とされてきています。-----

## 九州大学との共同研究成果を発表「パラミロン EOD-1」による腸管への刺激が長寿遺伝子を活性化 ～肌の表皮細胞の長寿遺伝子の発現増強を確認～

株式会社神鋼環境ソリューション - 2021/10/4

<https://www.kobelco-eco.co.jp/topics/news/2021/20211004.html>

株式会社神鋼環境ソリューション（本社：神戸市中央区、社長：大濱敬織）は、当社が開発した独自素材「ユーグレナグラシリス EOD-1 株由来パラミロン」（以下「パラミロン EOD-1」と称す）が腸管細胞と肌の表皮細胞の長寿遺伝子の活性化に及ぼす影響について、九州大学大学院 農学研究院の片倉 喜範教授（生命機能科学部門 システム生物学講座 細胞制御工学分野）と共同研究を行い、その研究成果が2021年9月15日に国際学術誌 Cytotechnology オンライン版に掲載されました。-----

## 「パントエア菌 LPS 経口投与による糖尿病型認知機能障害の予防」研究成果の発表

自然免疫制御技術研究組合 - 2021/9/24

<http://www.shizenmeneki.org/upfile/HV40bLf21LtFhZ6W85SS/00078.pdf>

自然免疫制御技術研究組合（香川県高松市）では、2010年の設立時より、自然免疫機能に働きかけるパントエア菌 LPS（以下 LPS<sub>P</sub>）の実用化に向けて研究開発を行っております。

この度、当組合 研究開発本部・溝淵悠代主任研究員らは、LPS<sub>P</sub>を経口投与することで、糖尿病が誘発する認知症に予防効果があることを明らかにしました。この成果は、Frontiers in Immunology 誌に掲載されました。-----

## 海藻に含まれる食物繊維がメタボを抑制する、慶大などが確認

マイナビニュース - 2021/9/29 <https://news.mynavi.jp/article/20210929-1984796/>

## 京大など、約 40 年齢の謎だった「ビタミン D ラクトン」の役割を解明

マイナビニュース - 2021/9/28 <https://news.mynavi.jp/article/20210928-1983659/>

## 近大など、トマト種子のエキスに皮膚の保湿効果があることを発見

マイナビニュース - 2021/10/1 <https://news.mynavi.jp/article/20211001-1988349/>

## AI が合成条件を推薦するシステムで 2 種類の新規酸化物の合成に京大が成功

マイナビニュース - 2021/10/1 <https://news.mynavi.jp/article/20211001-1988315/>

## ロコモ予防のための運動で効果を得るには栄養状態も重要、順天堂大が確認

マイナビニュース - 2021/10/5 <https://news.mynavi.jp/article/20211005-1997228/>

## ■ その他の注目研究・技術情報

### 牛骨格筋由来の細胞から直径 1.5cm の培養肉作成に成功 順大

財経新聞 - 2021/20/4 <https://www.zaikei.co.jp/article/20211004/641312.html>

### 唾液で老化を測れることが判明

沖縄科学技術大学院大学 (OIST) - 2021/9/17

<https://www.oist.jp/ja/news-center/press-releases/36599>

#### ポイント

- 扱いが困難である唾液より、検体中に 99 種類の代謝物を同定した。
- 99 種類の代謝物中 21 種類において、2 つの年齢層の間で量が異なっていた。
- 年齢層によって量が異なる代謝物の中には、味覚や筋肉の活動に関連するものがあり、加齢によって味覚や嚥下能力が低下することが示唆された。

- 研究チームは、唾液からフレイル（虚弱）や認知症など、高齢者に多くみられる疾患の早期発見ができるようになるのではないかと期待している。

## 生体膜カルシウムイオン輸送の分子機構を解明

－ATPによるタンパク質の輸送機構に新しい知見－

理化学研究所 - 2021/9/27 [https://www.riken.jp/press/2021/20210928\\_1/index.html](https://www.riken.jp/press/2021/20210928_1/index.html)

理化学研究所（理研）計算科学研究センター粒子系生物物理研究チームの杉田 有治チームリーダー（開拓研究本部杉田理論分子科学研究室主任研究員）、小林千草技師、ジョン・ジェウン研究員（開拓研究本部杉田理論分子科学研究室専任技師）らの共同研究チームは、細胞内のカルシウムイオン輸送をつかさどるカルシウムイオンポンプによって、カルシウムイオンが小胞体へ放出される過程を計算機シミュレーションを用いて計算し、カルシウムイオン輸送の分子機構を明らかにしました。-----イオン輸送の分子機構を詳細に理解することは創薬・医学の発展に貢献するものと期待できます。-----

## 大腸がんと強く関連する 12 種の腸内細菌を同定、うち 2 種は細胞老化を誘導－阪大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/10/5

<http://www.qlifepro.com/news/20211005/gut-bacteria-and-colorectal-cancer.html>

### 大腸がん患者と健常者の腸内細菌叢を大規模比較解析

大阪大学は 9 月 30 日、大腸がん患者と健常者の腸内細菌叢の大規模比較解析を行った結果、健常者にはほとんど存在せず、大腸がん患者で異常増殖している 12 菌種を同定し、大腸がんと強い関連性が示唆されたと発表した。この研究は、同大免疫学フロンティア研究センター（IFReC）老化生物学の原英二教授（同大微生物病研究所兼任）の研究グループによるもの。研究成果は、「Nature Communications」に掲載されている。-----

## 正常な学習・記憶にドーパミン情報伝達のアクセル／ブレーキ制御が重要－生理研ほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/10/4

<http://www.qlifepro.com/news/20211004/rgs-d2r.html>

### 開発した計算モデルで、ドーパミン減少によるシナプス可塑性の謎に迫る

生理学研究所は 10 月 1 日、ドーパミンの情報伝達におけるアクセルとブレーキのバランスの崩れが学習・記憶に異常をもたらすことを、計算モデルを用いて示したと発表した。この研究は、同研究所の浦久保秀俊特任助教、窪田芳之准教授らの研究グループと、東京大学

大学院医学系研究科の河西春郎教授（東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構主任研究者）および柳下祥講師、京都大学大学院・情報学研究科の石井信教授（同・連携研究者）との共同研究グループによるもの。研究成果は、「PLoS Computational Biology」に掲載されている。-----

## **薬局での管理栄養士による栄養相談と、薬剤師との連携の実態が明らかに 慶大などの調査**

スポーツ栄養 WEB - 2021/9/22 <https://sndj-web.jp/news/001507.php>

地域住民の健康をサポートする「かかりつけ薬局」への期待が高まるなか、薬局に勤務する管理栄養士が行う栄養相談の実態と、薬剤師との連携状況に関する調査結果が報告された。食事や栄養関連の質問に対する説明能力が管理栄養士は薬剤師よりも優れていて、薬局での管理栄養士の配置が患者サービスの向上につながる可能性や、薬剤師の栄養管理に対する認識の向上にもつながる可能性などが明らかになった。-----

## **追熟する/しない果実、生態学の観点での役割は？ 東京大学などが発見**

大学ジャーナルオンライン - 2021/9/24 <https://univ-journal.jp/118086/>

果物は、収穫したあとも成熟が続く「追熟型果実」（バナナ・リンゴ・モモなど）と収穫後は成熟しない「非追熟型果実（ブドウ・イチゴ・サクランボなど）に分類することができる。追熟型・非追熟型は園芸学では非常に重要な性質として長年研究されているものの、不思議なことに、生態学的にはその役割がほとんど知られておらず、そもそもなぜ追熟型と非追熟型の果物があるのか不明だった。-----

## **シリカ配合飼料で養殖魚、食肉、鶏卵をおいしく 麻布大学と北陸テクノが共同研究開始**

大学ジャーナルオンライン - 2021/9/28 <https://univ-journal.jp/117630/>

麻布大学生命・環境科学部食品生命科学科は、北陸テクノ株式会社と産学連携で、植物由来シリカ(二酸化ケイ素)を飼料に活用し、食品のおいしさを向上させる共同研究を開始する。-----

## **AI で疾病に有効な化合物を短時間で発見、九州大学など**

大学ジャーナルオンライン - 2021/9/29 <https://univ-journal.jp/118910/>

九州大学生体防御医学研究所の中山敬一主幹教授、米ハーバードメディカルスクール・システム生物学部門の清水秀幸リサーチフェロー、北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所の澤洋文教授の研究グループは、タンパク質のアミノ酸配列から治療薬候補を高速で見つけ出す人工知能（AI）を開発した。これを新型コロナウイルスで試したところ、デルタ株など多くの変異株に有効な化合物を発見した。-----

## 優れた浸透性を実現した防腐剤フリーのナノカプセルをファンケルとキリングループの協和ファーマケミカルが共同開発

株式会社ファンケル - 2021/9/28

[https://www.fancl.jp/news/pdf/20210928\\_nanokapuseru.pdf](https://www.fancl.jp/news/pdf/20210928_nanokapuseru.pdf)

## 非侵襲による“エラスチンの可視化技術”を導入 シワ部位のエラスチンの「質」低下を発見 — 新たなシワやたるみ対策に応用 —

株式会社ファンケル - 2021/9/29

[https://www.fancl.jp/news/pdf/20210929\\_shiwabuinoerasuchin.pdf](https://www.fancl.jp/news/pdf/20210929_shiwabuinoerasuchin.pdf)

## 2,600 万件の生命科学論文から 抗がん剤と作用効果のある物質を探索する AI をローンチ 抗がん剤と併用する OTC 医薬品・サプリメントを開拓

Axelidea 株式会社 - 2021/9/21 <https://www.atpress.ne.jp/news/275204>

アイデアを生み出す AI を開発する Axelidea(アクセリディア)株式会社(所在地：東京都千代田区、代表取締役：西田 泰士)は、抗がん剤一覧から、特定の抗がん剤名をクリックするだけで、抗がん剤と作用効果のある物質を探索する AXELiDEA Healthcare(TM)(アクセリディア ヘルスケア)をローンチいたします。-----

## 栽培データ × 科学的知見で、産地に最適化した農業を提案する AGRI SMILE

TECHABLE - 2021/9/28 <https://techable.jp/archives/163028>

2018 年に創業した株式会社 AGRI SMILE は、産地の栽培技術を可視化・数値化、共有するなど栽培領域における DX をサポートするプロダクトを提供してきました。しかし、持続可能な農業の実現に向けたマクロな課題解決には至らなかったといいます。-----



## 株式会社レボーンの「香り×AI×IoT」で広がる可能性

TECHABLE - 2021/9/28 <https://techable.jp/archives/163110>

……。現在、一般的な嗅覚センサで測定できるのは、におい分子の種類や濃度の判別にとどまっていて、嗅覚のメカニズムの再現にはあと一歩というところ。そんな中、株式会社レボーンは、収集したにおいデータをAIで識別することで人の嗅覚を再現し、新たな産業やサービスを生み出すことを目指しています。今回は、そんな同社にフォーカスして……

## なぜ年を取ると皮膚の再生能は低下するのか？、TMDUなどが原因を解明

マイナビニュース - 2021/9/28 <https://news.mynavi.jp/article/20210928-1983734/>

以上

### 健康食品等に関する

### 日本語記事情報（2021年10月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

## n-3 系脂肪酸サプリ、摂取量に注意

リンク DE ダイエット - 2021/10/11 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.10.11, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76203&lay=lay&Find.html>

サプリメントによる n-3 系脂肪酸の摂取量が 1 日 1g 以上の方は、それ以下の人に比べて心房細動を発症するリスクが増大することが明らかに。n-3 系脂肪酸の最善の摂取法は週に数回、魚を食べることだとしている。米・シュミット心臓研究所による研究。-----

## 人工甘味料で腸内細菌叢が混乱？

リンク DE ダイエット - 2021/10/14 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.10.14, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76233&lay=lay&Find.html>

人工甘味料の一部は、腸内細菌同士のコミュニケーション・システムを著しく阻害することが示唆された。長期的な摂取により、健康上の問題となるおそれを指摘している。イスラエル・ネゲブベングリオン大学の研究。-----

## 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021 年 10 月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2401>

素材情報データベース (更新) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2404>

素材情報データベース (新規) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2408>

- 「ゲットウ (月桃)」 (211014)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4784.html>

- 「フィチン酸、イノシトールヘキサリン酸」 (211014)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4785.html>

2021 年 9 月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2390>

素材情報データベース (更新) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2388>

素材情報データベース (新規) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2398>

## 食品安全情報（化学物質） No.21 (2021.10.13)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202121c.pdf>

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

### 消費生活相談の受付状況と傾向（7月）東京都消費生活総合センター受付分

東京都くらしWEB - 2021/10/8

[https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/sodan/tokei/r3\\_07.html](https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/sodan/tokei/r3_07.html)

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 海外公的機関情報

### 食品安全情報 Blog2 - 2021/10/15

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/10/15/172448>

*追記：2番目の見出し「[FDA]減塩」で、米FDAによる自主的・短期的（2年半）なナトリウム低減目標を示した事業者向け最終ガイダンスに関する情報が取り上げられています。*

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 受理ペース加速 6年半で4,000品突破、参入1,000社超（機能性表示食品開発ガイド）

健康メディア.com - 2021/10/15

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15592](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15592)

機能性表示食品の受理数が9月27日、4,000品を突破した（届出取り下げを除く）。昨年10月に3,000品を突破してから1年かからず1,000品を上乗せした。同日時点での今年度受理数は463品となり、これまでの年度別最多記録である20年度の同時期を約100品上回る超ハイペースで受理が進んでいる。受理事業者数は計1,033社。キリングroupによる免疫表示の受理が企業の開発意欲を刺激しており、機能性表示食品市場は盛り上がりを見せている。-----

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

### 睡眠の悩み3割以上、各産業が快眠製品の開発加速（特集／快眠）

健康メディア.com - 2021/10/6

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15568](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15568)

快適な睡眠は、食事、環境、寝具の組み合わせによって得られる人間のなくてはならない生命活動だ。近年、日本では、睡眠負債やコロナ禍での睡眠環境の乱れから、睡眠診療の受診や食生活の改善、寝具の見直しなど、消費者はかつてないほどに快眠を求めている。こうした流れを受け、健食業界では「睡眠」関連サプリメントの開発が活発化している。機能性表示食品の受理件数も300品に迫る勢いで、前年比2ケタ増で推移している。また、テクノロジーを使って睡眠の質を分析するスリープテックや医師と連携した寝具の開発など、より高いレベルでの睡眠提案が活発になってきた。-----

### with コロナで、納豆サプリへの期待高まる（特集／ナットウ）

健康メディア.com - 2021/10/6 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15564](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15564)

納豆にはナットウキナーゼ、ビタミンK2、納豆菌などが豊富に含まれ、これらを濃縮したサプリメントの利用が広がっている。血流改善・血圧調整、美肌、脳機能改善（ナットウキナーゼ）、骨・筋肉サポート（ビタミンK2）、免疫賦活、整腸（納豆菌）など、各成分の研究が進展。コロナ禍でのインバウンド縮小で国内市場はやや縮小傾向にあるが、ウイルスの不活性化やコロナ合併症の予防効果を示す研究報告もあり、国内外で納豆サプリへの期待が高まっている。-----

### TPC マーケティングリサーチ、睡眠サポート食品利用者のペルソナ分析とニーズ分析、睡眠関連の機能性表示食品の現在摂取率は2018年から増加

マイライフニュース - 2021/10/11

<https://www.mylifenews.net/data/2021/10/tpc2018.html>

TPC マーケティングリサーチは、現在自身の睡眠の悩みの改善・質の向上を目的に、「睡眠サポート機能性表示食品」を定期的かつ継続的に摂取している 20~60 代の男女 930 人を対象に、睡眠サポート食品利用者のペルソナ分析とニーズ分析についての調査を実施、その結果を発表した。-----

## **富士経済、外食店が監修した加工食品の国内市場調査、2021 年の外食店監修商品市場は 1410 億円の見込み**

マイライフニュース - 2021/10/10

<https://www.mylifenews.net/data/2021/10/20211410.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、消費者の付加価値商品への需要が高まる中、コロナ禍における巣ごもり需要や外食代替需要を追い風に注目が集まる外食店監修商品の国内市場を調査した。その結果を「”家ナカ”で外食を演出する外食監修商品の市場動向」にまとめた。-----

## **JFE エンジニアリング、生産したトマトを「Lycopure」ブランドの機能性表示食品として販売**

マイライフニュース - 2021/10/13

<https://www.mylifenews.net/drug/2021/10/jfelycopure.html>

JFE エンジニアリングの子会社である J ファームが独自の栽培方法によって生産したトマト（以下、同品）を、ealo が仕入れ、「Lycopure」ブランド（今回展開を開始するブランド名称で、トマトの学名「Solanum lycopersicum」と、純粹、混じりけのない「Pure」／浄化するという「Purify」から作った造語。トマトから心と体のトータルな健康・美しさを叶えることをブランドの目標としている）の機能性表示食品として販売・展開する。-----

## **■ 企業動向、注目ビジネス情報**

### **京都大学とダイセルの包括連携協定締結**

—循環型・低炭素社会実現に向けた研究を加速—

国立大学法人京都大学

株式会社ダイセル

<https://www.daicel.com/news/assets/pdf/20211008.pdf> （2021 年 10 月 8 日）

国立大学法人京都大学（総長：湊長博、以下、京都大学）と株式会社ダイセル（代表取締役社長：小河義美、以下、ダイセル）は、木材や農水産廃棄物などのバイオマスを高機能な材料や化学品に変換し、その価値を森林の再生や、農水産廃棄物の高付加価値利用に還元することにより、森、川、海、農山漁村、都市を再生し、自然と共生する低炭素社会の実現、新産業創出などに寄与することを目的とした、包括連携協定を締結しました。-----

## **腸内デザイン共創プロジェクト発の三社協業 「きのこ腸活チャレンジ」の成果が公開されます！**

株式会社メタジェン - 2021/10/15 <https://metagen.co.jp/news/2021/10/01200.html>

このたび、腸内デザイン共創プロジェクト（Gut Design Project 以下、GDP）発の三社協業「きのこ腸活チャレンジ」を実施し、その結果などが盛り込まれた記事がオレンジページサロン WEB にて 5 回にわたり連載されます。

株式会社メタジェンとホクト株式会社・株式会社オレンジページは、GDP 参画を機に昨年春から協業して参りました。その中で、「腸内環境改善の一環としてきのこの魅力を広める」という目的のもと、オレンジページの読者に二週間、1 日 1 パック程度のきのこを自由に摂取してもらい、腸内環境の変動を評価する「きのこ腸活チャレンジ」が行われました。これは GDP 初の三社協業の事例となります。-----

## **さまざまな不調を抱える人が増えたコロナ禍にオンライン漢方の人気上昇中、AI 導入で最先端をいく「あんしん漢方」とは？**

マイライフニュース - 2021/10/12 <https://www.mylifenews.net/medical/2021/10/ai.html>

-----

そこで今回、各社が提供するオンライン漢方サービスの特徴を紹介するとともに、AI システムを導入した最先端のサービスとして人気を集める「あんしん漢方」を展開する MSG の飯寿行社長に話を聞いた。-----

## **富士通、「AI 体操採点システム」の AI 技術をウェルビーイング領域へ適用する実証を開始**

IoTNEWS - 2021/10/9 <https://iotnews.jp/archives/193005>

-----

富士通株式会社と国際体操連盟が共同開発した AI 体操採点システムは、Web カメラの前で指示された 5 種類のポーズをとったユーザーの画像データから、3D センサーと AI を活用してユーザーの腰回りを中心とした体幹の柔軟性や可動域を解析・評価し、改善のためのエクササイズを個々に提案するものである。-----



## 企業のSDGs取り組みなど可視化（日本）

### 日本工営、診断システムサービス提供を年内に本格開始

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2021/10/14

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2021/ccc0c1cbb69a8de8.html>

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### 「代替たんぱく質」に関する意識調査

財経新聞 - 2021/10/18 <https://www.zaikei.co.jp/releases/1449701/>

株式会社 Insight Tech（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：伊藤友博）が運営する「不満買取センター」上で、「代替たんぱく質」に関する意識調査を実施し、インサイトデータ 5,204 件をユーザーから収集。回答の男女比較、年代比較を行い、自由回答については「ITAS」による分析を行いました。以下、結果をご報告いたします。-----

## ■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

### $\alpha$ -グルコシルルチンがヒト iPS 細胞の代謝を活性化する作用機序を解明

幹細胞の機能解明や食品・化粧品への応用に期待

東京工業大学 - 2021/9/27 <https://www.titech.ac.jp/news/2021/061952>

#### 要点

- $\alpha$ -グルコシルルチン（天然化合物ルチンの水溶性を高めた化合物）のヒト iPS 細胞における効果を解明。
- ヒト iPS 細胞では  $\alpha$ -グルコシルルチン処理により遺伝子発現が活性化し、細胞内代謝が一時的に増加することを発見。
- $\alpha$ -グルコシルルチンの新たな効果が、食品や化粧品などの分野に波及することを期待。

-----

### 食欲や肥満を制御するタンパク質を発見

沖縄科学技術大学院大学（OIST） - 2021/10/15

<https://www.oist.jp/ja/news-center/press-releases/36632>

## 本研究のポイント

- 肥満の根本的な分子レベルの原因は解明されていない。
- 本研究では、マウスの前脳で mRNA の分解に重要な役割を担うタンパク質である XRN1 をなくすと、食欲増進と肥満を引き起こすことを明らかにした。
- XRN1 欠損マウスは、レプチンという食欲を抑制するホルモンと、インスリンという血糖値を調整するホルモンの両方が効かないという抵抗性を示した。
- XRN1 欠損マウスは、肝臓や脂肪組織に脂肪を蓄積し、エネルギー源として有効に脂肪を利用できない。
- XRN1 欠損マウスでは、視床下部内のニューロンの一群が活性化し、アグーチ関連ペプチド (AgRP) と呼ばれる強力な食欲増進物質が放出される。

-----

## 腸内細菌由来の酢酸が肝臓のインスリン抵抗性を改善し NAFLD/NASH を抑制—慶大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/10/6

<http://www.qlifepro.com/news/20211006/nafl-d-nash.html>

### NAFLD/NASH の病態形成に腸内細菌の異常が関わっている可能性が示唆されていた

慶應義塾大学は 10 月 5 日、腸内細菌由来の酢酸が、その受容体である FFAR2/GPR43 を介して肝細胞のインスリン抵抗性を改善し、非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) や非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) の発症を抑制することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大薬学部部長谷耕二教授、同大医学部の金井隆典教授、京都大学大学院生命科学研究科の木村郁夫教授、オーストラリア連邦科学産業研究機構の Julie M. Clarke 博士らを中心とする国際共同研究グループによるもの。研究成果は、「Microbiome」に掲載されている。-----

## ローヤルゼリーが血管内皮機能を改善する効果を検証—動脈硬化予防に期待—

熊本大学

株式会社杉養蜂園

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujuhou/kouhou/pressrelease/2021-file/release211012-2.pdf> (2021 年 10 月 12 日)

### 【概要説明】

熊本大学大学院生命科学研究部循環器内科学の藤末昂一郎助教、辻田賢一教授を主要メンバーとする研究グループは、株式会社杉養蜂園との共同研究「ローヤルゼリーによる血管機能改善効果の検討」の解析結果を公表しました。この研究は、健常人 100 例をローヤルゼリ

一摂取群とプラセボ（偽薬）群に無作為割り付けした二重盲検ランダム化比較試験で、4週間の観察期間においてローヤルゼリーが血管内皮機能を改善することが明らかとなりました。

本研究論文は、令和3年9月28日に日本動脈硬化学会学術誌である「Journal of Atherosclerosis and Thrombosis」オンライン版に掲載-----

## ジーンクエストと新潟大学、ニンジンの摂取と低肥満度を結び付ける遺伝子型を同定

株式会社ジーンクエスト - 2021/10/13 <https://genequest.jp/topics/news/0/518>

株式会社ジーンクエスト(本社：東京都港区、代表取締役：高橋 祥子)および、新潟大学医学部血液・内分泌・代謝内科研究室(新潟県新潟市、藤原 和哉特任准教授、曾根 博仁教授)は、日本人を対象としたゲノム解析による共同研究を通して、肥満度とニンジンの摂取頻度との関連に影響を及ぼす遺伝子型を初めて同定しました。また、この成果は専門誌「Nutrients」にて2021年9月30日に公開されました。-----

## ケストースによるヒトのインスリン抵抗性を改善する効果について国際科学雑誌『Nutrients(ニュートリエッツ)』に掲載

物産フードサイエンス株式会社 - 2021/10/12  
<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000002.000069284.html>

物産フードサイエンス株式会社(東京都千代田区大手町、代表取締役社長：横山 昌己)は、産学共同研究としてケストースによるインスリン抵抗性改善効果に関する研究を進めてまいりましたが、このたび本研究成果が国際科学雑誌『Nutrients(ニュートリエッツ)』に掲載されましたのでお知らせいたします。-----

## なかなか痩せられない“不燃体質”をチェンジ！ “脂肪燃焼体質”の最新研究結果を発表 - 「MCTオイル」が機能性表示食品に -

MCT プラス・コンソーシアム - 2021/10/7 <https://www.atpress.ne.jp/news/279243>

MCT プラス・コンソーシアムは、医学やカラダづくりの専門家が最新研究・調査などを交えながら、近年市場拡大を続けているMCT(中鎖脂肪酸：Medium Chain Triglyceride)の健康価値や日常生活での取り入れ方を広く発信していくために設立いたしました。2021年10月6日(水)に第2回メディアセミナーを開催し、最新知見および近年注目を集めている「脂肪燃焼」に関する最新研究結果について発表いたしました。-----

## 冬虫夏草とルバーブに皮膚免疫を担うランゲルハンス細胞の 生存維持に重要な表皮細胞の「RANKL」を増やす効果を発見 日本生薬学会第67回年会にて発表

ノエビアグループ - 2021/9/17 [https://www.noevir.co.jp/new/ir\\_info/pdf/per51/210917.pdf](https://www.noevir.co.jp/new/ir_info/pdf/per51/210917.pdf)

ノエビアグループは、免疫機能と皮膚状態の関係に着目し、表皮の免疫細胞であるランゲルハンス細胞と皮膚老化の関連性について研究を行っています。今回、ランゲルハンス細胞が多い皮膚は、バリア機能が高く、色みが明るいことを見出しました。そこで、ランゲルハンス細胞の生存維持に重要で表皮細胞が産生するタンパク質「RANKL」を増加させる素材の探索を行いました。その結果、伝統的な滋養強壯の生薬である冬虫夏草とルバーブが相乗的に「RANKL」を増加させることを発見しました。-----

## 柑橘由来ポリフェノールが緑茶の肥満予防効果を増強させる、九大などが確認

マイナビニュース - 2021/10/6 <https://news.mynavi.jp/article/20211006-2011256/>

*以下の3件は、リンクDEダイエット（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）掲載記事（21年10月7日～20日）から選定したものです。*

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

## 低炭水化物ダイエットが血中脂質プロファイルを改善？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76178&-lay=lay&-Find.html>

低炭水化物食は、血中脂質プロファイルを改善して、心血管代謝リスクを改善するかもしれない、という米国ボストン小児病院からの研究報告。-----

## ケトンサプリが肥満者の脳機能を高めるかもしれない？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76256&-lay=lay&-Find.html>

ケトンサプリメントが肥満の人々の脳の健康を保護および改善するための新しい治療戦略である可能性がある、というカナダ・ブリティッシュコロンビア大学からの研究報告。----

## 中年期の鉄欠乏は、心臓病の高い発症リスクに関連？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76261&-lay=lay&-Find.html>

中年成人の10年以内に起きる冠動脈疾患の11%は、鉄欠乏を予防すれば回避できるかもしれない、という独ハンブルク大学からの研究報告。-----

**以下の2件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（21年10月7日～20日）から選定したものです。**

## 香りでスピード感が変わる！ レモンでは遅くなり、バニラでは速く感じる

スポーツ栄養 WEB - 2021/10/8 <https://sndj-web.jp/news/001521.php>

香りで映像のスピード感が変わるという現象の存在が明らかになった。国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）の研究チームによる論文が、「Frontiers in Neuroscience」に掲載されるとともに、同機構のサイトにニュースリリースが掲載された。著者らは、「この発見は、学術的に意義深いだけでなく、さまざまな産業への応用が期待できる」としている。-----

## 有酸素運動と筋力運動に対するタウリンの用量反応関係を探るシステムティックレビュー

スポーツ栄養 WEB - 2021/10/15 <https://sndj-web.jp/news/001528.php>

タウリンのスポーツパフォーマンスへの影響を生化学的側面から検討した研究のシステムティックレビューが行われ、その結果が「Frontiers in Physiology」に掲載された。タウリン摂取には、運動に伴うDNA損傷の抑制や乳酸レベルの低下、筋疲労の低減などの効果が存在すると考えられるという。-----

## ■ その他の注目研究・技術情報

### コレステロール代謝が関わる炎症抑制機構を発見、炎症性疾患の新治療に期待—慶大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/10/12

<http://www.qlifepro.com/news/20211013/inflammation.html>

IL-27が炎症を収束させる仕組みは？

慶應義塾大学は10月11日、コレステロール代謝に関連した新たな炎症抑制機構を発見したと発表した。この研究は、同大医学部皮膚科学教室の高橋勇人准教授、天谷雅行教授、米国立衛生研究所菅野由香博士（Staff Scientist）、ジョン・オシェア博士（Scientific Director）らの国際合同研究グループによるもの。研究成果は、「Science Immunology」オンライン版に掲載されている。-----

## **世界初のコムギとイネの交雑植物、東京都立大学と鳥取大学が作出に成功**

大学ジャーナルオンライン - 2021/10/12 <https://univ-journal.jp/121520/>

東京都立大学大学院のTety Maryenti 大学院生、岡本龍史教授、および鳥取大学の石井孝佳講師は、コムギ-イネ間の交雑不全を乗り越え、世界で初めてコムギとイネの交雑植物の作出に成功した。コムギとイネの遺伝子資源の相互利用に向けた大きな一歩となる。-----

## **食品を自在につかむロボットをどう実現するか、CPSによるシステム思考での挑戦**

MONOist - 2021/10/13

<https://monoist.atmarkit.co.jp/mn/articles/2110/13/news084.html>

立命館大学は2021年10月12日、プレスセミナーを開催し、立命館大学 理工学部 教授の川村貞夫氏が研究責任者を務め、SIP 戦略的イノベーション創造プログラム「フィジカル空間デジタルデータ処理基盤」にも選ばれている「CPS構築のためのセンサリッチ柔軟エンドエフェクタシステム開発と実用化」プロジェクトについて紹介した。-----

## **■ その他**

### **抗加齢協会 「免疫」表示の科学的根拠で “考え方”**

健康メディア.com - 2021/10/14

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15588](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15588)

特定非営利活動法人日本抗加齢協会は1日、「免疫関係の機能性表示の科学的根拠に関する考え方」をウェブサイトで公表した。免疫全体を調整することの科学的な説明が重要と指摘。有用な免疫指標を複数示したほか、「自然免疫、獲得免疫」「臨床試験」「被験者数」についての考え方をまとめた。-----

以上



## 健康食品等に関する 日本語記事情報 (2021年11月号 No.1)

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財)日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。  
(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

### ■ 注目記事

**特に気になる記事がある場合は、今後、こうした形でご紹介いたします。**

#### 食品安全情報 blog2 - 2021/11/1

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/11/01/175233>

##### [EU]二酸化チタンに関する Q&A

**追記：4番目の見出しです。先日、欧州委員会が食品添加物としての使用認可取り消しを提案した二酸化チタンに関する Q&A。欧州理事会や欧州議会から反対がなければ、欧州連合の「規則」として、来年(2022年)の初めに採択され、発表されるとのことです。**

#### 取り組むべき大きなギャップ：味の素と明治、栄養不良対策のために食品規制の調和と協調を呼びかける

Foodnavigator-asia - 2021/10/26

[https://www.foodnavigator-asia.com/Article/2021/10/26/node\\_3666968](https://www.foodnavigator-asia.com/Article/2021/10/26/node_3666968)

**追記：世界の大手の食品・飲料企業の栄養戦略等、消費者の栄養状態改善に向けた取り組み**を2013年以來3年毎に格付けしている **"Global Access to Nutrition index"** が発表されました。明治は12位、味の素は14位、日本企業はこのほかサントリーが21位にランクされています。

<https://accesstonutrition.org/index/global-index-2021/>

## **食品の健康度を最高から最悪までランク付ける**

リンク DE ダイエット - 2021/10/25 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.10.25, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76307&-lay=lay&-Find.html>

科学的根拠の幅広い属性を考慮して食品・飲料・調理品の健康度を1-100点にスコア化する「フードコンパス」を開発した、という米国タフツ大学の研究報告。より健康的な選択を促し、業界の改革を促進し、栄養政策を導くことを目的としているという。-----

**追記：前号の英文記事情報（10/25 発信）で、以下の論文情報としてご紹介済みです。**

「Nature Food」掲載論文：「Food Compass is a nutrient profiling system using expanded characteristics for assessing healthfulness of foods」

<https://www.nature.com/articles/s43016-021-00381-y>

## **■ 安全性関連情報**

### **食品安全情報 blog2 - 2021/10/22**

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/10/22/183246>

**追記：2番目の見出し「[ANSES]食品中ナノ物質のための特定健康リスク評価ガイド」は、ANSES（フランス食品環境労働衛生安全庁）の発表資料の内容**

### **食品安全情報 blog2 - 2021/10/26**

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/10/26/172153>

[EPA]EPA Regan 長官はPFAS汚染に直面して包括的国家戦略を発表

[EPA]EPAは科学を進歩させPFAS汚染から地域をより良く守るための重要なステップを発表

**追記：これまで何度かご紹介したPFOAやPFOS等の有機フッ素化合物PFAS（ポリフルオロアルキル化合物）関連の米国の環境保護庁（EPA）の発表が紹介されています。**

## 食品安全情報 blog2 - 2021/10/27

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/10/27/182410>

**追記：コーデックスの部会に関する情報が整理されています。**

## 食品安全情報 blog2 - 2021/10/28

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/10/28/172906>

### [EFSA]意見等

- 人工甘味料の潜在的な環境への影響に関するデータのレビューと統合
- 新規食品としてのガラクトオリゴ糖の使用拡大の安全性
- 使用後の PET を食品と接触する物質へリサイクルするために使用される Starlinger deCON テクノロジーに基づく UTSUMI RECYCLE SYSTEMS プロセスの安全性評価
- 使用後の PET を食品と接触する物質へリサイクルするために使用される PET direct iV+テクノロジーに基づく Omorika Recycling プロセスの安全性評価
- 新規食品としての緑豆タンパク質の安全性

## 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021 年 11 月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2416>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2415>

素材情報データベース（新規） 11/5 正午現在、ありません。

2021 年 10 月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2401>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2404>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2408>

## 食品安全情報（化学物質）No. 22/ 2021（2021. 10. 27）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202122c.pdf>

**追記：以下の 4 件が注目記事として最初に列挙されています。**

【FTC】 FTC は数百の企業に向けて偽りのレビューやその他の誤解をまねく推薦について通知

【FDA】 FDA は減塩の最終ガイダンスを発表

【COT】 マイコトキシンへの複合暴露のリスクの可能性についての声明(2021)

【EPA】 EPA Regan 長官は PFAS 汚染に立ち向かうための包括的国家戦略を発表

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

景品表示法に基づく法的措置件数の推移及び措置事件の概要の公表(令和3年9月30日現在)

消費者庁 - 2021/10/29 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/024740/>

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

食品表示基準等の一部改正案に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2021/10/27

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235080061&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235080061&Mode=0)

「食薬区分における成分本質（原材料）の取扱いの例示リスト」の一部改正に関する意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2021/11/1

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=495210189&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=495210189&Mode=1)

大豆ミート食品類の日本農林規格案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2021/11/5

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003397&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003397&Mode=0)

## 東京栄養サミット 2021 関係

厚生労働省 - 2021/10/26

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000089299\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000089299_00001.html)

## 東京栄養サミット 2021 厚生労働省準備本部 資料

厚生労働省 - 2021/10/26 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_21863.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_21863.html)

## 東京栄養サミット 2021 厚生労働省準備本部

厚生労働省 - 2021/10/26 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_08874.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08874.html)

## ■ 海外公的機関情報

### 食品パッケージへのグリセミックインデックス（GI）の表示 世界各国の現状

スポーツ栄養 WEB - 2021/10/29 <https://sndj-web.jp/news/001547.php>

-----。食品のパッケージの情報に GI を追記すべきだと主張する論文が発表された。食品パッケージの GI 記載に関する世界各国の規則もまとめられている。-----

*以下の 18 件は、2021 年 10 月 21 日～11 月 5 日、食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) にアクセスした際に、気になったものを選定しました。*

*[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)*

[ドイツ連邦消費者保護・食品安全庁\(BVL\)、シネフリンを含有する製品の分類に関する意見書を公表](#)

[欧州委員会\(EC\)、特定の新ゲノム技術により作出された植物に対する法令に関するイニシアティブを公表](#)

[ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、パーフルオロブタン酸\(PFBA\)は肺及び腎臓に高濃度で蓄積しないとの情報提供](#)

[米国農務省動植物検疫局\(USDA-APHIS\)、遺伝子工学によって作出されたリンゴに対する規制解除拡張に関して公表](#)

[米国農務省動植物検疫局\(USDA-APHIS\)、遺伝子工学によって作出されたトウモロコシの規制解除を公表](#)

[フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、乳幼児のビタミンDの過剰摂取に関する注意喚起を公表](#)

[欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(対象期間：2021年9月15日～9月28日\)](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、「イソマルツロースと正常なエネルギー産生代謝」に関する健康強調表示の評価に関する科学的意見書を公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、「オーガニック食品と、酸化的損傷からの体細胞と分子\(脂質とDNA\)の保護」に関する健康強調表示の評価に関する科学的意見書を公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、EFSAのヒトの健康リスク評価への非単調用量反応の影響に関する科学的意見書を公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、EFSAのヒトの健康リスク評価への非単調用量反応の影響に関する科学的意見書案に関する意見公募の結果をテクニカルレポートで公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての緑豆タンパク質の安全性に関する科学的意見書を公表](#)

[米国環境保護庁\(EPA\)、パーフルオロ及びポリフルオロアルキル化合物\(PFAS\)汚染に立ち向かうための包括的な国家戦略を公表](#)

[ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、ナノマテリアルに関するFAQを公表](#)

[ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、ナノ農薬によるヒトの健康リスク評価の包括的な枠組みについての見解を紹介](#)

[米国食品医薬品庁\(FDA\)、ナトリウムの削減に関する業界向けガイダンス最終版を公表](#)



[フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、食品添加物として使用されるナノ材料のリスク評価方法に関する指針を公表](#)

[欧州委員会\(EC\)、2022年からの食品添加物二酸化チタン\(E171\)の使用禁止が承認されたことを発表](#)

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 健康・機能性食品市場の動向は？ 顕著な動きのあった4つのカテゴリーを取り上げてレポート

ダイヤモンド・チェーンストアオンライン - 2021/10/25

<https://diamond-rm.net/sales-promotion/96310/>

新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、健康意識が一気に高まったことで、2020年は健康・機能性市場が大きく伸長した。しかし、コロナ特需から1年が経ち、落ち着きを取り戻している面も見受けられる。そこで今回は、顕著な動きのあった4つのカテゴリーを取り上げてレポートする。-----

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

### 免疫表示、食品 CRO の反応いかに（連載／話題追跡）

健康メディア.com - 2021/10/22

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15613](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15613)

9月1日、日本抗加齢協会が「免疫関係の機能性表示の科学的根拠に関する考え方について」を発表した。有用とされる免疫指標や臨床試験に関する考え方が示されたが、第一線の食品 CRO はどうみたか。-----

### 記憶力サポート、血糖値上昇抑制、抗ストレスなどデータ充実（特集／注目の人参素材）

健康メディア.com - 2021/10/26

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15626](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15626)

滋養強壮・疲労回復をはじめ、血流改善、睡眠改善、免疫サポートなど、多くの機能が報告されている人参素材。市場には高麗人参、田七人参、アメリカンジンセン、シベリア人参など、含有サポニンの種類が異なる人参素材が流通している。エネルギー系商品や美容商品

での定番化に加え、コロナ禍では免疫サポートのニーズも拡大、ターゲット層の広がりに合わせて新製品の投入も活発だ。-----

## 四国発の機能性素材、続々！未利用資源活用でSDGsにも貢献

健康メディア.com - 2021/11/1

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15638](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15638)

海と山に囲まれた四国地方は、温州ミカン・スダチなどの柑橘類、オリーブ、ショウガ、海洋深層水、塩など天然資源の生産が活発だ。近年は、産官学連携での地場資源の研究・開発、6次産業化が進展。同地域からより付加価値の高い健康食品が数多く生み出されている。トクホや機能性表示食品のほか、四国独自の民間認証制度（ヘルシー・フォー）の利用も進んでいる。地域経済の活性化を目指し、地場資源を有効活用した製品開発を進める健康食品メーカーの取り組みを紹介する。-----

## ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

### 海外新薬承認情報（2021年10月分）

AnswersNews - 2021/11/5 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/22066/>

### 【ナスに健康効果！】機能性野菜ナスを農林水産省主催展示会で紹介 SDGs目標達成に貢献できる機能性野菜ナスをPR

株式会社ウエルナス - 2021/10/26

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000008.000062426.html>

機能性野菜ナスコンソーシアム（東京都港区、以下、本コンソーシアム）は、農林水産省主催の「知」の集積と活用場<sup>®</sup>産学官連携協議会 令和3年度ポスターセッション（2021年11月1日（月）～11月14日（日）、イイノホール&カンファレンスセンター）およびアグリビジネス創出フェア2021（2021年11月24日（水）～26日（金）、東京ビッグサイト青海展示場）に出展いたします。本出展では、主要産地のナスの展示と紹介、機能性表示（血圧改善）生鮮ナスおよびナス加工食品の展示と紹介、規格外ナスの有効活用事例、自律神経活動調節に基づくナス機能性（血圧改善、気分改善、睡眠改善）を紹介いたします。-----

### 「世界市場を切り拓く『細胞ケア』研究の社会実装化」セミナーレポート

ウエルネス総研オンライン - 2021/11/1 <https://wellnesslab-report.jp/1322/>

オートファジーをはじめとした、世界基準での『細胞再活性化(細胞ケア)』市場は、今後のウェルネスにおいて重要かつ注目の分野でもあることから、創薬や食品素材に関する社会実装化の動きも加速しています。

一般社団法人ウェルネス総合研究所は、「世界市場を切り拓く『細胞ケア』研究の社会実装化」について、2021年10月19日(火)にメディア向けオンラインセミナーを開催しました。その内容をレポートします。-----

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### 「朝の疲労感と睡眠の質に関する調査」

#### “疲労感”を感じる人の約6割が「朝バテ」！ 睡眠の質が影響も

ファンケル - 2021/10/20

[https://www.fancl.jp/news/pdf/20211020\\_asanohiroukantosuiminnoositunikansurutyousa.pdf](https://www.fancl.jp/news/pdf/20211020_asanohiroukantosuiminnoositunikansurutyousa.pdf)

株式会社ファンケルは、2021年9月17日(金)から9月21日(火)の間で、全国の20代から50代の有職者男女1,000人を対象に、朝の疲労感と睡眠の質に関する意識調査を実施しました。-----

### プロテイン、飲んでる？飲んでない？人気メーカーは？189人にアンケートした結果

Melos - 2021/11/2 <https://melos.media/wellness/84092/>

日々のカラダづくりに欠かせない「たんぱく質」ですが、皆さんは食べものから摂りますか？ それともプロテインドリンクで摂取していますか？

先日、MELOS読者を対象に実施したアンケート結果がまとまりましたので、結果をお知らせします。-----

## ■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

### 微細藻類ユーグレナの継続的な摂取により、腸内フローラの多様性が高まり睡眠の質が向上することを示唆する研究結果を確認しました

株式会社ユーグレナ - 2021/10/22 <https://www.euglena.jp/news/20211022-2/>

株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、代表取締役社長：出雲充）は、東洋大学の吉田崇将助教との共同研究により、微細藻類ユーグレナ（和名：ミドリムシ、以下「ユーグレナ」）を継続的に摂取することで、腸内フローラの多様性が高まり、睡眠の質が向上することを示唆する研究成果を確認したことをお知らせします。なお、今回の研究成果は、2021年9月23日～9月24日に開催にされた「日本睡眠学会第46回定期学術集会」、2021年10月2日～10月3日開催にされた「第43回日本臨床栄養学会総会」で発表しました。----

## **「ヒト脳内アミロイドβ蓄積抑制効果」を第14回セラミド研究会で発表** **表 ～アルツハイマー病などによる認知機能低下抑制や新しい機能性に期待！～**

株式会社ダイセル - 2021/10/25 <https://www.daicel.com/news/assets/pdf/20211025.pdf>

株式会社ダイセル（本社：大阪市北区）は、2021年10月21日（木）～22日（金）に開催された「第14回セラミド研究会 学術集会」においてこんにやく由来セラミドのヒト脳内アミロイドβ蓄積抑制効果およびこんにやく由来セラミドの特徴的脂肪酸への代謝について発表いたしました。-----

## **筋肉量の維持・向上のための効率的なたんぱく質摂取量および筋力トレーニングの影響をメタアナリシスで解明**

**第68回日本栄養改善学会学術総会にて発表**

株式会社明治 - 2021/10/26

[https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2021/1026\\_01/index.html](https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2021/1026_01/index.html)

株式会社 明治（代表取締役社長：松田 克也）および国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所は、筋肉量の維持・向上のために効率的なたんぱく質摂取量を明らかにしたメタアナリシス研究の成果を、10月1日～2日に開催された第68回日本栄養改善学会学術総会におけるweb発表（視聴可能期間：2021年10月1日～10月25日）にて発表しました。本研究から、①筋力トレーニングの有無に関わらず、たんぱく質は少量（平均的な体重の成人の方で1日5～7g）の摂取でも筋肉量増加に有効であること、②筋力トレーニングは、その効果をさらに高めること、が明らかになりました。-----

## **コラーゲンペプチドが腱細胞の機能を高める**

株式会社ニッピ - 2021/10/27

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000083625.html>

株式会社ニッピは、英国リバプール大学 酒井尚雄研究室との共同研究で、コラーゲンに特有なペプチド（プロリルヒドロキシプロリン、Pro-Hyp）が腱細胞の増殖、分化、運動性、およびコラーゲン合成を促進することを見出しました。-----

## 麴甘酒による便秘改善効果は 麴菌によるものであることが分かりました 日本伝統発酵食品・麴甘酒の健康機能への関与成分が初めて明らかに

八海醸造株式会社 - 2021/10/29

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/0000000008.000084554.html>

八海醸造株式会社（代表取締役：南雲二郎、新潟県南魚沼市）は、麴甘酒の飲用による便秘改善効果が、麴甘酒に含まれる麴菌体、つまり「麴菌」そのものによってもたらされることを、ヒト臨床試験によりこのほど明らかにしました。この内容は9月21日にオープンアクセス学術誌「Journal of Fungi」（本部：バーゼル(スイス)）の麴菌特集号“*Aspergillus oryzae* and related Koji molds”に、論文「Intake of Koji Amazake Improves Defecation Frequency in Health Adults（麴甘酒の飲用は健康成人の便秘を改善させる）J.Fungi 2021,7,782」として掲載されました。これは麴甘酒の健康機能と関与成分との関係を示した初めての論文となります。また、この内容について今月開かれた第73回生物工学会大会（オンライン開催：10/27-29）でも口頭で発表いたしました。-----

**以下の8件は、リンクDEダイエット（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）掲載記事（21年10月21日～11月5日）から選定したものです。**

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

### ホットミルクはなぜ眠気を誘う？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76281&-lay=lay&-Find.html>

寝る前に温かい牛乳を飲むとぐっすりと眠れるなどと言われるが、牛乳に含まれる特定のペプチドがストレスを和らげ、深い睡眠へ導くことがわかった。中国・華南理工大学の動物実験から。-----

### 研究レビューは減量に間欠断食が有効であることを示す

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76280&-lay=lay&-Find.html>

間欠断食は、通常のカロリー制限と同様、臨床上に有意な体重減少をもたらす代謝の健康を改善する可能性があるようだ、という米国イリノイ大学シカゴ校からの研究報告。-----

**追記：英文記事情報の前号（10月25日発信）で、以下の論文情報としてご紹介済みです。**

「Annual Review of Nutrition」掲載論文：「Cardiometabolic Benefits of Intermittent Fasting」 <https://www.annualreviews.org/doi/10.1146/annurev-nutr-052020-041327>

### 植物性オメガ-3系脂肪酸の摂取が死亡リスクを下げる？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76303&-lay=lay&-Find.html>

植物油などに含まれるオメガ-3系脂肪酸である $\alpha$ -リノレン酸（ALA）の豊富な食事は、全死因による死亡、特に心血管系疾患による死亡リスクの低下に関連しているようだ、というイランのテヘラン医科大学などからの研究報告。

**追記：英文記事情報の前号（10月25日発信）で、以下の論文情報としてご紹介済みです。**

「The BMJ」掲載論文（オープンアクセス）：「Dietary intake and biomarkers of alpha linolenic acid and risk of all cause, cardiovascular, and cancer mortality: systematic review and dose-response meta-analysis of cohort studies」

<https://www.bmj.com/content/375/bmj.n2213>

## 低脂肪乳でなくても、大丈夫？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76302&-lay=lay&-Find.html>

全脂肪乳は、低脂肪乳と同じくらい子供に良いようだ、という豪州エディスコーワン大学からの研究報告。2歳以上の子に低脂肪乳製品を推奨する現在の公衆衛生アドバイスは改定される必要があるかもしれないという。-----

## 乳製品で高齢者の骨折リスク 3割減

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76314&-lay=lay&-Find.html>

牛乳やヨーグルト・チーズなど、カルシウムやたんぱく質を豊富に含む食品の摂取量を増やすことで、介護施設で暮らす高齢者の転倒や骨折リスクが低下したという。豪・メルボルン大学などの研究。-----

## 粉ミルクの試験は信頼できない？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76313&-lay=lay&-Find.html>

粉ミルクの臨床試験はバイアスのリスクが高く、ほとんどの場合好ましい結論を報告し透明性が欠如しており、調査結果は選択的に報告されているようだ、という英国インペリアルカレッジロンドンなどからのレビュー報告。-----

## グリコーゲン<sup>①</sup>は脂肪細胞の熱産生に関係している



<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76359&-lay=lay&-Find.html>

グリコーゲンが細胞のエネルギー貯蔵庫だが、褐色脂肪細胞では、熱産生の引き金の役割も果たしているようだ、という米国カリフォルニア大学サンディエゴ校からの研究報告。---

--

## 「腸の漏れ」、ポリフェノールが豊富な食事で改善

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76391&-lay=lay&-Find.html>

腸壁の細胞同士のすき間が広がって腸の透過性が増大し、有毒な物質が体内に漏れ出すことで疾病を引き起こしてしまう「リーキーガット症候群」が、ポリフェノールを豊富に含む食生活によって改善できたという。スペイン・バルセロナ大学が高齢者を対象に行った研究。-----

*以下の5件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（21年10月21日～11月5日）から選定したものです。*

## 摂り過ぎはダメ！ 30種類以上のサプリメントを1年間摂取していた高齢女性の症例

<https://sndj-web.jp/news/001538.php>

サプリメントは一般的に安全ではあるが、適切に摂取されることが前提で、この前提が守られないと安全性の懸念が高まる。30種類以上のサプリメントを1日4回摂取し続けて、急性腎障害を発症し緊急透析を要した高齢女性の症例が、米国から報告された。著者らは、「本報告はサプリメントの複合毒性を明らかにする初の医学的報告の一つ」と述べている。

-----

## 菓子の摂取量とうつリスクの関連が、日本人労働者対象の縦断研究で示される

<https://sndj-web.jp/news/001542.php>

甘いお菓子、例えば、ケーキやクッキー、アイスクリームの食べ過ぎが身体的健康に良くないことは、改めて言うまでもないが、身体面だけでなくメンタルヘルスにもマイナスの影響が及び、うつのリスクが上昇する可能性があることが、日本人を対象とする研究から明らかになった。福岡女子大学国際文理学部食・健康学科の南里明子氏らの論文が、「The British Journal of Nutrition」に掲載された。-----

## **30 日間のケトン食がセミプロサッカー選手に与える影響を調査 イタリアからの報告**

<https://sndj-web.jp/news/001539.php>

セミプロの男性サッカー選手を対象とするランダム化前向き試験の結果、30 日間のケトン食の実践で筋量や筋力を落とさずに体組成が改善したというイタリアの研究者らの報告が、国際スポーツ栄養学会の「Journal of the International Society of Sports Nutrition」に掲載された。著者らは、短期間での減量を目指す際にケトン食の実践を選択肢として考慮する必要があると述べている。-----

## **高齢者のクレアチン不足が狭心症や肝機能異常と関連 米国版・国民健康栄養調査を解析**

<https://sndj-web.jp/news/001551.php>

米国の国民健康栄養調査のデータを用いた研究から、クレアチンの摂取量が不足していることが、高齢者の狭心症や肝機能異常のリスクとなる可能性を示唆する結果が報告された。著者によると、本研究は高齢者のクレアチン摂取量と疾病リスクとの関連を、全米の人口ベースで調査した初の研究とのことだ。また、「高齢者の通常の食事からのクレアチン摂取量は驚くほど少ない」と述べている。-----

## **食生活の健康度が高い人は生物学的年齢が若い 地中海食など 4 種のスタイルと DNA メチル化の関連**

<https://sndj-web.jp/news/001552.php>

地中海食や DASH 食など、健康に良いとされる 4 つの食事スタイルと、DNA メチル化で評価した生物学的年齢との関連を検討した研究結果が報告された。食習慣をどの食事スタイルの指標で評価しても、スコアが高い人ほど生物学的年齢が若いことが明らかになった。食生活次第で死亡リスクが低下し、寿命が延長する可能性を示した研究と言える。-----

## **■ その他の注目研究・技術情報**

### **褐色脂肪組織に着目した腸内細菌と肥満との新たな関連を解明**

国立大学法人 神戸大学 - 2021/10/28

[https://www.kobe-u.ac.jp/research\\_at\\_kobe/NEWS/news/2021\\_10\\_28\\_02.html](https://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/news/2021_10_28_02.html)

神戸大学大学院医学研究科内科学講座循環器内科学分野の吉田尚史研究員、山下智也准教授、平田健一教授らの研究グループは、腸内細菌 Bacteroides が褐色脂肪組織の分岐鎖アミノ酸代謝を亢進する事で肥満を抑制することを発見しました。今後、腸内細菌に着目した新たな抗肥満療法の確立が期待されます。この研究成果は、10月24日に、「iScience」に掲載されました。-----

## MetS 構成因子を複数保有するリスク要因を「非肥満者」と「肥満者」で分析

QLifePro 医療ニュース - 2021/11/4 <http://www.qlifepro.com/news/20211104/mets.html>

### MetS 構成因子を複数保有するリスク要因を「非肥満者」と「肥満者」で分析

筑波大学は11月1日、日本人の特定健康診査データ（4万7,172人、40～64歳）を用いて、非肥満者と肥満者それぞれについて、メタボリックシンドローム（MetS）構成因子を複数保有するリスク要因を検討した結果を発表した。この研究は、同大体育系の武田 文教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Preventive Medicine」に掲載されている。-----

## 全身磁気共鳴画像法による糖尿病の検出

リンク DE ダイエット - 2021/10/29（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.10.29, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76348&-lay=lay&-Find.html>

AI を用いて全身 MRI スキャンだけで糖尿病が検出可能であることが示唆された、というスイス・チューリッヒ工科大学からの研究報告。-----

## 汗による血糖値のリアルタイムモニタリング

The Medical AI Times - 2021/10/18 <https://aitimes.media/2021/10/18/9202/>

米ペンシルベニア州立大学の研究者らは、汗に含まれるグルコース濃度をリアルタイムに測定できるウェアラブルモニターを開発した。糖尿病患者は適切な疾病管理のために高頻度な血糖測定が必要となるため、低侵襲で高精度なモニタリング手法が常に求められてきた。-----

## 加齢による皮膚再生能力低下、その原因は表皮幹細胞の運動能低下 - 東京医歯大ほか

### 老化や基礎疾患などにより難治性皮膚潰瘍が誘発される仕組みは？

日本医療研究開発機構（AMED）は11月1日、加齢による皮膚再生能力低下の原因が、XVII型コラーゲンの分解による表皮幹細胞の運動能低下であることをつきとめたと発表した。この研究は、東京医科歯科大学難治疾患研究所幹細胞医学分野の難波大輔准教授と西村栄美教授（東京大学医科学研究所老化再生生物学分野教授兼任）の研究グループと、大阪大学の土岐博特任教授、国際医療福祉大学の松崎恭一主任教授、愛媛大学の佐山浩二教授および白石研講師との共同研究によるもの。研究成果は、「Journal of Cell Biology」オンライン版に掲載されている。-----

### 資生堂、数値で表すことが難しかった「たるみ」を定量的に示す評価法を開発

マイナビニュース - 2021/10/21 <https://news.mynavi.jp/article/20211021-2165624/>

### 【記者発表】界面活性剤の作る玉ねぎ構造に隠れた欠陥を発見

東京大学生産技術研究所 - 2021/11/2 <https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/3688/>

○発表者：

田中 肇（東京大学名誉教授、研究当時：東京大学 生産技術研究所 教授、現在：東京大学先端科学技術研究センター シニアプログラムアドバイザー）

○発表のポイント：

- ◆ 界面活性剤が水中で形成する玉ねぎ状の多重膜構造（オニオン構造）の内部に、隠れた直線状の欠陥を持つことを発見した。
- ◆ オニオン構造の内部は最表面の膜により外部とは隔絶されていると考えられてきたが、欠陥を通して外部とつながっていることを明らかにした点に新規性がある。
- ◆ オニオン構造は薬物の輸送などへの応用が期待されており、医薬品分野をはじめとするさまざまな分野への波及効果が期待される。

-----

### AIでメンタルヘルスを指標化する取り組み

The Medical AI Times - 2021/10/18 <https://aitimes.media/2021/10/18/9197/>

メンタルヘルスという定量化が難しい要素に対し、専門家による主観評価を介さず、大規模集団データからの機械学習によって客観的な代理指標を得ようとする試みがある。フラン

ス国立情報学自動制御研究所（INRIA）のグループが研究成果を GigaScience 誌に発表している。-----

## REVORN、イメージワードから香りをブレンドする「調香 AI」を法人向けに提供開始

IoT News - 2021/11/1 <https://iotnews.jp/archives/194037>

## リンが欠乏した植物の成長に必要な化合物を発見 一痩せた土地における農業技術への応用に期待

理化学研究所 - 2021/10/25 [https://www.riken.jp/press/2021/20211023\\_1/index.html](https://www.riken.jp/press/2021/20211023_1/index.html)

理化学研究所（理研）環境資源科学研究センター植物脂質研究チームの中村友輝チームリーダーらの国際共同研究チームは、「ホスホコリン」という化合物がリン欠乏状態の植物の成長に必要であることを発見しました。

本研究成果は、養分の少ない土壌における農作物の増産や植物による物質生産の増強に向けた、代謝エンジニアリングに貢献すると期待できます。-----

## 総菜×ロボット、労働生産性が課題となる食品製造業の自動化には何が必要か

MONOist - 2021/10/22

<https://monoist.atmarkit.co.jp/mn/articles/2110/22/news053.html>

食品製造業が自動化を進めるためには何が必要か——。製造業の DX（デジタルトランスフォーメーション）から生産ラインの開発／実装までを包括的に支援するコンソーシアム「Team Cross FA（チームクロスエフエー）」の幹事企業である FA プロダクツは、経済産業省が主導している「ロボットフレンドリーな環境の構築に向けた研究開発（食品製造分野）」を、関係各社と共同で行っている。-----

## YE DIGITAL、AI 画像判定サービスを活用した夾雑物除去システムをカゴメに導入

IoT News - 2021/11/1 <https://iotnews.jp/archives/194019>

## 凸版印刷、排水の水位や水素イオン濃度などの環境データを自動収集するシステムを自社工場に構築

IoT News - 2021/10/26 <https://iotnews.jp/archives/193836>

## キリンビバレッジ、ロボットを用いた茶葉原料開梱・投入自動化設備を工場に導入

IoT News - 2021/10/25 <https://iotnews.jp/archives/193787>

## 効率的な「共同輸送」を瞬時に探索、群馬大学が産学連携で物流の AI マatchingシステムを開発

大学ジャーナルオンライン - 2021/10/30 <https://univ-journal.jp/125465/>

群馬大学と日本パレットレンタル株式会社（以下 JPR）の共同研究により、効率が高い組み合わせを瞬時に列挙する共同輸送 Matching 技術が開発された。-----

## NEC×ハウス食品、需給・生産管理システムを統合し AI で需給予測

マイナビニュース - 2021/11/4 <https://news.mynavi.jp/article/20211104-2177156/>

以上

### 健康食品等に関する

### 日本語記事情報（2021 年 11 月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

英文記事情報については別途お送りいたします。



**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

## ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### 大麻成分 THC を含有する製品について

厚生労働省 - 2021/11/8 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_22024.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_22024.html)

本年6月、一般の方から「株式会社 Pharma Hemp Japan（所在地：東京都大田区）が販売している CBD 製品の中に、大麻成分 THC（テトラヒドロカンナビノール）が含まれている可能性がある。」旨情報提供を受けました。このため当省では、同社の協力を得て、同社が販売する CBD 製品 21 種類 21 製品（別紙をご覧ください。）の提出を受け、成分の分析を行いました。-----

### 令和2年度「無承認無許可医薬品等買上調査」の結果を公表します ～いわゆる健康食品から医薬品成分を検出～

厚生労働省 - 2021/11/5 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_22045.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_22045.html)

### 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年11月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2416>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2415>

素材情報データベース（新規） 11月24日10時時点で未掲載です。

2021年10月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2401>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2404>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2408>

### 食品安全情報（化学物質）No. 23/ 2021（2021. 11.10）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202123c.pdf>

**追記：注目記事として次の3件が挙げられています**

【EPA】 EPA は科学を進歩させ PFAS 汚染から地域をより良く守るための重要なステップを発表

【CDC】 CDC は子供の血中鉛濃度参照値を更新

【EC】 二酸化チタンに関する Q&A

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

### 株式会社アクガレージ及びアシスト株式会社に対する景品表示法に基づく措置命令について

消費者庁 - 2021/11/9 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/026513/>

### 株式会社エムアンドエムに対する景品表示法に基づく課徴金納付命令について

消費者庁 - 2021/11/18 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/026650/>

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

今回、特に見当たりませんでした。

## ■ 海外公的機関情報

**英文記事情報（10月号 No.2）の方でもご紹介しましたが、こちらもどうぞ。**

### 米国食品医薬品局（FDA）がナトリウム量削減のための加工食品業界向けガイダンスを公表

スポーツ栄養 WEB - 2021/11/19 <https://sndj-web.jp/news/001586.php>

米国食品医薬品局（FDA）はこのほど、加工食品、包装済み食品、調理済み食品のナトリウム含有量の削減を目的として、食品業界向けに努力目標を掲げたガイダンスを発表した。

現在の米国人のナトリウム摂取量は平均約 3,400mg/日（食塩換算で約 8.6g/日）だが、これを 2 年半で 3,000mg/日（同 7.6g/日）と、約 12%削減することを目指している。-----

以下の 6 件は、2021 年 11 月 8 日及び 19 日に、[食品安全委員会 食品安全総合情報システム \(https://www.fsc.go.jp/fscis/\)](https://www.fsc.go.jp/fscis/) に掲載された更新情報の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

[欧州委員会\(EC\)、二酸化チタンに関する Q&A を公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、ゼラチン中のニトロフラン類及びそれらの代謝物の存在量に関する科学的報告書を公表](#)

[米国食品医薬品庁\(FDA\)、「魚介類の摂取に関する助言」の更新について公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、人工甘味料の環境への潜在的影響に関するデータのレビュー及び統合に関する科学的意見書を公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのガラクトオリゴ糖の使用拡張の安全性に関する科学的意見書を公表](#)

[欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(対象期間：2021 年 10 月 20 日～11 月 2 日\)](#)

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回、特に見当たりませんでした。

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場 予測・動向等）

[【マーケティングレポート①前編】健康な人の認知機能やパフォーマンスを向上する「ヌートロピック」の可能性](#)

ウェルネス総研オンライン - 2021/11/8 <https://wellnesslab-report.jp/1344/>

ヌートロピックとは、健康な人の脳の機能や能力を高め、認知機能の向上や維持に役立つとされる物質の総称です。人生 100 年時代、100 年使い続けることのできる脳を目指してケアしていますか？日本では認知症対策など予防的な目的が目立ちますが、外国では学習能力の向上、不安やストレスの軽減を目的とした成分なども注目され、市場を伸ばしています。ヌートロピックは今、どのような成分が注目され、正しい情報発信のために何が必要なのか、グローバルニュートリショングループ代表の武田猛氏にうかがいました。

## **【マーケティングレポート①後編】人生 100 年時代の必需品となるか？「ヌートロピック」との付き合い方**

ウェルネス総研オンライン - 2021/11/16 <https://wellnesslab-report.jp/1368/>

## **タンパク質とビタミンDを積極的に取り入れ、骨と筋肉同時に維持（女子栄養大学教授・医学博士 新開省二）**

健康産業オンライン-2021/11/12

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15684](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15684)

### **—— フレイルの定義**

米国では 1980 年代から高齢者の虚弱化として認識され、2001 年にリンダ・フリード教授の提唱により高齢者の 5 つの症状の組合わをフレイルと呼ぶようになった。

「動作が遅い」、「体がしぼんでいく」などの特徴が挙げられる。日本では、収入が乏しく、社会的関わりが少ないこともフレイルの原因にもなり、様々な要因が挙げられる。健康状態でいうと、要介護と元気の間にある状態像をさしている。-----

## **マカ、女性向け製品の採用進む（特集／南米・機能性素材）**

健康産業オンライン - 2021/11/12

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15681](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15681)

南米原産の機能性素材に脚光——。抜群の認知を誇るマカは、活力、エネルギー向けに加え、女性サポート向け製品への利用が拡大。蓄積したエビデンスデータをもとに、原料サプライヤーによる新たな提案が実り、“女性を応援する天然ハーブ”としての認知が進む。南米発の多彩なスーパーフード素材は、サプリメント、飲料、スムージー、菓子類のほか、外食産業などにも広がり、身近な存在になっている。-----

## **■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報**

## デジタル技術で「習慣を科学する」、ライオンがえがく DX のあるべき姿とは —ライオン DX 推進部 黒川博史氏インタビュー

IoTNEWS - 2021/11/9 <https://iotnews.jp/archives/193333>

日本の大手消費財メーカーであるライオンで、全社のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進する新組織「DX 推進部」が、2021 年 1 月に発足した。すでに数多くの実績があり、また組織体系や DX 人材の育成制度なども確立されているという。その詳細について、同部門発足のキーマンである、DX 推進部長の黒川博史氏に話をうかがった（聞き手：IoTNEWS 代表 小泉耕二）。-----

## カルビー・イシダ、使用原料を含めた生産に関する 1 袋単位の各種情報を一元管理するトレーサビリティシステムを構築

IoTNews - 2021/11/17 <https://iotnews.jp/archives/194444>

## 協和発酵バイオ、組換え微生物食品・添加物の申請支援事業を開始

日経バイオテク ONLINE - 2021/11/11

<https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/news/p1/21/11/09/08810/>

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### 日本生活習慣病予防協会、新型コロナ拡大の陰で起きている体調変化や生活習慣に関する調査、コロナ禍で起きた体調変化は「目の疲れ」「体重増加」など

マイライフニュース - 2021/11/11

<https://www.mylifenews.net/data/2021/11/post-95.html>

日本生活習慣病予防協会は、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）が拡大して約 1 年半が経過した現在、新型コロナ拡大前後の体調変化や生活習慣などについて、（1）全国の 40～60 代の男女 3000 人を対象にした一般生活者、（2）各種健診を担当する全国の医師 50 人を対象とする調査を行った。その結果、-----

### 乳酸菌飲料で免疫力強化は”トレンド化” ウィズコロナに求める消費者ニーズを探る（ソフトブレン・フィールド調べ）

ソフトブレン・フィールド株式会社 - 2021/11/15

<https://www.sbfield.co.jp/press/20211115-17059/>

### 乳酸菌飲料の購入に関するアンケート結果

フィールド・クラウドソーシング事業を展開するソフトブレン・フィールド株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：木名瀬博）は、全国のアンケートモニター（以下、POB 会員）から月間 1100 万枚のレシートを収集する国内最大規模の（提携サイト含める）、日本初のレシートによる購買証明付き・購買理由データベース「マルチプル ID-POS 購買理由データ Point of Buy (R)（以下、POB データ）」を活用し、生活者の購買行動を分析しています。-----

## ■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

### 難消化性デンプンを豊富に合成するキャッサバ植物の開発

#### ー機能性食品の素材開発に貢献ー

理化学研究所 - 2021/11/12 [https://www.riken.jp/press/2021/20211112\\_3/index.html](https://www.riken.jp/press/2021/20211112_3/index.html)

理化学研究所（理研）環境資源科学研究センター植物ゲノム発現研究チームの内海好規研究員、関原明チームリーダーらの研究チームは、難消化性デンプンを豊富に含む熱帯植物キャッサバの開発に成功しました。

難消化性デンプンには、血糖応答性およびインスリン応答性の改善、腸機能の改善などといった生理作用があります。本研究成果は、生活の質や疾病リスクを低減する機能性食品の素材開発に向けたキャッサバ分子育種研究に貢献すると期待できます。-----

### ビタミン B2 が細胞老化を抑制、神戸大学がメカニズム解明

大学ジャーナルオンライン - 2021/11/10 <https://univ-journal.jp/127598/>

神戸大学の長野太輝助手、鎌田真司教授らの研究グループは老化ストレスを受けた細胞にビタミン B2 を添加するとミトコンドリアのエネルギー産生機能が増強され、老化状態に至るのを防止する効果があることを明らかにした。-----

関連リンク：神戸大学研究ニュースサイト - 2021/11/2

[https://www.kobe-u.ac.jp/research\\_at\\_kobe/NEWS/news/2021\\_11\\_02\\_01.html](https://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/news/2021_11_02_01.html)

### 砂糖の過剰摂取は統合失調症や双極性障害の発症要因となる、NCNP が確認

マイナビニュース - 2021/11/11 <https://news.mynavi.jp/article/20211111-2184455/>



以下の7件は、リンクDEダイエット（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）掲載記事（21年11月8日～22日）から選定したものです。

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

## 抗酸化物質の「運び屋」を発見（2021/11/8）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76397&-lay=lay&-Find.html>

エネルギー産生に伴い生み出されたフリーラジカルを中和するため、細胞内のミトコンドリアに抗酸化物質を運び入れるたんぱく質が特定された。これにより、老化や神経変性といった酸化ストレスに関連する疾患の予防や治療に役立つ可能性がある。米・ロックフェラー大学の研究。-----

## なぜストレスの多い経験はよく覚えているのか？（2021/11/8）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76396&-lay=lay&-Find.html>

ストレスの多い経験が、中立的な経験よりも容易に記憶される理由を明らかにした、という独ルール大学ポーフムからの研究報告。-----

**追記：前号（11月10日発信）の英文記事情報で、以下の論文情報としてご紹介しました。**

「Current Biology」掲載論文（オープンアクセス）：「The memory trace of a stressful episode」

[https://www.cell.com/current-biology/fulltext/S0960-9822\(21\)01284-7?\\_returnURL=https%3A%2F%2Flinkinghub.elsevier.com%2Fretrieve%2Fpii%2FS0960982221012847%3Fshowall%3Dtrue](https://www.cell.com/current-biology/fulltext/S0960-9822(21)01284-7?_returnURL=https%3A%2F%2Flinkinghub.elsevier.com%2Fretrieve%2Fpii%2FS0960982221012847%3Fshowall%3Dtrue)

## 全粒穀物は2型糖尿病の経済的影響を大幅に減らす？（2021/11/10）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76414&-lay=lay&-Find.html>

全粒穀物食品の摂取量の増加は、フィンランドでの2型糖尿病の発症率と治療費用を大幅に削減する可能性があるようだ、という東フィンランド大学などからの研究報告。-----

## 普通の食事＋ハーブ&スパイス＝血圧が下がる？！（2021/11/11）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76428&-lay=lay&-Find.html>

特にヘルシーではない平均的な米国式食に、たっぷりのハーブとスパイスを加えただけで4週間後に血圧が下がったという。低下幅は大きいものではなかったが、健康的な食事とハーブ・スパイスを組み合わせた場合には、より効果的になる可能性があるという。米・ペンシルバニア州立大学の研究。-----

## 緑茶カテキンは酸化ストレスを促進します？ (2021/11/12)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76429&-lay=lay&-Find.html>

緑茶のカテキンは、短期的に酸化ストレスを促進するが、それにより生物の防御能力が増加するため寿命の延長につながるようだ、という線虫を用いたスイス・チューリッヒ工科大学などからの研究報告。-----

**追記：同日発信の英文記事情報で、以下の論文情報としてご紹介しております。**

「Aging」掲載論文（オープンアクセス）：「Green tea catechins EGCG and ECG enhance the fitness and lifespan of *Caenorhabditis elegans* by complex I inhibition」  
<https://www.aging-us.com/article/203597/text>

## 栄養不良の子供たちの認知を改善する栄養補助食品？ (2021/11/16)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76480&-lay=lay&-Find.html>

DHA を添加した栄養補助食品が、重度の栄養不良の子供たちの認知を大幅に改善することができるかもしれない、という米国セントルイス・ワシントン大学からの研究報告。-----

## 食事療法は薬に勝るか (2021/11/22)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76513&-lay=lay&-Find.html>

細胞の内部の働きに対する食事と薬との影響を比較すると、食事の方がはるかに強い影響力を持っていることがわかったという。豪・シドニー大学チャールズ・パーキンス・センターによる動物実験から。食事療法は薬よりも強力である可能性があることが示唆された。-----

**以下の4件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（21年11月8日～24日）から選定したものです。**

## ビタミンDが不足していると最大酸素摂取量（VO2max）が低い エリート男子屋内競技アスリートでの検討（2021/11/8）

<https://sndj-web.jp/news/001554.php>

アイスホッケーとハンドボールという屋内競技のエリート男性アスリートを対象とする横断研究から、ビタミンD不足がVO2max（Maximum oxygen uptake、最大酸素摂取量、最大有酸素性パワー）の低さとの有意な関連が報告された。さらにこの対象では、ビタミンDレベルが、VO2maxの唯一の独立した関連因子だったという。-----

## 7種のアミノ酸が認知症の進行を抑える 脳の炎症性変化を防ぎ神経細胞死による脳萎縮を抑制（2021/11/12）

<https://sndj-web.jp/news/001559.php>

特定のアミノ酸の摂取が認知症の病態を抑止するとする日本発の研究結果が、米国科学振興協会の「Science Advances」に掲載された。国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構（量研）と味の素株式会社の共同研究によるもので、量研のサイトにプレスリリースが掲載された。-----

## コーヒーは筋グリコーゲンの回復にもプラスに働く 無作為化二重盲検クロスオーバー試験（2021/11/17）

<https://sndj-web.jp/news/001562.php>

コーヒーの主成分であるカフェインは、スポーツパフォーマンスを高めるエルゴジェニックエイドとして広く利用されているが、それだけでなく、運動後の筋肉グリコーゲン回復を増加させる作用もあることを示すデータが新たに報告された。コーヒー生産量が世界一の国、ブラジルで実施された無作為化二重盲検クロスオーバー試験のエビデンス。-----

## 時間制限食と主要栄養素ベースのダイエット 減量効果を14週間のRCTで比較した結果は？（2021/11/24）

<https://sndj-web.jp/news/001587.php>

時間制限食と主要栄養素ベースの食事療法のいずれかで14週間介入し、減量や体組成への影響を比較した無作為化比較試験（randomized controlled trial；RCT）の結果が報告された。結論は、両者ともに有意な効果が認められ、群間差はないというものだ。ただし、アドヒアランスは時間制限食のほうがやや良好な傾向が認められたという。-----

## ■ その他の注目研究・技術情報

### 光で記憶を消去する ーよい記憶に睡眠が必要な理由を説明ー

京都大学  
理化学研究所  
大阪大学

[https://www.riken.jp/press/2021/20211115\\_1/index.html](https://www.riken.jp/press/2021/20211115_1/index.html)

……。学習の直後に記憶ができるシナプスや、その後の睡眠中に記憶ができるシナプス、次の日の睡眠中に記憶ができるシナプスが、脳の異なった部位にそれぞれ存在することがわかりました。本研究により、記憶を長期間保つ、睡眠の機能の新しい細胞モデルを提唱し、記憶・睡眠研究の前進に貢献しました。

### インスリンによる糖と脂質代謝制御の違いを全ゲノムレベルで説明 ー コロンビア大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/11/9 [http://www.qlifepro.com/news/20211109/foxo1.html](http://www qlifepro.com/news/20211109/foxo1.html)

#### **FoxO1 を欠損させると高血糖状態を改善できるが、そのメカニズムは未解明だった**

千葉大学は 11 月 8 日、健康状態および糖尿病状態での糖代謝制御において重要な役割を持つ転写因子「FoxO1」がゲノムに働きかける全体像を、特に糖・脂質代謝の観点から明らかにしたと発表した。この研究は、米コロンビア大学医学部 北本匠 研究員（千葉大学大学院医学研究院特任助教：現在留学中）、Domenico Accili 教授、千葉大学大学院医学研究院 金田篤志教授、岡部篤史助教らの研究グループによるもの。研究成果は、「米国科学アカデミー紀要」にオンライン公開されている。……

千葉大学プレスリリース（2021/11/8）

[https://www.chiba-u.ac.jp/others/topics/info/post\\_1018.html](https://www.chiba-u.ac.jp/others/topics/info/post_1018.html)

以上

## 健康食品等に関する 日本語記事情報（2021 年 12 月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

## ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年12月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2433>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2432>

素材情報データベース（新規） 12月7日10時現在、ありません。

2021年11月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2416>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2415>

素材情報データベース（新規） 新規掲載はありません。

### 食品安全情報（化学物質）No.24（2021.11.24）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202124c.pdf>

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

### 株式会社シーズ・ラボに対する景品表示法に基づく措置命令について

消費者庁 - 2021/11/24 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/026673/>

消費者庁は、本日、株式会社シーズ・ラボに対し、同社が供給する「4D」と称する食品に係る表示について、景品表示法に違反する行為(同法第5条第1号(優良誤認)に該当)が認められたことから、同法第7条第1項の規定に基づき、措置命令を行いました。-----

### 景品表示法に基づく法的措置件数の推移及び措置事件の概要の公表(令和3年10月31日現在)

消費者庁 - 2021/11/30 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/024740/>

令和3年10月31日までの国及び都道府県等の景品表示法に基づく法的措置件数の推移及び措置事件の概要を公表します。-----

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 「有機藻類の日本農林規格案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2021/12/7

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003336&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003336&Mode=1)

### 特別用途食品に関するリーフレット「腎臓病用組合せ食品ってなに？」を掲載しました。

消費者庁 - 2021/11/26 <https://www.caa.go.jp/notice/archive/2021/>

### インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示に対する要請について(令和3年7月～9月)

消費者庁 - 2021/11/29

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant\\_advertisement/assets/representation\\_cms214\\_211129\\_01.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant_advertisement/assets/representation_cms214_211129_01.pdf)



## 第2回アフィリエイト広告等に関する検討会の議事録を公表しました。

消費者庁 - 2021/11/29

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting\\_materials/review\\_meeting\\_03/024916.html](https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_03/024916.html)

## ■ 海外公的機関情報

### [FDA]FDAはN-アセチル-L-システインをダイエタリーサプリメントとして使用することに関する情報を求める

食品安全情報 blog2 - 2021/12/1

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/12/01/174413>

*追記：2番目の見出しです。同日発信の英文記事情報でもご紹介しております。*

*以下の5件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム*

*(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の2021年12月1日更新情報の中から、気になったものを選定しました。*

*[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)*

[米国環境保護庁\(EPA\)、飲料水中のPFOA及びPFOSから国民を保護するために科学的知識を前進させる旨を公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのウキクサ科ウォーター・レンティル粉末の安全性に関する科学的意見書を公表](#)

[欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品に関する栄養及び健康強調表示を制限するための調和のとれた義務的な容器前面栄養表示の開発と栄養プロファイルの設定について助言する科学的意見書案に対する意見公募を開始](#)

[欧州委員会\(EC\)、EU市場向けの食品成分として二番目の昆虫の認可を公表](#)

[米国食品医薬品庁\(FDA\)、FDAの食品安全・栄養調査に関するツールである「FSANS エクスプローラー」を公表](#)

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 「7つの健康セグメント」から見えてきたウェルネストレンド

ウェルネス総研オンライン - 2021/11/29 <https://wellnesslab-report.jp/1408/>

一般社団法人ウェルネス総合研究所は、10代～70代、4800名の生活者の健康・ウェルネスに関する意識と行動分析に基づき、今後予測されるヘルス・トレンドシナリオを洞察した調査レポート『ウェルネストレンド白書 Vol.1』を12月7日刊行します。本白書ではプロファイリング分析により、生活者を「7つの健康セグメント」に新たに分類。各健康セグメントの特性を明らかにするとともに、各セグメントによる興味関心をヘルスベネフィット、素材・成分の観点から分析しています。この記事では健康セグメントの詳細とともに、セグメントから見てきたウェルネストレンドの潮流についてご紹介します。-----

## **【RDのヒント】「機能性表示食品」のメリット最大化に必要なノウハウとは？—消費者に選ばれる商品開発のために**

ウェルネス総研オンライン - 2021/12/1 <https://wellnesslab-report.jp/1416/>

2015年から始まった「機能性表示食品」制度は、日本再興戦略の一つに掲げられ、すでに特定保健用食品（以下特保）を大きく上回る件数が届出されています。ここでは制度スタートから6年半を経て改めて見えてきた、この制度をより有効な商品開発の手段として活用するためのポイントについて解説します。-----

## **■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)**

### **市場規模、4年ぶりに200億円台に（特集：水素）**

健康メディア.com - 2021/11/26

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15718](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15718)

水素商材市場、3年連続の増加で200億円台に回復——。本紙が今回2021年通期の水素商材の市場動向について調査した結果、市場規模は、メーカー出荷金額ベースで約208億円（前年比5.6%増）となったことが分かった。昨年同様、水素ガス吸入器や水素発生剤の売れ行きが伸びたこと、さらに今年は、家庭用の水素水生成器やレンタルサーバーの伸びが市場回復に貢献した。-----

### **拡大続くスポーツサプリ 「運動とプロテイン」ライト層にも習慣化 (特集：スポーツニュートリション)**

健康メディア.com - 2021/11/26

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15708](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15708)

健康志向が高まる中、リモートワークの普及で通勤時間が減少。生まれた余暇時間を健康維持のため運動に充てる人が増えている。スポーツ庁の調査によると成人の「週1日以上」のスポーツ実施率は59.9%と、前年度の53.6%から6.3ポイントと大幅増加。ジョギングやゴルフ、ヨガ、ダンスはじめ軽運動を新たに始める人が増え、運動後には栄養分を「補給する」必要性も普及・啓発が進む。スポーツニュートリションの利用者はライト層へ一層の広がりを見せるが、今後の利用定着が市場成長のカギとなる。定番素材のほかにも健康志向をより高めた新たな機能性素材が続々登場する中、ライトユーザーも取り込んだ商品開発に期待が高まる。-----

## プラズマ乳酸菌の発見者に聞いた、“免疫力が高い”とはどういうこと？

マイナビニュース - 2021/11/30 <https://news.mynavi.jp/article/20211130-2208047/>

## ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

### キリンビール・NTT データ、AI を活用したビール類の仕込・酵母計画システムを全9工場試験運用開始

IoTNews - 2021/12/1 <https://iotnews.jp/archives/194838>

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### 矢野経済研究所、健康食品に関する消費者アンケート調査、摂取目的は男女別・年代別いずれも「健康維持・増進」の比率が最も高い

マイライフニュース - 2021/11/24

<https://www.mylifenews.net/data/2021/11/post-99.html>

矢野経済研究所は、健康食品（サプリメント）、特定保健用食品、機能性表示食品に関する消費者アンケート調査を実施し、20代から70代以上の男女における健康状況や、健康食品の摂取状況（種類、支出金額、購入場所、きっかけ、主成分、目的など）、機能性表示食品への関心などを分析した。20代～70代の男女1401名へのアンケート結果では、健康食品（サプリメント）の摂取目的は男女別・年代別いずれも「健康維持・増進」の比率が最も高かった。一方、機能性表示食品については、自身の健康状況に照らし合わせてさまざまな機能表示へ関心を示していた。-----

## [27909] 健康意識に関するアンケート調査（第6回）

マイボイスコム - 2021/11/25

[https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=27909](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=27909)

## ■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

### 植物由来の乳酸菌、自己免疫疾患の予防や改善に効果 マウス実験で 広島大ら

財経新聞 - 2021/11/29 <https://www.zaikei.co.jp/article/20211129/649348.html>

自己免疫疾患の一種である潰瘍性大腸炎やクローン病は、未だ完治させる治療法が見つからない難病だ。現在日本には合わせて約 30 万人の患者がいるとされている。広島大学の研究グループは、イチジクの葉が持つ植物由来の乳酸菌から分泌される物質が、腸の炎症を改善し、さらに炎症を予防する働きを持つことを発見したと発表した。-----

### リコピンがアレルギー症状を抑制させる仕組みを解明

大学プレスセンター - 2021/12/2 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-47183.html>

十文字学園女子大学食品開発学科助手 後田ちひろ、および京都府立医科大学大学院医学研究科医療フロンティア展開学（消化器内科学併任）准教授 高木智久、生体免疫栄養学講座 教授 内藤裕二らの研究グループは、アレルギーモデルマウスを用いてリコピン摂取によるアレルギー症状抑制メカニズムを解明しました。本件に関する研究論文が、科学雑誌『Pediatric Allergy and Immunology』に 11 月 16 日付けで掲載されましたのでお知らせします。-----

### 老化抑制に重要な長寿遺伝子「SIRT1」の活性化に欠かせない

### 「NAD+」の量を増やす 2 つの植物エキスを発見 ～第 44 回日本分子 生物学会年会にて発表～

ノエビアグループ - 2021/12/3 <https://www.atpress.ne.jp/news/288133>

ノエビアグループは、皮膚細胞の老化抑制に重要な長寿遺伝子 SIRT1(サートワン)の活性化に不可欠である NAD+(エヌエーディー)を増やす方法について研究を重ね、NAD+の量がノンコーディング RNA(である miR-34a と HOTAIR により調節されることを明らかにしました。また、自社農場「北海道暑寒別岳パイロットファーム (<https://www.noevir.co.jp/about/farm/>)」で有機栽培した植物エキスのローマンカモミールとジャーマンカモミールが miR-34a と HOTAIR の量を変化させ、NAD+を増やすことを見

出しました。この研究成果を 2021 年 12 月 1 日～3 日に開催される「第 44 回日本分子生物学会年会」にて発表いたします。-----

## ウコンの含有成分が腸内細菌を介して脳・脊髄炎を抑制、マウス実験で判明－近大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/12/6

<http://www.qlifepro.com/news/20211206/curcumin-2.html>

クルクミンの作用は、腸と遠く離れた脳や脊髄の炎症とどのように関連するのか？

近畿大学は 12 月 3 日、ウコンに含まれる「クルクミン」の構造を変化させたプロドラッグ型の化合物が、腸内フローラを変動させることで、脳や脊髄の炎症を抑制することを世界で初めて明らかにしたと発表した。この研究は、同大医学部微生物学教室の尾村誠一講師、同大大学院 医学研究科のスダル・カドカ博士課程 3 年生、角田郁生教授を中心とした研究グループと、京都大学大学院 薬学研究科の掛谷秀昭教授、近畿大学医学部ゲノム生物学教室の西尾和人教授らの共同研究グループによるもの。研究成果は、「Frontiers in Cellular and Infection Microbiology」にオンライン掲載されている。-----

**以下の 5 件は、リンク DE ダイエット（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）掲載記事（2021 年 11 月 24 日～12 月 7 日）から選定したものです。**

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

## 超加工食品は 2 回目の心臓発作や脳卒中のリスクを高める？

(2021/12/1)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76580&-lay=lay&-Find.html>

超加工食品を多く摂取している人は、致命的な 2 回目の心臓発作と脳卒中のリスクが高いようだ、という伊 IRCCS ニューロメッド地中海神経学研究所からの研究報告。-----

## 栄養強化した粉ミルクは、将来の学業成績を上げるか？（2021/12/2）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76583&-lay=lay&-Find.html>

普通の粉ミルクを飲んで育った子と、脳の発達に良いとされる栄養素などを添加した粉ミルク 7 種のいずれかを飲んで育った子を比較したところ、思春期時点での学業成績に明確な差はみられなかったという。研究者は、認知能力向上を目的とした栄養素添加は不要なので

はとしている。英・ロンドン大学グレート・オルモンド・ストリート小児健康研究所の研究。-----

## 抗炎症食は認知機能の健康に最善の策？（2021/12/3）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76596&-lay=lay&-Find.html>

抗炎症性の食品が豊富な食事をしている高齢者は認知症になりにくいかもしれない、というギリシャ・アテネ大学からの研究報告。-----

**追記：同日発信の英文記事情報でも以下の論文情報としてご紹介しております。**

「Neurology」掲載論文：「Diet Inflammatory Index and Dementia Incidence: A Population-Based Study」

<https://n.neurology.org/content/early/2021/11/10/WNL.0000000000012973>

## 食事、腸幹細胞、病気の新しい関連をマウスで発見（2021/12/3）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76597&-lay=lay&-Find.html>

正常な腸細胞は5-7日ごとに再生するが、高脂肪食や高糖質食は、腸細胞を作る腸幹細胞の分化を混乱させるようだ。独ヘルムホルツツェントラムミュンヘンの報告。-----

## 食べ物で腸はこんなに変わる（2021/12/6）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76609&-lay=lay&-Find.html>

食物の摂取量が増えると腸が長くなるうえ、絨毛などが増大することで、よりカロリー吸収能力が高まることが明らかに。肥満の原因の基本的メカニズムに光が当てられた。スイス・ジュネーブ大学の研究。-----

**以下の6件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2021年11月25日～12月7日）から選定したものです。**

## エネルギーの消費量と摂取量の関係を考察 体重の増減をもたらす因子とは？（2021/12/6）

<https://sndj-web.jp/news/001590.php>



消費されるエネルギー量が増えると、それに対する適応として摂取エネルギー量が増加する。この代償反応が起こらないと体重は減少するし、不適切な代償では体重が増加する場合もある。この関係には、身体活動、気温、摂取する栄養素など多くの因子が影響を及ぼす。これらを総合的に考察したナラティブレビュー論文の要旨を紹介する。-----

## テストステロンを上げる食事と栄養 マンゴスチンや大豆タンパク質の可能性 (2021/11/27)

<https://sndj-web.jp/news/001591.php>

男性ホルモンのテストステロンは、スポーツパフォーマンスにとってプラスに作用する。そこで、「食事や栄養でテストステロンレベルを高められないか」とのアイデアに基づきまとめられたレビュー論文が発表された。著者によると、これはテストステロンレベルに対する栄養素の影響に焦点を当てた初のレビューとのことだ。

## 乳製品によるカルシウムとタンパク質の摂取で、高齢者の転倒と骨折が減少 (2021/12/1)

<https://sndj-web.jp/news/001595.php>

高齢者介護施設の居住者は転倒や骨折のリスクが低くないが、栄養介入によりそのリスクを抑制可能とするエビデンスが報告された。ポイントは、乳製品を利用してカルシウムとタンパク質の摂取量を増やすことだという。オーストラリアで行われたクラスターランダム化比較試験の結果だ。-----

## プロバイオティクスで持久系アスリートのパフォーマンスを向上可能か 系統的レビューの報告 (2021/12/3)

<https://sndj-web.jp/news/001597.php>

持久系アスリートのパフォーマンスに対するプロバイオティクスの有効性を検討した研究を対象とするシステマティックレビューが、スペインの研究者らにより報告された。直接的な因果関係は明らかでないが、免疫システムへの影響が認められ上気道感染症が抑制されて、間接的にスポーツパフォーマンスにプラスの影響を及ぼす可能性が示唆されたという。-----

## 朝食をわずかに摂ることで昼食の食べ過ぎを予防できる 健康な男性対象に3条件で検討 (2021/12/4)

<https://sndj-web.jp/news/001598.php>

朝食に、量（かさ）はあるがエネルギー量は少ない食事を摂取すると、昼食時に食欲が亢進することなく、トータルの摂取エネルギー量が抑制されるというデータがイギリスから報告された。著者らは、新たな体重管理法となる可能性があるとしている。-----

## 運動直後の糖質一括摂取は筋グリコーゲン、分割摂取は肝グリコーゲンの回復促進 マウスでの検討（2021/12/6）

<https://sndj-web.jp/news/001602.php>

運動後にブドウ糖を一括摂取する場合と、数回に分けて摂取する場合とで、グリコーゲン再合成が異なるかを動物実験で検討した結果が報告された。前者では筋グリコーゲンの回復、後者では肝グリコーゲンの回復が促進されるという。東京大学大学院総合文化研究科身体運動科学研究室の松永裕氏らの研究によるもので、国際スポーツ栄養学会（ISSN）の「Journal of the International Society of Sports Nutrition」に論文が掲載された。-----

## ■ その他の注目研究・技術情報

### 人工知能で酵素を自動設計

#### —様々な機能性タンパク質開発の加速に期待—

東北大学

理化学研究所 - 2021/12/2

[https://www.riken.jp/press/2021/20211202\\_4/index.html](https://www.riken.jp/press/2021/20211202_4/index.html)

-----

東北大学大学院工学研究科の梅津 光央教授、産業技術総合研究所人工知能研究センターの齋藤 裕主任研究員、亀田 倫史主任研究員、理化学研究所革新知能統合研究センターの津田宏治チームリーダーらの研究グループは、同グループの先行研究で開発した人工知能と実験を組み合わせる手法を酵素タンパク質の機能改変に適用し、目的とする機能性タンパク質を従来の方法よりも少ない実験で効率よく得ることに成功しました。この実験で得られたペプチド転移酵素は、触媒機能が5倍向上しました。-----

### 生命誕生初期のタンパク質を再現する試み

#### —7種類のアミノ酸で古代タンパク質は創れる—

理化学研究所 - 2021/12/2

[https://www.riken.jp/press/2021/20211202\\_2/](https://www.riken.jp/press/2021/20211202_2/)

理化学研究所（理研）生命機能科学研究センター高機能生体分子開発チームの八木創太基礎科学特別研究員、田上俊輔チームリーダー、構造バイオインフォマティクス研究チームのアディティア・クマール・パディ訪問研究員、ケム・ツァンチームリーダー、分子配列比較

解析チームの中川れい子専門職研究者らの国際共同研究グループは、生命誕生の初期から存在したと考えられる原始的なタンパク質構造が、わずか7種類のアミノ酸だけで創れることを実証しました。

本研究成果は、生命の初期進化におけるタンパク質の誕生過程を再現するもので、生命誕生の謎を解くための重要な手掛かりとなると期待できます。-----

## **腸内細菌叢の状態を細胞画像から読み解く**

### **—深層学習を活用した新たな解析手法を開発—**

理化学研究所

慶應義塾大学先端生命科学研究所 (2021/12/2)

[https://www.riken.jp/press/2021/20211202\\_1/index.html](https://www.riken.jp/press/2021/20211202_1/index.html)

理化学研究所（理研）生命機能科学研究センター多階層生命動態研究チームの古澤カチームリーダー、慶應義塾大学先端生命科学研究所の福田真嗣特任教授らの共同研究チームは、糞便の顕微鏡画像から「腸内細菌叢[1]」の状態を推定する新たな手法を開発しました。

本研究成果は、腸内細菌叢の状態を調べ、その振る舞いを予測しコントロールする技術に応用可能なことから、健康維持や疾患の診断・予防・治療法の開発に貢献すると期待できます。-----

## **細胞がグルコース代謝量を制御する巧妙な仕組み**

### **—細胞中の ATP 濃度に依存した酵素活性の新たな制御機構の解明—**

理化学研究所 - 2021/12/7 [https://www.riken.jp/press/2021/20211207\\_1/index.html](https://www.riken.jp/press/2021/20211207_1/index.html)

理化学研究所（理研）生命機能科学研究センター細胞構造生物学研究チームの八木宏昌研究者、葛西卓磨研究者、木川隆則チームリーダーらの共同研究チームは、グルコースからアデノシン三リン酸（ATP）を合成する解糖系酵素の一つであるホスホグリセリン酸キナーゼ（PGK）が、細胞内 ATP 濃度に応じてブドウ糖（グルコース）代謝量（解糖流量）を制御していることを発見しました。

本研究成果は、酵素による代謝制御の新たな仕組みを明らかにするとともに、解糖系が亢進するがん細胞の増殖を抑制する新たな抗がん剤治療の開発や、代謝異常が関わる生活習慣病の改善につながると期待できます。-----

## **「最強のひよこ豆」生産へ！ AI で最適な遺伝子の組み合わせを発見**

TECHABLE - 2021/11/25 <https://techable.jp/archives/167237>

オーストラリアにあるクイーンズランド大学の研究チームは、数千もの「ひよこ豆」の品種を遺伝的にマッピング。AI を使用して最も「価値のある遺伝子の組み合わせ」を特定しました。-----

## **記憶の増強時に、軸索終末がスパインに「押される」という仕組みを発見—東大ほか**

QlifePro 医療ニュース - 2021/11/26 <http://www.qlifepro.com/news/20211126/spine.html>

### **スパイン増大運動で軸索終末が押されることによる影響は？**

東京大学は 11 月 25 日、脳の興奮性シナプスの後部である樹状突起スパインが学習時に頭部体積を拡張する「スパイン増大運動」の際に軸索終末を力学的に押し、終末はこの力を感知して伝達物質放出を増強することを見出したと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科の河西春郎教授（同大ニューロインテリジェンス国際研究機構・主任研究者）、同大ニューロインテリジェンス国際研究機構の UCAR Hasan 特任助教らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nature（電子版）」にオンライン掲載されている。-----

関連情報（マイナビニュース - 2021/11/26）

<https://news.mynavi.jp/article/20211126-2203110/>

## **わずか 24 時間の不活動で骨格筋に脂質蓄積とインスリン抵抗性が発生—順天堂大学**

大学ジャーナルオンライン - 2021/11/29 <https://univ-journal.jp/130624/>

インスリン抵抗性とは、血糖を下げるホルモンであるインスリンの感受性が低下して効きにくくなる状態をいい、糖尿病やメタボリックシンドロームの重要な原因の一つと考えられている。今回、順天堂大学の研究グループは、わずか 24 時間の不活動でも骨格筋にインスリン抵抗性が生じることを発見した。-----

## **KDDI 総合研究所、動画解析と対話エージェントによりリアルタイムな食習慣の改善に向けた研究を開始**

IoTNews - 2021/11/25 <https://iotnews.jp/archives/194684>

生活習慣病の原因は体質だけではなく、不健全な生活習慣の積み重ねにより発症すると言われており、生活習慣病の発症予防や重症化予防が重要視されている。

そこで株式会社 KDDI 総合研究所は、食事中からの気づきや行動変容を促し、適切な食事の取り方をリアルタイムにアドバイスする技術に関する研究を、2021 年 11 月 25 日より開始することを発表した。-----

## 北大、視床下部に食欲を抑える働きがある神経細胞を発見

マイナビニュース - 2021/12/1

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20211201-2210514/>

## 花王と弘前大、65歳以上において内臓脂肪と認知機能が関係している事を確認

マイナビニュース - 2021/12/1 <https://news.mynavi.jp/article/20211201-2209346/>

## 筋肉から放出されるメラニン生成抑制成分にシミなどの予防・改善効果、ポーラが確認

マイナビニュース - 2021/11/30 <https://news.mynavi.jp/article/20211130-2209317/>

## ゼオライトが肥満モデルマウスの高血糖・高脂血症・肥満を改善、岐阜大などが発見

マイナビニュース - 2021/11/30 <https://news.mynavi.jp/article/20211130-2209212/>

以上

### 健康食品等に関する

### 日本語記事情報（2021年12月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

## ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### 高コレステロール、心血管疾患に関連するプラスチック

リンク DE ダイエット - 2021/12/21 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.12.1, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76726&-lay=lay&-Find.html>

可塑剤として使われるフタル酸エステルは、血漿コレステロール値の上昇につながるようだ、という米国カリフォルニア大学リバーサイド校からのマウスを用いた動物実験の結果報告。-----

### 「食薬区分における成分本質（原材料）の取扱いの例示リスト」の一部改正に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2021/12/13

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495210314&Mode=0>

### 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年12月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2433>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2432>

素材情報データベース（新規） 12月21日10時現在、ありません。

2021年11月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2416>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2415>



素材情報データベース（新規）新規掲載はありません。

## 食品安全情報（化学物質）No.25（2021.12.08）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202125c.pdf>

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

### ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

#### 消費者庁「アフィリエイト検討会」、悪質広告対策の方向性示す 法執行など3つの観点から

マイナビニュース - 2021/12/9

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20211209-2221699/>

### ■ 行政・法令関連情報（その他）

#### 日本薬局方外生薬規格 2022（案）に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2021/12/17

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495210322&Mode=0](http://gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495210322&Mode=0)

*テレビのニュースでも報道されました。結果概要と東京栄養宣言、日本の栄養政策等へのリンクが付けられています。*

#### 東京栄養サミット 2021 関係

厚生労働省 - 2021/12/9

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000089299\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000089299_00001.html)

### ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

#### 進むコロナ肥満、糖尿病リスク高まる（特集／抗肥満・抗メタボ）

健康メディア.com - 2021/12/9 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15726](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15726)

長引く新型コロナウイルスの感染拡大により一変した生活習慣。運動不足や食生活の乱れによる二次的な健康被害として、肥満や生活習慣病リスクの増加といった変化が現れている。日本生活習慣病予防協会が実施した医師を対象にしたアンケート調査では、糖尿病診断の重要数値である HbA1c の数値が悪化していると回答した。-----

## ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

### フードテックに動き始めた大手食品メーカー

健康領域でも目立った動きがあった 2021 年

菊池 隆裕＝日経 BP 総合研究所 イノベーション ICT ラボ 2021.12.13

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00009/120900143/>

## ■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

### 1 日コップ 1 杯程度の牛乳摂取、日本人女性で脳梗塞予防効果の可能性 －岩手医科大

QLifePro 医療ニュース - 2021/12/13

[http://www.qlifepro.com/news/20211213/stroke-3.html](http://www qlifepro.com/news/20211213/stroke-3.html)

牛乳摂取量「少」／脳卒中発症「多」の日本人集団で、牛乳摂取・脳卒中発症リスク関連を明らかに

岩手医科大学は 12 月 8 日、岩手県北地域コホート研究の 10 年間の追跡データを用いて、牛乳摂取頻度と脳卒中発症リスクとの関連を解析し、牛乳摂取による脳梗塞予防効果を明らかにしたと発表した。この研究は、同大衛生学公衆衛生学講座の丹野高三特任教授、岩手県北地域コホート研究グループ（研究事務局：岩手医科大学衛生学公衆衛生学講座）の研究グループによるもの。研究成果は、「Nutrients」に掲載されている。-----

**関連記事**：マイナビニュース - 2021/12/9（登録無しで全文閲覧可能）

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20211209-2222460/>

### グアーガム分解物のマウスにおけるサルコペニア肥満抑制効果を発表

健康メディア.com - 2021/12/7 [https://www.kenko-media.com/food\\_devlp/archives/5463](https://www.kenko-media.com/food_devlp/archives/5463)

京都府立医科大学内分泌・代謝内科学の福井道明教授と太陽化学らによる研究グループは、グアーガム分解物が糖尿病モデルマウスのサルコペニア肥満を改善することを明らかにし、12/11～12 にオンラインにて開催の第 19 回日本機能性食品医用学会総会で発表する。-----

## 青みかんエキスの鼻アレルギー症状軽減効果に関する臨床試験結果が論文掲載

健康メディア.com - 2021/12/9 [https://www.kenko-media.com/food\\_devlp/archives/5468](https://www.kenko-media.com/food_devlp/archives/5468)

日研フードは、同社が販売している温州みかんの未熟果を原料とした「静岡県産青みかんエキス PSW」を用いて、アレルギーに関する臨床試験を行った。その結果がこのたび『薬理と治療』（vol.49 no.11）に掲載された。-----

## 脂肪燃焼体質づくりのキーワード「ケトン体」とは？

ウェルネス総研レポートオンライン - 2021/12/15 <https://wellnesslab-report.jp/1430/>

いま、ダイエット市場で「ケトン体」が注目を集め、新しいトレンドがつけられようとしています。今回はケトン体とは何か、なぜ注目を集めているのかを解説していきます。-----

## ブロッコリーなどの野菜由来成分に酵母細胞の核膜損傷効果、広島大が確認

マイナビニュース - 2021/12/13

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20211213-2226612/>

**追記：老化や神経疾患の予防に繋がるサプリメントや医薬品の開発に活かすことが期待されているようです。**

## 老化細胞（ゾンビ細胞）の謎が分かった 大阪大学教授の原英二氏に聞く

日経 BP 総合研究所 - 2021/12/8（取材・文／福島 安紀＝医療ライター）

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00043/120100006/>

**以下の8件は、リンク DE ダイエット（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）掲載記事（2021年12月8日～21日）から選定したものです。**

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

## コーヒーブレイク：カフェインが動体視力を改善する？（2021/12/8）

[https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-](https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76623&-lay=lay&-Find.html)

[Format=detail.htm&kibanID=76623&-lay=lay&-Find.html](https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76623&-lay=lay&-Find.html)

動体視力に対するカフェインの効果を調査するこの種の最初の研究で、カフェインが動く標的の気づきと検出精度を高めることが明らかになった。カナダ・ウォータールー大学の研究。カフェインは参加者の反応時間も改善したという。-----

## ビタミン D、心臓の健康にも関連か (2021/12/8)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76622&-lay=lay&-Find.html>

骨の代謝などに不可欠なことで知られるビタミン D だが、心臓の健康とも関連することが示唆された。欠乏状態の人は、そうでない人に比べて心臓病リスクが 2 倍以上だったという。南オーストラリア大学の研究。-----

## 「アンチエイジング」ダイエットのフィクションから事実を分離する (2021/12/9)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76639&-lay=lay&-Find.html>

いわゆる「アンチエイジング」ダイエットの事実とフィクションを区別し、これら食事療法が潜在的に共有しているメカニズムを明らかにしよう、という米国ワシントン大学などからのレビュー記事。-----

## ブドウは腸内細菌叢とコレステロール代謝に有益？ (2021/12/15)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76658&-lay=lay&-Find.html>

ブドウの摂取には、腸内細菌の多様性を増加させ、コレステロールを大きく減少させる効果がみられるようだ、という米国カリフォルニア大学などからの研究報告。-----

**前号の英文記事情報で、以下の記事情報としてご紹介しました。**

「Nutrients」掲載論文（オープンアクセス）：「Effect of Standardized Grape Powder Consumption on the Gut Microbiome of Healthy Subjects: A Pilot Study」

<https://www.mdpi.com/2072-6643/13/11/3965>

## RNAging : 運動が調節する非コード RNA は筋肉の老化を打ち消す？ (2021/11/15)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76674&lay=lay&-Find.html>

長鎖ノンコーディング RNA「CYTOR」の発現は、運動によって誘導されるが、齧歯類およびヒトの骨格筋の老化中に低下することを発見した、というスイス連邦工科大学ローザンヌ校からの研究報告。-----

## 植物ベースの食事は高齢者の認知障害のリスクを下げる？ (2021/12/16)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76686&lay=lay&-Find.html>

野菜や果物が豊富な食事をたくさん摂取することは、高齢者の認知障害のリスクを軽減することに関連しているようだ、というスペイン・バルセロナ大学などからの研究報告。-----

**同日発信の英文記事情報で、以下の論文情報としてご紹介しております。**

「Molecular Nutrition & Food Research」掲載論文（オープンアクセス）：「Food and Microbiota Metabolites Associate with Cognitive Decline in Older Subjects: A 12-Year Prospective Study」 <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/mnfr.202100606>

## コーヒーを飲むとアルツハイマー病のリスクが低下する？ (2021/12/17)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76709&lay=lay&-Find.html>

コーヒーをたくさん飲むとアルツハイマー病を発症する可能性が低くなるかもしれない、という豪州エディスコーワン大学からの研究報告。-----

## 環境にやさしい食事は健康にも良い (2021/12/21)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76727&lay=lay&-Find.html>

環境負荷の低い「持続可能な」食生活が、心血管疾患やがんによる早期死亡のリスクの低下といった健康上の利点にも関連していることが示された。スウェーデン・ルンド大学の大規模調査から。-----

**同日発信の英文記事情報で、以下の論文情報としてご紹介しております。**

「The American Journal of Clinical Nutrition」掲載論文：「Development of an EAT-Lancet index and its relation to mortality in a Swedish population」

<https://academic.oup.com/ajcn/advance-article/doi/10.1093/ajcn/nqab369/6427338>

以下の4件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2021年12月8日～21日）から選定したものです。

## 関節と腱のコンディショニングにおける6種アミノ酸ミックスのエビデンス（2021/12/9）

<https://sndj-web.jp/news/001593.php>

スポーツパフォーマンスを支える柱として、筋力とともに近年、関節や腱の重要性が改めて注目されている。関節や腱の柔軟性が低いと、せっかくのトレーニングをパフォーマンスへ十分に結び付けることができなかつたり、怪我のリスクが上昇してしまうからだ。筋肉のコンディショニングに加えて、関節と腱のコンディショニングもおろそかにできない。-----

他のサイトの記事を前号で紹介済みですが、より詳しくまとめられているので再度取り上げました。

## わずか24時間の不活動でも筋肉に脂質が溜まる 不活動によるインスリン抵抗性発生のメカニズム（2021/12/10）

<https://sndj-web.jp/news/001606.php>

わずか24時間の不活動が筋肉へのジアシルグリセロール（DG）蓄積を通して、骨格筋インスリン抵抗性をもたらすという研究結果が報告された。この関連には、DGを細胞内で生成する「Lipin1」という脂質代謝酵素が関与していることも明らかにされた。順天堂大学大学院医学研究科スポーツロジセンターの研究グループの研究によるもので、米国内分泌学会の「American Journal of Physiology Endocrinology and Metabolism」に論文が掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースが掲載された。-----

## ビタミンC経口摂取で急性炎症に伴う内皮機能低下を抑制される FMDとPWVでの検討（2021/12/11）

<https://sndj-web.jp/news/001608.php>

ビタミンCを経口摂取することで、急性の炎症反応に伴う血管内皮機能の低下を抑制可能とする研究結果が報告された。その有効性は、年齢にかかわらず認められるという。-----

## 筋トレ+栄養介入のサルコペニア予防の相乗効果は？ メタ解析からクレアチンの可能性が示される（2021/12/14）

<https://sndj-web.jp/news/001610.php>



筋力トレーニングに栄養介入をプラスした場合、相乗効果が発揮されて筋力トレーニング単独よりも有効性が高まるのだろうか。この疑問をシステマティックレビューとメタ解析により検討した研究結果が報告された。全体的にはネガティブな結果だが、栄養介入の方法別に検討すると、有意性が認められるものもあるようだ。-----

## ■ その他の注目研究・技術情報

### 脂肪細胞のストレス適応反応で高脂肪食への食欲が減退、肥満を改善する効果

大学ジャーナルオンライン - 2021/12/12 <https://univ-journal.jp/133270/>

徳島大学と理化学研究所の研究チームは、脂肪細胞における統合的ストレス応答経路の活性化が、高脂肪食を抑制することで、肥満を改善する効果をもつことを見出した。-----

### 運動後の筋肉損傷の有効な評価法、芝浦工業大学などが発表

大学ジャーナルオンライン - 2021/12/8 <https://univ-journal.jp/132444/>

芝浦工業大学の赤木亮太准教授らの研究グループは、静岡産業大学、エディス・コーワン大学（オーストラリア）と共同で、運動による骨格筋（筋肉の総称）の損傷程度を評価する指標として、運動1日後の最大随意等尺性収縮（MVIC）※トルクの回復率が利用できる可能性を明らかにした。-----

### 疲労メカニズムに新知見 客観的測定法の発明も(特集／疲労対策)

健康メディア.com - 2021/12/10

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15732](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15732)

疲労の原因物質は「リン酸化 eIF2 $\alpha$ 」――。疲労のメカニズムについて、慈恵医大による新たな研究結果が示された。唾液中のヘルペスウイルスの量で疲労の有無や度合いを測る方法も解明されており、疲労研究は飛躍的な進展を遂げている。-----

### 抗肥満因子 FGF21 血中濃度、朝食抜き・毎日飲酒・喫煙などの生活習慣で変化―阪大

QLifePro 医療ニュース - 2021/12/16 <http://www qlifepro.com/news/20211216/fgf21.html>

糖脂質代謝改善などの抗肥満作用を有する因子「FGF21」

大阪大学は12月9日、「朝食をあまり食べない」「毎日飲酒する」「喫煙習慣がある」などの生活習慣について、抗肥満作用を有する因子の線維芽細胞増殖因子（FGF）21の血中濃度を変化させることを発見したと発表した。この研究は、同大キャンパスライフ健康支援・相談センターの中西香織講師、瀧原圭子教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Scientific Reports」に掲載されている。-----

**関連記事**：マイナビニュース - 2021/12/18（登録無しで全文閲覧可能）

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20211218-2231382/>

## **老化細胞除去ワクチンの開発に成功、加齢関連疾患へ治療応用の可能性** **—順大ほか**

QLifePro 医療ニュース - 2021/12/15

<http://www.qlifepro.com/news/20211215/senolytic-vaccine.html>

順天堂大学は12月10日、加齢関連疾患への治療応用を可能にする老化細胞除去ワクチンの開発に成功したと発表した。この研究は、同大大学院医学研究科循環器内科学の南野徹教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nature Aging」オンライン版に掲載されている。-----

**関連報道**：マイナビニュース - 2021/12/14（登録無しで全文閲覧可能）

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20211214-2227641/>

## **老化神経幹細胞の若返りに成功、マウスでニューロン産生復活と認知機能改善—京大**

QLifePro 医療ニュース - 2021/12/20

<http://www.qlifepro.com/news/20211220/plagl2-dyrk1a.html>

**老化神経幹細胞はどこまでニューロン産生能を復活できるか？**

京都大学は12月17日、老化神経幹細胞が Plagl2 の強制発現と Dyrk1a の抑制によって若返ることを発見したと発表した。この研究は、同大ウイルス・再生医科学研究所の貝瀬峻研究員、影山龍一郎客員教授、生命科学研究所の今吉格教授、小林妙子准教授、山田真弓助教、末田梨沙同博士課程学生、朴文恵同博士課程学生、福井雅弘医学研究科博士課程学生らの研究グループによるもの。研究成果は、「Genes & Development」にオンライン掲載されている。-----

## **良く噛んで食べる必要性が科学的に解明、食後のエネルギー消費量の増加を早大が確認**

マイナビニュース - 2021/12/10

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20211210-2223638/>

## 都立大、ハエの翅の発生に関する遺伝子が長期記憶にも関与していることを発見

マイナビニュース - 2021/12/7

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20211207-2219429/>

**追記：哺乳類にも記事中の遺伝子「apterous」と同じ遺伝子が存在し、海馬（記憶に重要な脳の部位）で発現しているとのことで、ヒトにおける研究も進むかもしれません。**

## 花王、ヒトの視点・判断で肌の色や質感を予測する「Kirei 肌 AI」を開発

IoTNews - 2021/12/7 <https://iotnews.jp/archives/195039>

花王株式会社は、顔画像から切り出した小領域肌画像を、ディープラーニングで学習し、様々な肌状態のわずかな質感の違いを識別することが可能な、「肌評価 AI」を開発している。そして本日、花王のメイクアップ研究所は、「肌評価 AI」にヒトの感性を学習させ、肌の精緻な解析とヒトの視点・判断をあわせ持つ「Kirei 肌 AI」を開発したことを発表した。-----

## 昭和大学らの共同研究チームが解明 -- 老化物質 AGE が蓄積している人は転んで骨折しやすく、よく笑う人は老化物質 AGE の蓄積が抑えられる

大学プレスセンター - 2021/12/8 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-47232.html>

昭和大学（東京都品川区／学長：久光正）の山岸昌一教授（医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科学部門）は、久留米大学医学部との共同研究により、一般住民健診において、老化物質 AGE（終末糖化産物）が蓄積している人は転んで骨折しやすく、よく笑う人は老化物質 AGE の蓄積が抑えられていることを世界で初めて明らかにしました。本研究成果は、論文引用頻度の極めて高い国際学術誌『Rejuvenation Research』に掲載されました。-----

## ガラス瓶の軽量化に向けたコーティング技術のバーチャル試験を開始

MONOist - 2021/12/7 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2112/07/news012.html>

ダッソー・システムズは 2021 年 11 月 9 日（現地時間）、容器メーカーの Ardagh Group、コンサルティング会社の EXXERGY と、ガラス業界における持続可能なソリューション提供に向けた協業を発表した。ガラス瓶の強度向上と軽量化を両立させる新しいコーティング技術を開発するため、バーチャル試験を開始する。-----

## **中小製造業の IoT 活用に 5 つのキーポイントと 3 つの壁、星野物産の取り組み**

MONOist - 2021/12/14 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2112/14/news049.html>

ソラコムは 2021 年 9 月 28 日、オンラインでセミナー「製造現場の業務改善に役立つ DX / IoT の始め方」を開催。業務用 / 家庭用の小麦粉製品を手掛ける星野物産が登壇し、小麦粉製品製造装置の IoT（モノのインターネット）化で直面した課題と、それらの改善活動で重視した「5 つのキーポイント」について解説した。-----

以上